

平成 26 年度

事業報告

目 次

I 組織運営	(1)
II 重点事業	(5)
III 事業報告	(15)
【経営管理課】	
総務係	(15)
白百合福祉作業所	(25)
かたくり福祉作業所	(31)
豊玉障害者地域生活支援センターきらら	(40)
石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	(47)
【地域福祉課】	
ボランティア・地域福祉推進センター	(53)
権利擁護センターほっとサポートねりま	(64)
練馬障害福祉人材育成・研修センター	(70)
生活サポートセンター	(74)
資料	(79)

I. 組織運営

1. 法人運営

(1) 役員および評議員（平成27年3月31日現在）

区分	理事	監事	評議員
定数	15名	2名	37名
現員数	15名	2名	37名

(2) 会議関係

ア. 理事会

年月日	内容
H26.5.23	(1)平成25年度 事業報告について (2)平成25年度 一般会計・特別会計収入支出決算について (3)平成26年度 収入支出補正予算について (4)規程の改正について
H26.6.26	(1)事務局長の任命 (2)評議員の選任
H26.7.30	(1)評議員会報告および常務理事の指名 (2)平成26年度収入支出補正予算について
H26.12.8	(1)規程の制定・改正について
H27.3.30	(1)平成26年度 収入支出補正予算について (2)平成27年度 事業計画について (3)平成27年度 収入支出予算について (4)規程の制定および改正について (5)貸付金の償還免除について (6)施設長の任命について

イ. 評議員会

年月日	内容
H26.5.23	(1)平成25年度 事業報告について (2)平成25年度 一般会計・特別会計収入支出決算について (3)平成26年度 収入支出補正予算について (4)規程の改正について
H26.7.30	(1)平成26年度収入支出補正予算について (2)理事の補欠選任について
H26.12.8	(1)規程の制定・改正について
H27.3.30	(1)平成26年度 収入支出補正予算について (2)平成27年度 事業計画について (3)平成27年度 収入支出予算について (4)規程の制定および改正について (5)貸付金の償還免除について

ウ. 監事会

年月日	内容
H26.5.16	(1)平成25年度事業報告について (2)平成25年度一般会計・特別会計収入支出決算について

2. 会員・会費・寄付等の状況

(1) 会員・会費

※（ ）内は前年度との比較増減

区 分	対 象	件 数	金 額
正 会 員	個人 (年会費 500 円以上)	2,639 名 (73 名減)	2,347,300 円 (81,000 円減)
特別会員	個人 (年会費 3,000 円以上)	782 名 (1 名増)	2,613,000 円 (23,740 円増)
団体会員	町会自治会、施設団体等 (年会費 5,000 円以上)	248 件 (12 件減)	4,681,850 円 (294,500 円減)
計		3,669 件 (84 件減)	9,642,150 円 (351,760 円減)

(2) 寄 付

※（ ）内は前年度との比較増減

区 分	件 数	金 額
一 般 寄 付	233 件 (9 件減)	49,514,905 円 (10,436,266 円増)
ボランティア・地域福祉推進センター 寄付	18 件 (2 件増)	325,996 円 (11,492 円増)
計	251 件 (7 件減)	49,840,901 円 (10,447,758 円増)

※一般寄付については、区民からの遺贈 1 件 44,500,000 円が含まれている。

なお、拝受した遺贈分は、今後の需要に対応するため財源調整積立金に積み立てた。

(3) 積立金・基金

ア. 積立金

名 称	積立金額	目 的
財源調整積立金	247,393,301 円	予想できない大きな収入減、あるいは支出増に備え、年度間の財源を調整し、財源の安定を図る。
運用資金積立金	20,000,000 円	年度当初において、区の補助金等の収入が確保されるまでの間、法人運営に必要な資金に充てる。
退職給与引当金積立金	188,025,749 円	将来的な退職金の支出に備え、退職金の積立を行う。
計	455,419,050 円	

イ. 基 金

名 称	基金額	目 的
ボランティア基金 (昭和 61 年度設置)	209,389,352 円	地域福祉の向上を目指し、民間ボランティア活動の育成助成を目的とする。
福 祉 基 金 (平成元年度設置)	259,869,359 円	自主財源の確立により事業運営の安定を図るとともに、計画性ある活動の維持・推進を目的とする。
碓井ミヨシ基金 (平成 3 年度設置)	85,218,979 円	故・碓井ミヨシ氏の遺志により、高齢者福祉の向上に役立てることを目的とする。
長尾幸作基金 (平成 4 年度設置)	200,000,000 円	故・長尾幸作氏の遺志により、低所得者への修学育英資金と一時的な生活困窮者の救済のための法外援護緊急たすけあい事業を目的とする。
福祉の森の燈火基金 (平成 5 年度設置)	10,000,000 円	区民の福祉向上、特に高齢者の介護の質的・量的向上に対する助成および育成を目的とする。
計	764,477,690 円	

3. 第3次地域福祉活動計画の推進

(1) 「地域福祉活動計画策定・推進評価委員会」の開催

第3次計画の推進・評価、第4次計画の策定を目的に委員会を設置し、平成26年度は4回開催した。第3次計画の集大成として、また第4次計画策定に向け、シンポジウム「つながりのある地域をつくる～きづきあい 育ちあう 地域づくり～」を開催し、現状の到達点と次期計画の課題について地域住民と意見交換を行った（TOKYO MX テレビの取材を受け、放映。森本委員長が解説者として出演した）。また、区の地域福祉計画の策定が26年度末から27年度内に延長されたことに伴い、第4次計画の策定も地域福祉計画に合わせて進めることにした。

開催	年月日	内容
第1回	H26. 6. 6	1. 第3次地域福祉活動計画平成25年度進捗状況報告 2. 第4次地域福祉活動計画の策定に向けて 3. 報告会について
第2回	H26. 9. 3	1. 第3次地域福祉活動計画シンポジウム報告 2. 第4次地域福祉活動計画の策定に向けて ①第4次地域福祉活動計画策定構成案および体系図 ②第4次地域福祉活動計画策定スケジュール案 およびワークショップおよびウォッチャーの設置について
第3回	H26. 12. 2	1. (仮称) 住民リサーチャーについての説明 2. ワークショップ グループに分かれて小地域福祉活動を意識した取り組みを踏まえ 第4次地域福祉活動計画の策定に向けての意見交換
第4回	H26. 1. 9	1. 小地域福祉活動についてのワークショップ報告 2. (仮称) 地域福祉協働推進員の説明 3. 第4次地域福祉活動計画構成案 4. (仮称) 区政運営の新しいビジョン(素案)について ・練馬区地域福祉計画策定の進捗状況について 5. 『気づき“あい”のあるまち』の取り組みについて

(2) 「推進部会」

地域福祉活動計画の推進と評価を行うため、社協の各部署職員で構成する部会。各部署、各委員会の地域福祉活動計画の取り組みの内容や進捗状況の把握を行った。全15回。

第3次計画では、小地域福祉活動推進に伴い地域福祉コーディネーターの配置を行ったが、第4次計画も引き続き小地域福祉活動推進に取り組めるよう新たに住民の位置づけが必要と考え、「地域福祉協働推進員」の検討を行い、またモデル地区の増設も検討した。

(3) 各委員会・プロジェクトチームの活動

第3次地域福祉活動計画の推進にあたり、委員会・プロジェクトチーム(PT)を設置し推進を図った。 ※詳細はP.6【委員会・プロジェクトチーム】参照

相談業務課題調整委員会、広報委員会、実習委員会、安全対策委員会、財源PT

(4) 活動計画推進の評価

第3次計画の重点的な取り組み項目である「小地域福祉活動の推進」「人材育成の充実」の視点でモデル地区(豊玉・光が丘)や各部署で計画を推進した。計画を推進・評価する中で、「小地域福祉活動の推進」と「人材育成の充実」は相互につながりのあることを確認し、第4次計画においては、別項目に立てることなく、「小地域福祉活動推進」に包括して取り組むことにした。

4. 苦情解決制度

利用者・相談者からの苦情に対する体制を整え、利用者・相談者の権利を擁護するとともに、事業の改善と信頼確保を図るため、平成 15 年度から第三者委員による苦情解決制度を設けている。

平成 26 年度は、苦情受付担当者会議を年 4 回開催し、各部署で受けた苦情内容の情報共有を行うとともに、苦情傾向の分析を行った。また、苦情解決第三者委員及び苦情受付担当者会議を年 2 回開催し、苦情解決第三者委員に事業改善のための意見を求めた。また、苦情解決第三者委員による施設巡回を行い、施設利用者や家族からの相談を受けた。

(1) 事業実績

苦情解決第三者委員・苦情受付担当者会議

開催	年月日	内 容
第 1 回	H26. 5. 26	平成 25 年度下半期苦情報告、第三者委員福祉施設巡回報告、情報交換 他
第 2 回	H26. 11. 17	平成 26 年度上半期苦情報告、第三者委員福祉施設巡回報告、情報交換 他

苦情解決第三者委員による福祉施設巡回

白百合福祉作業所	利用者家族との懇談 1 回 (H26. 9. 19) 利用者との個別面談 1 回 (H27. 2. 24)
かたくり福祉作業所	利用者との個別面談 1 回 (H26. 8. 27) 利用者家族との懇談 1 回 (H27. 2. 10)
豊玉障害者地域生活支援センターきらら	利用者との個別面談 2 回 (H26. 7. 26、H27. 2. 28)
石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	利用者との個別面談 2 回 (H26. 7. 26、H27. 2. 28)

(2) 苦情等の内容分類

苦情	職員の接遇	7 件
	事業の進め方	58 件
	社協の事業内容	4 件
	制度	3 件
	被害・損害	1 件
	権利侵害	0 件
	その他	7 件
要望・意見	41 件	
社協事業外	11 件	
計	132 件	

(3) 苦情対応状況分類

助言	2 件
謝罪	48 件
説明	48 件
紹介・伝達	5 件
申し立て受付・他の解決制度案内	1 件
その他	28 件
計	132 件

(4) 苦情分析結果

苦情件数は平成 24 年度以降毎年 10%程度増加している。

事業や職員の増加に比例して（職員数の推移：平成 24 年 136 名、平成 25 年 139 名、平成 26 年 145 名 ※社会保険労務士、嘱託医を除く）苦情が増える傾向があり、また苦情内容も「事業の進め方」が多い。そのため課題としては、職員の事業への理解不足や、事業を理解している職員の不足が挙げられる。今後は、OJT や研修等で職員の事業への十分な理解を図るための取り組みを進める。

部署によっては「制度の確認漏れ」という重大なミスがあったため、一層の確認とそのための体制整備に取り組む。

II. 重点事業

【練馬区社協全体の取り組み】

平成 26 年度は、練馬区社会福祉協議会の全組織を上げて、地域福祉活動計画に基づき、地域福祉の向上に努めた。

1. 第 3 次地域福祉活動計画の重点的な取り組みと第 4 次地域福祉活動計画の策定

第 3 次計画の重点的な取り組みである「小地域福祉活動の推進」、「人材育成の充実」について達成状況を確認した。また第 4 次計画は、27 年度が開始年度のため 26 年度中に策定予定であったが、区の地域福祉計画が、平成 27 年度に策定と延長したため、地域福祉計画に合わせ 27 年度の策定に変更した。

「小地域福祉活動の推進」においては、引き続き地域福祉コーディネーター（社協職員）がモデル地区を中心につながりのある地域づくりを継続して行った。

「人材育成の充実」については、住民向けにボランティア講座、専門研修、社会貢献型後見人の養成研修等を開催し、継続して住民リーダーの発掘・支援を行い、福祉の担い手や協力者を増やし、地域福祉の向上をめざした。

また、3 次計画の最終年としてシンポジウム「つながりある地域をつくる～気づきあい 育ちあう 地域づくり～」を住民向けに開催し、現状での計画の取り組みの報告、今後の地域社会の方向性について「これからの日本社会の展望と地域福祉の課題」とした基調講演、区内の住民リーダーの活動報告、区地域活動支援拠点地域担当者等様々な立場からの実践報告や第 4 次計画に向けての提言を受けた。

2. 生活困窮者自立促進支援モデル事業の取り組み

生活困窮者自立支援法（平成 27 年度施行）の成立に伴い、練馬区は 26 年度からモデル事業として取り組んだ。その中で練馬区社協においては、「自立相談支援事業」、「家計相談支援事業」を受託し、生活困窮者支援をおこなった。

今まで小地域福祉活動の推進として取り組んだ実践と社協内部署の連携を図ることで、社会的に孤立した生活困窮者を発見することが課題としてあげられる。今後、地域福祉コーディネーターと連携を図ることで地域の実情や関係機関、団体等の情報から生活困窮者の情報が寄せられ支援につなげる体制作りが必要である。

生活困窮者支援の対象者の把握や生活サポートセンターの事業実施について、様々な地域福祉の関係者で構成される運営委員会を設置し、事業の進め方や課題について議論を重ね、今後の方策について検討を行った。

3. 継続した重点的な取り組み事業

「受託施設・受託事業の安定した運営」「区民本位のサービス提供と社会福祉協議会の知名度アップ」「相談業務の充実と職員のスキルアップ」に引き続き取り組んだ。

指定管理者として受託している白百合福祉作業所・かたくり福祉作業所・豊玉障害者地域生活支援センターきらら、石神井障害者地域生活支援センターういんぐの運営については、就労支援、生活支援、相談支援事業等サービスの質の向上に努めた。また、4 所合同で「情報セキュリティ対策」の研修を行い、情報セキュリティや個人情報保護についての理解を深め、意識向上を図るとともに再発防止に努めた。

受託施設においては、社協の地域拠点として継続して地域向けにイベント、講座、地域のまつり等を積極的に行い、障害者をとりまく現状への理解と社協活動の周知を促した。

練馬区及び東京都社会福祉協議会からの受託事業は、関係機関との連絡会等にも参加するなど連携を図り、着実な事業実施に努めた。

社会福祉協議会の知名度や好感度の向上については、練馬区社協のキャラクター「ネリー」の着ぐるみを増やし、地域のイベントに積極的に参加するなど周知に努めた。

【委員会・プロジェクトチーム】

練馬区社協内での各部署を越えて推進する必要がある計画・事業は、プロジェクトチーム(PT)を設置し推進を図ってきたが、継続した取り組みが必要なものは委員会組織とし、推進を図った。

1. 相談業務課題調整委員会

練馬区社協が効率的・包括的に相談を受け止め、解決していくために、組織内連携システムの構築を目指して下記の事業に取り組んだ。また拡大ケース検討会を通し、練馬区社協地域福祉活動計画で重点的に取り組む福祉人材育成への協力を行った。

(1) 「拡大ケース検討会」の定期開催

広く地域の福祉関係者に呼びかけてケース検討会を2回行ない、具体的な事例を通して、関係機関との情報共有・連携の大切さ、課題の捉え方や解決に向けた支援のあり方等を学び、相談支援のスキルアップを図った。

日時	内容	対象者	場所	参加人数
H26. 8. 21 18:30～20:50	「成人を迎える軽度知的障害のある X さんの強みを引き出し、それを踏まえて目的・意欲を持って地域生活を送るために必要な支援」(かたくり)	社協職員、 地域の福祉関係者	区役所本庁舎 地下多目的会議室	51名
H27. 2. 12 18:30～20:50	「その時々で発言の異なる A さんを尊重する働きかけについて」(ほっと)	社協職員、 地域の福祉関係者	豊玉障害者地域 生活支援センター きらら	56名

※スピーカー：神奈川県立保健福祉大学教授、東京ボランティア・市民活動センター所長 山崎美貴子氏

(2) 「障害者の暮らしをともに考える」実行委員会の活動

平成 20 年度に行なった調査(「親あるうちに障害者の暮らしをともに考える」)から分析された課題に対する取り組みを、引き続き実行委員会において行ない(実行委員会 6 回開催)、障害者支援関係者に向けた勉強会を下記の通り企画・開催した。(平成 26 年度末で終了)

日時	内容	対象者	場所	参加人数
H26. 11. 21 18:30～20:45	障害者の性・恋愛について②～現場での具体的な対応～講師：山本 良典氏	障害者サービス従事者 社協職員	区役所本庁舎 地下多目的 会議室	40名
H27. 3. 7 10:00～12:00	障害者の性・恋愛について③ ～障害者の恋愛と結婚～ 講師：渡辺芳雄・知子夫妻、鈴木俊伸氏	障害当事者・家族、 障害サービス従事者 社協職員	豊玉障害者地 域生活支援セ ンターきらら	53名

(3) 「相談解決に役立つ資源マニュアル」の改訂

「相談解決に役立つ資源マニュアル」の内容を一部改訂し、タイトルを「相談解決に役立つ資源マニュアル 練馬区社協職員向け 相談解決ナビ」に変更した。新任職員が使用することを想定し平成 26 年度にまとめ、27 年度に配布予定である。

2. 広報委員会

練馬区社協の理念、事業理解のため、練馬区社協の拠点を活かした積極的な広報活動を展開した。

(1) キャラクターを活用した広報活動の積極的な展開

増加する参加依頼や区民等からの貸し出し依頼に対応するために、バルーンタイプの着ぐるみを 1 体増体するとともに、安全に活用するため「取り扱いマニュアル」を作成した。地域イベントへ職員を派遣し、キャラクター活用と共に職員自ら積極的な広報活動に取り組み、企画段階から参加など、つながりのある広報活動を行った。(イベント参加数:主催 13 回・地域イベント 45 回(地区祭 5 カ所、練馬ファミリーまつり、練馬まつり、練馬子ども笑店街、ねりまこぶしハーフマラソン等))

(2) 職員誰もが社協を PR するための仕組みづくり

現状に合わせた機動力のある広報媒体を目指し、「社協リーフレット」を一部改訂し新規部署を盛り込んだ。「社協広報活動評価シート」をはじめ、イベントでの成果や課題を整理し共有し、次のイベントへの取り組みに活かした。次年度の広報活動が円滑に行えるよう、「委員会活動マニュアル」を作成し地域でつながりのある広報活動を展開していく仕組み作りに取り組んだ。また、広報媒体の文言を整理しマニュアルを作成し活用した。

(3) 既存の広報媒体の役割を整理し、効果的な活用を図る

- ア. 社協だよりの内容の充実や効果的な配布方法および個人情報の取り扱いについて検討し、広報委員会内のマニュアル整備を行い実用に向けた取り組みを行った。平成 27 年度の取り組みとして、第 4 次地域福祉活動計画の周知を兼ね、より多くの区民に向けて配布する事を目指して新聞折り込みを利用した配布を計画した。
- イ. 情報の速報性を重視し、HP を常に更新して最新情報の掲載を行った。各部署の情報更新を迅速かつ有効的に行うために、委員会での共有・報告等を充実させた。文面だけではなく、チラシや写真等を添付し読みやすい情報提供を心がけ、定期的なHPチェックによりサイバー攻撃等の有無を確認し安全な運営を行った。

3. 実習委員会

地域福祉活動計画に基づく「福祉の人材育成」の一環として資格取得等を目指す学生を受入れた。また、実習を円滑に効果的に実施し受入れ体制の強化ならびに環境を整えることを目的として、部署間の調整や実習受入れ担当者向けの研修を行った。

(1) 実習効果を高める取り組み

- ア. 中間グループワークを引き続き実施し、実習生の不安や疑問の整理を行うとともに、実習生の希望に応じ、可能な限りでプログラムの追加等を行った。
- イ. 養成校の実習報告会（7 校）に参加し、情報交換会で得た内容を共有し、実習受入れの質の向上に努めた。

(2) 実習生受入れ体制の強化

- ア. 実習指導者講習会の受講をすすめ、4 名の職員が受講した。
- イ. 実習受入れが決定した養成校に対し実習説明会を実施し実習内容の周知・情報交換等を行った。
- ウ. 実習受入れ担当者向けに「実習記録を考える」研修を行い、実習生への記録指導のスキルアップをはかった。

(3) 実習生の受け入れ

- ア. 社会福祉相談援助実習 18 名
- イ. 精神保健福祉援助実習 5 名
- ウ. 保育士実習 1 名
- エ. 見学実習等 3 校 4 回 55 名
- オ. 介護等体験 11 名
- カ. 地域看護実習等 8 名

(4) 新任職員向け内部研修

練馬区社協への理解をより深めるとともに、職員同士の連携強化を目的として、新任職員（主に入職 3 年未満）に対し、練馬障害福祉人材育成・研修センターと連携して研修を行った。（平成 26 年度：13 名）

4. 安全対策委員会

災害時の練馬区災害ボランティアセンター開設に向けた組織的な対応の検討や大規模災害対策対応マニュアルの整備及び社協内の情報共有を進めるため検討を行った。

(1) マニュアル・ミニマニュアルの整備と対応

大規模災害対策対応マニュアル/練馬区災害ボランティアセンター立ち上げマニュアル<基礎編>については、「練馬区社会福祉協議会大規模災害対策事業継続計画（BCP）」へ、<実務編>については「練馬区社会福祉協議会大規模災害対策練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ・運営マニュアル」に整理し、内容を見直した。BCP（事業継続計画）の策定に着手した。

ミニマニュアルについては、各部署の BCP（事業継続計画）を掲載する等改訂した。

(2) 職員向け研修の開催

日時	内容	対象者	場所	参加人数
H26. 7. 10 18:30~20:45	「災害時における社協職員の役割について」 ～ワークショップで共に考え、ともに学ぶ～ 講師：危機管理勉強会齋藤塾 塾長 齋藤實氏	社協職員	区役所本庁舎 19 階 1902 会議室	63 名
H27. 3. 6 18:30~20:45	「災害時における災害ボランティアセンターの役割と効果的な運営について」 ～避難所の運営と支援する視点を学ぶ～ 講師：東京ボランティア・市民活動センター 加納佑一氏	社協職員	区民・産業プラザ 3 階研修室 2	50 名

(3) 練馬区災害ボランティアセンター開設訓練への参加および実施

練馬区福祉部経営課と練馬区社協との合同で行う練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ訓練を前回の検証をふまえ、より効率的に実施し訓練後、参加者から感想や意見を集約した。訓練内容としては、開設手順の確認、練馬文化センター内の活用場所や備品の確認を行った。また、近隣の自治会も訓練に参加し、災害ボランティアセンターの役割と機能を周知した。

東庁舎および各部署ごとにBCP（事業継続計画）の訓練を実施した。

(4) 各部署災害用備品の確認と整備

各部署で備蓄してある災害用備品リスト一覧を作成し、全体で確認・共有した。東庁舎の部署においては各自ヘルメットを設置することとした。

(5) 地域とのつながりを意識した取り組みを検討する

各部署事業の中で、地域の災害対策に関わるイベントや避難拠点連絡会、防災訓練等に参加した。

5. 財源PT

計画的・安定的に財源を確保していくための方策を検討し、社協全体で財源獲得に向けた取り組みを強化した。

(1) 職員向け情報誌の発行「みなもと通信」の発行

職員に財源に関する情報紙「みなもと通信」を3回発行し、職員全体で練馬区社協の財政状況や課題等を確認して、財源獲得に向けた取り組みの必要性を共有した。

(2) 会員会費制度の目的と課題に対する取り組みの検討

平成24年1月にPTが設置されてからの取り組みの成果などをまとめた報告書を基に、各部署で話し合い、会員会費制度について職員への理解を促進した。

(3) 練馬区社協の財政状況の現状把握と会費加入強化月間の取り組みの推進

職員の会員加入率100%を達成し、職員一人ひとりが地域福祉への理解の促進と社協賛同者を増やすための活動を通じて安定的な自主財源確保に向けた「みなもとアクション」に取り組んだ。募金箱を設置している繋がりや、区内映画館で福祉施設の自主製品販売会が行われた。

(4) 「感謝のつどい」の実施

平成27年1月に練馬区社協会員の集い「つながろう広げようココロのわ」を開催した。この会で地域福祉推進の取り組みや社協事業の紹介をし、アンケート結果から「社協の事業の歴史がわかって良かった」「会員のメリットが伝えやすい」と大変好評であった。また、地域福祉協働推進の活動に向けて38名の協力希望が得られた。作業所自主製品の販売やネリーグッズ抽選会も盛況であった。

日時	内容	対象者	場所	参加人数
H27.1.26 14:00 ~ 16:30	社協会員の集い「つながろう広げようココロのわ」 1部：「歌でつながろう 歌で笑顔になろう」 練馬区民生児童委員混声合唱団 Wohl 2部：「笑顔のチカラ・ココロのわ」 オスマン・サンコンさんに聴いてみる福祉	社協 会員	Coconer3階区民 ホール	197名

6. 土支田の家活用検討委員会

土支田地域の戸建て家屋の寄附を受けて、6月に地域住民（町会、老人会、民生児童委員、青少年育成委員など）と活用検討委員会を立ち上げ、地域のつながりづくりの拠点となるための具体的な活用方法や運営体制について検討した。

(1) 名称

近くにどんぐり児童公園があり、土支田の地域は昔から屋敷林が多くどんぐりが取れる土地柄であることから「どんぐりの家」とした。どんぐりの実は小さいけれど夢を大きく育てたいという地域の思いが込められている。

(2) 活用のイメージ

- ・年代や性別、障害の有無などに関係なく、誰でも寄り合える場
- ・支える／支えられる関係ではなく、それぞれが役割を持ち、お互いに支え合う場
- ・町会や地域の拠点

【各部署の事業】

1. 総務係

事業	内容	実績・効果等
(1) 地域福祉活動への理解と社協の賛同者を増やす取り組み	会費・寄付・募金等自主財源の安定的な確保に向けて、住民、民生児童委員、町会・自治会、団体、施設、企業、関係者への積極的な働きかけを行い、社協事業への理解と賛同を広げる取り組みを推進した。	<ul style="list-style-type: none"> ・財源PTとともに「会員の集い」を開催した。(参加者 197 名) ・地域イベントへの参加を増やし、地域団体との協働やキャラクターを活用した練馬区社協の周知活動を充実させた。 ・街頭募金や地域イベントにおける募金活動に缶バッジやガチャガチャを活用し、子どもに関心を持ってもらうきっかけづくりを行った。
(2) 相談機能の充実	相談者に適切な情報提供を行うために、関係機関との連携や職員の専門性の向上を図るための取り組みを強化した。	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業で対応困難なケース等について職員会議内でケース検討を行い、解決方法や事業改善に向けて検討を行った。(年 6 回)
(3) 法人運営事業の強化・充実	理事会・評議員会の運営、新社会福祉法人会計基準への移行、個人情報への対応等、各部署と連携しながら事務の効率化を図るとともに、外部への情報公開に資する仕組み構築に向けて取り組んだ。 また、危機管理・安全対策の機能を充実させるべく取り組みを行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・新社会福祉法人会計基準への移行に伴いシステム・マニュアルの整備や会計事務所の顧問契約について検討する等、事務体制の整備を行った。 ・産業医の配置ならびに安全衛生委員会(年 12 回)を設置し、適切な職場環境の維持・向上に取り組んだ。 ・社会保険労務士と契約し、人事・労務事務手続きの点検を行うとともに、就業規程を見直し、労務環境の整備を行った。 ・定期的に情報セキュリティ体制の確認を行い個人情報保護を徹底した。 ・普段使用している物の中でも災害時に活用できそうな備品等を見直し、一覧を作成する等の備蓄品の整理・再確認を行った。

2. 白百合福祉作業所

事業	内容	実績・効果等
(1) 利用者支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ①年間を通して安定した作業体制を確保できるよう努めた。 ②利用者ひとりひとりが、達成感ややりがいを感じて作業に意欲的に取り組めるような支援に努めた。 ③利用者および家族が安心して生活できるよう、福祉サービス等の情報提供や関係機関との連携を行なった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①契約業者と連絡を密にし、作業が途切れないように確保するとともに、自主製品販売では新製品の開発と大口注文の受注により昨年より売り上げを伸ばすことができた(自主生産収入：前年度比 61%増)。 ②作業全体の進捗状況や見通しなど話し合う「週末ミーティング」が定着し意欲の向上につながった。 ③利用者や家族への情報提供や勉強会を実施した(4回)。
(2) 地域交流の充実	誰もが豊かに生活していける地域を目指して「ともに生きるまちづくり活動」に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ①利用者が地域で多様な活動に参加する機会として、利用者自身によるボランティア活動をすすめた。 ②福祉に関心を持つ人を増やすための福祉教育への協力や、地域住民を 	<ul style="list-style-type: none"> ①仮施設周辺でのクリーンアップ&あいさつ運動に取り組み、利用者の地域活動の充実を図った。周辺住民の、利用者や作業所への理解にもつながった。 ②利用者が講師を務め、民生・児童委員やボランティア活動に関心のある住民を対象に地域学習会を行い、ともに学ぶ機会の充実を図った(9月・3月)。

	対象とした学習会を積極的に行い、ともに学び合える機会とした。 ③利用者がより豊かに地域で生活できるよう、ボランティアを積極的に受け入れ、地域住民と相互理解を深めるよう努めた。	・体験ボランティアや体験学習、実習生を積極的に受入れた(延べ118名) ③新規のボランティアとして複数の方が活動を始めるとともに、感謝の気持ちを伝えるための「ボランティア感謝ウィーク」を実施した(2月)。
(3)大規模改修工事期間中の仮設施設における安定した運営	①大規模改修による一時移転中や改修後の環境変化に、利用者が円滑に移行できるよう支援を行った。 ②周辺住民が障害や施設について理解を深められる取り組みを行い、相互に気持ちよく過ごせる環境を整えるよう図った。	①利用者が仮設施設に慣れるまでの一定期間、職員による街頭での通所見守りを行った。 ②周辺住民等を対象として、仮設施設および改修後の本施設で施設公開を実施した(5月、6月、2月)。

3. かたくり福祉作業所

事業	内容	実績・効果等
(1) 就労移行支援事業の充実	新規支援プログラムや施設外作業を導入し、作業の幅を広げ就労を想定した支援の充実を図った。また、個別支援計画のアセスメントの見直しを行い、就労意欲向上への取り組みを行った。	・就労継続支援B型との共同作業や企業見学の紹介等において相互協力体制を図った。 ・新規企業に赴いての配架作業や地域ショップでの接客対応、ハウスクリーニング等を導入し就労に向けての体験の場が増えた。 ・個別支援計画アセスメントの見直しを行い支援に反映し、利用者の就労意欲向上につなげた。
(2) 日常業務の見直しと効率化	業務の効率的な遂行のための方法を職員で協議し見直しを行い、支援やプログラムの提供に反映した。	・利用者の支援において、職員が円滑に引き継ぎを行うため方法をシステム化した。(グループノートの様式整備、夕礼引き継ぎの実施等) ・事務分担や日常業務効率化について協議し、担当の設定方法や各種書類の書式変更を行った。
(3) 災害時対応の充実	訓練後の振り返りで挙げた課題を整理するとともに、災害時の備えを充実し、利用者の安全確保に努めた。	・災害時に円滑に避難できるように、作業室等施設環境を整備し、環境整備チェックリストを作成した。 ・災害時備品等の充実を図った。
(4) 地域との関係づくりの拡大	①福祉教育への協力を積極的に行い、福祉に関心を持つきっかけづくりを進めた。 ②地域での交流拡大に努め、顔の見える関係の構築を進めた。	①中学・高校生の職場体験やボランティア体験を積極的に受け入れた。今年度新たに近隣中学校2校が加わった。(4校27名)また中学校、高校において職業講話を行った。(2校) ②地域交流イベントにおいて地域の団体や商店、施設等にも広く声をかけ交流を図った。(8団体参加、来場者500名)。

4. 豊玉障害者地域生活支援センター きらら

事業	内容	実績・効果等
(1) 相談支援事業の充実	基幹相談支援センターの役割を意識して、地域の中核的な役割を担った。 ①障害者地域自立支援協議会専門部会を開催し、地域の課題についての具体的な検討・協議を行った。 ②家族会や地域の相談支援事業者等との連携を強化し、研修会の開催や相談支援事業についての説明会等を行った。 ③ソーシャルワーカー、医療関係者と	①年4回開催し、高齢期を迎える障害者と家族への支援の方策等を検討・協議した。 ②家族会主催の勉強会参加、他団体と共催でのSST勉強会(4回)、障害年金勉強会(1回/42名)等を行った。 ③個別支援(面接・同行支援・グループワーク)64回実施 ・地域移行支援契約:3件 ・地域定着支援契約:1件 ④関係者機関連絡会の参加、計画相談支援の

	<p>連携を密に取り、入院・入所者の地域移行と定着に向けて支援を行った（地域移行支援・地域定着支援）。地域の障害者の福祉に関する総合的な相談を受けた。</p> <p>④練馬区と連携し、保健相談所主催関係者連絡会や障害福祉サービス提供事業所への計画相談支援の説明会等を実施した。</p>	<p>説明会の講師をつとめる等の活動を通して、情報交換、計画相談の理解を深める活動を行った。</p> <p>練馬区精神障害者共同作業所連絡会 3 回、北・光が丘地区関係者連絡会 3 回、豊玉地区関係者連絡会 3 回、民間相談支援事業者等説明会 5 回</p>
(2)福祉のまちづくりへの貢献、地域福祉人材の育成	<p>誰もが住みやすい地域づくりに向け、顔の見える地域交流と関係づくりを行い、支え合いや見守り活動を推進した。</p> <p>①地域イベントへの参加・協力 ②地域貢献活動の検討・実施 ③地域の人材の発掘・育成・支援</p>	<p>①地域の 7 カ所のイベント参画し交流を深めた。（商店街振興組合、施設のイベント参加・見学等：延べ 261 名） ②花くらぶ（園芸プログラム/年 49 回）駅前・商店会、デイサービス等街の花壇を整備し美化活動を行った。 ・まちづくりや商店会の会議等参加 22 回、（街清掃、防犯パトロール等）ボランティア受け入れ延べ 395 名 ③福祉サービス従事者対象研修を 5 回実施し、福祉人材の育成に取り組んだ。</p>
(3)当事者主体の活動の支援	<p>①当事者（サポーター）が主体となり、プログラムや活動を企画し運営できるよう支援を行った。</p> <p>②ういんぐと協働で実施している退院促進事業において、入院者に向けた情報紙を年 1 回発行した他、「作業所紹介マップ」の改訂をはじめた。</p>	<p>①きらら 10 周年記念イベント、音楽を語る会等を開催し、当事者活動の充実につながった。延べ 304 名参加 ②地域生活サポーター（ピアサポーター）養成講座 毎月開催延べ 156 名参加 ・ピアサポーター活動者延べ 271 名 ・情報紙「ぴあまっぷ」の発行（年 1 回 1,200 部発行） ・「作業所紹介マップ」の改訂（毎月開催 延べ 116 名参加）</p>

5. 石神井障害者地域生活支援センター ういんぐ

事業	内容	実績・効果等
(1)相談支援事業の充実	<p>基幹相談支援センターの役割を意識して、地域の相談支援事業者と連携し、相談支援の中核的な役割を担った。</p> <p>①障害者や家族への基本相談支援（一般的な相談支援）を行い、課題解決へ向けての情報提供や助言による支援を行った。</p> <p>②障害者の望む生活の実現に向けて、サービス等利用計画の作成、モニタリング等を行った。</p> <p>③精神科病院などから地域生活への移行に向けての支援を行った。（地域移行支援・地域定着支援）</p> <p>④障害者地域自立支援協議会専門部会を開催し、地域の課題についての具体的な検討を行った。</p>	<p>①相談実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話相談 : 10,299 件 ・予約・随時面接相談 : 3,316 件 <p>利用者アンケートでは 8 割を超える方が「相談しやすい」と回答している。</p> <p>②計画相談契約 : 194 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス等利用計画作成 : 217 件 ・モニタリング実施件数 : 304 件 ・セルフプラン作成支援 : 9 件 <p>③地域移行支援事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域移行計画作成数 : 3 件 ・地域定着支援では支援できる環境を整備した。 <p>④障害者地域自立支援協議会地域移行部会：精神科病院の入院者・施設入所の障害者の地域移行・定着支援の課題について協議した。（4 回開催）</p>
(2)当事者主体の活動の支援	<p>①当事者が主体的にプログラムや活動を企画し、運営できるように支援し</p>	<p>①利用者懇談会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月定期的に話し合い、利用者の意見をプロ

	<p>た。</p> <p>②ピア(仲間)が自分たちの経験を活かし、地域で活発に活動できるよう地域生活サポーター活動を支援した。</p> <p>※「地域生活サポーター活動」はきららと協働で実施。(きらら(3)②)参照</p>	<p>グラムなどの運営へ反映させた。</p> <p>・お祭りやイベントは実行委員会形式で行い、当事者同士の交流を図るとともに主体的に課題を乗り越えられるように支援をした。</p> <p>②他区のピアとの交流会に参加するなど、区を超えて横のつながりを強化できるよう支援した。</p>
(3)福祉のまちづくりへの貢献、地域福祉人材の育成	<p>誰もが住みやすい地域に向け、地域交流と、支え合い学び合いの環境づくりを推進した。</p> <p>①地域交流や地域貢献活動を通じて互いの関係構築を図り、地域での支え合いや見守り活動を推進した。</p> <p>②障害者も同じ地域の住民であり、ともに活動する中で、福祉人材の発掘・育成に取り組んだ。また、地域生活支援センターの役割を伝える機会を設けた。</p>	<p>①園芸作業や地域の清掃活動、地域イベントへの参加(石神町会婦人部文化展、チルコロ石神井等)を通して住民との交流を図るとともに、地域の見守り活動を行った。</p> <p>②精神保健福祉講座を開催し(66名参加)、地域住民へ精神保健福祉に対する啓発を行った。また、ボランティア講座を開催し(8名参加)ういんぐのボランティア体験やグループワークを通じて当事者と交流し、障害者への理解を深めることができた。参加者は、継続したボランティアにつながっている。</p>

6. ボランティア・地域福祉推進センター

事業	内容	実績・効果等
(1)地域の課題解決を目指した取り組み	<p>①小地域福祉活動推進のモデル地区で住民が主体となり地域課題の共有、解決ができるよう取り組みの充実を図った。</p> <p>②ボランティア活動推進のノウハウを活かし地域福祉活動推進に取り組み、住民や団体と協力して地域の課題解決を目指し取り組んだ。</p> <p>③ボランティア・NPO等の市民活動に関する多様化した相談に対応した。</p>	<p>①地域福祉コーディネーターと住民が中心となり、関係団体懇談会等の開催や関係機関等との情報交換をとおして、課題の整理や解決に向け取り組んだ。</p> <p>4年目を迎えるモデル地区の取り組みの振り返りをし、今後に向けての検討を行った。</p> <p>②ボランティア活動のコーディネートをとおして住民や団体と連携し、地域課題の解決に向け取り組んだ。</p> <p>地域の活動者を増やし、活動団体を活性化することで地域の課題解決力の向上に努めた。</p> <p>③ボランティア・NPO等の市民活動に関する多様化した相談に応じ、必要な情報の収集、発信を行った。</p> <p>研修やOJTの充実を図るとともにスーパービジョンを再導入し職員のさらなる資質向上に努めた。</p>
(2)災害時に備えた取り組み	<p>①「練馬区災害ボランティアセンター」運営に備え、行政・関係機関・地域団体等と連携し訓練を実施した。</p> <p>②災害発生時に備え、行政・関係機関・地域団体等とのネットワーク構築を図った。</p> <p>③「練馬区災害ボランティアセンター」の機能と役割の周知を図った。</p>	<p>①「練馬区災害ボランティアセンター」の運営に備え、行政との打ち合わせを2回行い、また、事前に練馬文化センターの視察も行い訓練を1回実施した。</p> <p>②③災害ボランティアの発掘・育成に向けて防災課と情報交換等を2回行った。また、練馬文化センター近隣の自治会や避難拠点連絡会等で「練馬区災害ボランティアセンター」の役割・機能の周知を延べ6回行った。</p>
(3)東日本大震災避難者に対する取り組み	<p>避難者の動向に合わせた支援を行った。</p>	<p>東京都が実施したアンケート調査を基に動向把握をするとともに個別訪問等(延べ96件)をとおして他機関等との連携や区内外の情報提供を行った。</p>

7. 権利擁護センターほっとサポートねりま

事業	内容	実績・効果等
(1) 成年後見制度の広報周知・利用支援機能の強化	地域住民や関係者と連携し、わかりやすい情報提供を行うと共に、必要な人へ制度が行き渡るよう、周知普及の強化を図った。また、福祉・法律等の専門家や関係機関、地域住民等とのネットワークを強化し、相互に連携、協働する仕組みやシステム体制の充実を図った。	①依頼を受けた団体の構成や要望等を確認し、事前打ち合わせ等を行い、ニーズに合わせた資料や情報等を準備して、より制度理解が深まるための説明会や勉強会を開催した。 ②職員が練馬障害福祉人材育成・研修センターや練馬介護人材育成・研修センターの講師を担当し、支援者への制度に対する周知を図った。また、家族会等への出張説明会の依頼を受け制度の普及のための取り組みも行った。 ③成年後見ねりま地域ネットワーク会議において、情報共有や制度の課題についての検討を続けることにより、会議時に限らず相談体制を取り合う等連携が深まり、ネットワーク機能の強化が図られた。 ④増加している成年後見制度関係の業務に対応するため、業務体制に関する検討を行い、来年度以降も慎重に検討を進めることとした。
(2) 社会貢献型後見人の養成・支援体制の再構築	東京都からの事業移管に伴う、区独自の社会貢献型後見人養成事業の開始にあたり、改めて社会貢献型後見人についての周知を行った。また、養成および後見受任後の活動を支援するための仕組みを再構築し、機能の充実を図った。	①より効果的な研修を目指し、2部構成のカリキュラムを取り入れ後見業務の理解を深める取り組みを行った(19名参加)。 ②社会貢献型貢献人の意義や役割について、より多くの住民に理解していただくため、受任経験者による活動報告会を行った(44名参加)。 ③緊急時の相談対応可能な連絡先の設定や、必要時には定期的な訪問同行を行うなど、状況に合わせた柔軟なフォロー体制で取り組んだ。
(3) 福祉サービス利用援助事業推進の充実と周知普及の強化	個別相談ケースへの取り組みや実践を通し、小地域福祉活動の取り組みを行った。また、必要としている人に事業が行き渡るよう、周知普及の強化を図った。	①民生委員や町会・自治会の役員などに、支援者としてケース会議等への参加協力を依頼し、利用者を見守る地域の仕組み作りを行った。 ②災害時対応、関係機関との連携について検討し、利用者宅の避難場所確認など、実行可能な点より取り組みを開始した。 ③職員が練馬障害福祉人材育成・研修センターや練馬介護人材育成・研修センターの講師を担当し、支援者への事業の周知を図った(3回実施)。また、家族会等への出張説明会の依頼を受け制度の普及のための取り組みも行った(11回実施)。

8. 練馬障害福祉人材育成・研修センター

事業	内容	実績・効果等
(1) 学習支援事業	区内障害サービス提供事業所のサービスの向上を目指し、研修内容の充実や障害福祉サービス従事者が受講しやすいよう開催日程や時間の工夫を図った。また、障害者の高齢化を見据え介護保険サービス事業所にも参加してもらおうよう介護人材育成・研修センターとの連携強化にも努めた。	研修受講後のアンケート結果から、研修内容に対して参加者の満足度は高かった。 ・基礎研修 49回実施 ・階層別研修 32回実施 ・啓発研修 2回実施 ・介護人材育成・研修センターとの共催研修 2回実施 ・介護人材育成・研修センター相互受講研修を実施 ・事業所のニーズ把握のためのアンケートを区内

		事業所 317 か所に実施
(2) 連携支援事業	<p>新たな地区を選定、実施し地域連携の拡充を図った。</p> <p>また、「練馬のリーダーを育てる！リーダー養成研修」受講者を対象に研修修了後も情報交換会を行い、地域を超えた職員別の連携支援として環境づくりに着手した。</p>	<p>各地域で顔の見える関係を作ることができ、共通の課題やテーマを話し合い、課題に即した勉強会や、事業所間で体験研修を行うなど連携が強化された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊玉・練馬地区 情報交換会 4回・研修会 2回実施 ・西大泉・南大泉地区 情報交換会 5回実施 ・石神井地区 情報交換会 5回・研修会 2回 見学会 1回実施 ・リーダー養成研修修了者対象 情報交換会 4回実施
(3) 内部職員に向けた中堅職員研修の企画・実施	<p>業務を通して課題やニーズを認識し。自らの業務に対する意義を高め、中堅職員に求められる知識・技術・計画力・表現力等を身につけるよう中堅職員研修を企画・実施した。</p>	<p>中堅職員向け研修の体系化をはかり、中堅職員研修を2回実施した。</p> <p>第1回テーマ講義「生活サポートセンター事業説明」ディスカッション「社協として事業をする意義」</p> <p>第2回テーマ講義「メンタルヘルス不全を予防する力をつける」</p>

9. 生活サポートセンター

複合的な課題を抱え経済的にも困難を抱える方が、課題解決できるように区や関係機関と連携し、相談支援を行った。生活困難者の支援を行っている様々な分野の関係者で構成する運営委員会を立ち上げ、地域課題の共有や情報交換等を行い生活困難者を支える地域づくりについて検討した。また、生活困窮者自立促進支援モデル事業を受託し、相談支援を行う中で平成27年度に施行される生活困窮者自立支援法へ向けた仕組みづくりを行った。

Ⅲ. 事業報告

【経営管理課】

法人運営機能の充実及び指定管理施設の安定的な運営を目指した事業に取り組んだ。

【総務係】

総合的な窓口として寄せられた相談に対応し、関係部署への連絡調整を行うとともに、練馬区社協を円滑に運営できるように法人運営全般の業務を行った。

1. 広報・情報提供事業

(1) 広報誌『社協だより』の発行

No.	発行月	発行部数	配布先	掲載内容
148	7月	27,000部	社協会員、町会自治会、民生児童委員、福祉施設団体、学校、行政機関他	①会員募集②平成26年度事業計画・予算③平成25年度事業報告・決算④地域福祉団体紹介⑤寄付者紹介他
149	11月	58,000部	社協会員、町会自治会、民生児童委員、福祉施設団体、学校、関係行政機関他 ※全戸配布の試みの一環として発行部数を増やして一部地域に各戸配布した。	①会員の集い開催について②赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動募金協力依頼③地域での学び合い(人材育成)④ネリーが行く!!⑤地域福祉団体紹介⑥助成団体紹介・助成事業案内⑦シンポジウム報告⑧寄付者紹介他
150	3月	27,000部	社協会員、町会自治会、民生児童委員、福祉施設団体、学校、関係行政機関他	①震災後の社協の取り組み報告②共同募金協力お礼・報告③生活サポートセンター開設案内④会員の集い報告⑤地域福祉団体紹介⑥寄付者紹介他

(2) 区広報誌『ねりま区報』による情報提供

掲載内容
練馬区社協事業紹介、会員募集
助成事業説明会の案内
赤い羽根共同募金 協力依頼・実績報告
在宅サービス事業 講演会・調理講習会案内
歳末たすけあい運動募金 協力依頼・実績報告・配分助成事業申請団体募集
福祉有償運送運転者講習会案内
福祉作業所でのイベント
NPO研修、ボランティア講座

(3) リーフレット・社協ガイドブックの活用

各種イベントの際にリーフレット等を配布し広報に努めた。

(4) ホームページを通じての情報提供

練馬区社協ホームページを随時更新し、福祉作業所でのイベント、研修・講座、地域のお祭り等の開催、募金活動の協力依頼・報告、各部署広報誌、民間助成金情報、職員募集等について情報提供を行った。

(5) オリジナルキャラクターの活用

練馬区社協への理解を深めるために、オリジナルキャラクター「ネリー」を各種広報誌等に掲載するとともに、オリジナルグッズの作成・販売・配布を行った。

(6) 各種イベントへの参加

地域で行われるイベントや他団体主催のイベントに参加し、練馬区社協事業の普及とPRを行った。
(詳細はP.6 2. 広報委員会 参照)

2. 連絡調整事業

(1) 連絡調整

ア. 民生児童委員協議会への出席

民生児童委員協議会の正副会長会(毎月1回、8月・1月を除く計10回)及び、20地区の民生児童委員協議会(各地区毎月1回、8月・1月を除く計200回)に出席し、社協からの連絡・依頼・報告・情報提供を行った。

- イ. 関係行政機関・施設・団体等との連絡調整
必要に応じて随時、情報交換・調整等を行い、連携を図った。

3. 相談援助事業

(1) 相談件数実績 10,630件 (平成27年3月31日現在)

相談者への適切な情報提供、関係機関との連携、職員の専門性向上に向け職員間で共有をはかった。相談者は主に各種事業の新規・継続相談を希望する区民のほか、実習生の受け入れについて大学・専門学校等からの問い合わせも多く寄せられた。また、各事業について民生児童委員や町会連合会、福祉事務所・ハローワーク等の関係機関と連絡調整を行った。相談内容の内訳としては例年通り貸付事業の相談が最も多く、全体の64%を占めた。

ア. 相談方法

(単位：件)

相談方法	電話	来所	メール・FAX	訪問	計
相談件数	8,389	2,074	139	28	10,630

イ. 相談内容

相談内容	相談の内訳	件数
地域福祉事業	チェアキャブ、募金、寄付、会費、広報誌、助成金など	1,465
在宅サービス	在宅サービス、ショートステイなど	774
貸付事業	生活福祉資金、総合支援資金、臨時特例つなぎ資金、緊急小口資金、不動産担保型生活資金、生活安定応援事業、法外援護緊急たすけあい資金など	6,828
協力依頼	名義使用、企画協力、実習生の受入れなど	189
情報提供	他部署事業や社協以外の行政・民間サービス等についての問合せなど	1,110
心配事、その他	他部署へのつなぐ電話、心配事相談など	264
合計		10,630

4. 募金活動

(1) 歳末たすけあい運動募金

町会連合会・民生児童委員協議会・社会福祉協議会の三者が共催し、その他関係諸団体および区民の協力に基づき、共同募金運動の一環として、地域福祉活動の充実と福祉のまちづくり推進を目的に実施した。

ア. 主催 東京都共同募金会

イ. 共催団体 練馬区町会連合会、練馬区民生児童委員協議会、練馬区社会福祉協議会

ウ. 実施時期 平成26年12月(1ヶ月間)

エ. 事業内容

(ア) 募金実績

a. 募金額 14,482,269円 (前年度 14,741,364円)

b. 募金件数 263件 (内訳：町会・自治会132件、団体15件、個人45件、民生児童委員13件、その他6件、募金箱37件、街頭募金15か所)

(イ) 配分内容

a. 小学校新入学児童祝品贈呈事業 1,739,000円

福祉ニーズを持つ小学校新入学児童を対象に入学祝い品としてランドセルを贈呈した。

(対象者74名)

b. 平成27年度地域福祉活動費 11,887,269円

平成26年度に集められた寄付金を平成27年度の地域福祉活動費として配分する。

(内訳) 福祉団体助成事業4,800,000円、NPO・ボランティア活動推進事業3,000,000円、広報啓発に関する事業等2,037,269円、成年後見制度支援事業950,000円、法外援護緊急たすけあい事業300,000円、チェアキャブ運行事業200,000円、小地域福祉活動事業300,000円、在宅サービス交流・研修事業150,000円、相談業務課題検討事業150,000円

c. 事務費 856,000円

募金封筒やポスター作成費用など、募金活動に関わる事務費として活用した。

- (ウ) 街頭募金 236,987 円 (前年度 246,359 円)
 - a. 実施日 12月1日、5日、8日、11日
 - b. 実施場所 練馬駅、石神井公園駅、大泉学園駅、江古田駅、光が丘駅、中村橋
 - c. 協力団体 12 団体
練馬家族会、大陽ステルススプリング(株)、光が丘地区連合協議会、光が丘興産、えごのみ、練馬区水泳連盟、友和会、シンプルライフ、NPO 法人これから、健生会、練馬区身体障害者福祉協会、石神井冒険遊びの会

- (エ) 募金箱の設置 51,299 円
区内公共施設など 37 か所に募金箱を設置し、区民に募金活動の周知と参加を呼びかけた。

(2) 赤い羽根共同募金

東京都共同募金会の協力組織として、町会連合会・民生児童委員協議会・練馬区社会福祉協議会の三者で共同募金練馬地区協力会を構成し、募金活動（各戸募金・街頭募金）を実施した。

- ア. 主催 東京都共同募金会
- イ. 実施主体 練馬地区協力会
- ウ. 実施時期 平成 26 年 10 月～12 月 (3 ヶ月間)

エ. 事業内容

(ア) 募金実績

- a. 募金額 9,084,371 円 (前年度 9,597,343 円)
- b. 募金件数 261 件 (内訳：町会・自治会 113 件、団体 1 件、個人 6 件、民生児童委員 10 件
募金箱 102 件、街頭募金 15 か所、イベント 11 件、その他 3 件)

(イ) 配分内容

- a. 東京都共同募金会納付金 9,084,371 円
東京都共同募金会へ募金額全額を納付後、都内の民間福祉施設等に配分された。練馬区内の福祉施設への配分については、「練馬地区配分推せん委員会」における審査・推せんに基づき配分された。
- b. 小地域活動費 544,713 円
町会・自治会の事業に活用し、地域の福祉活動を推進するために、募金額の 8%を限度に配分した。(申請件数 50 件)

(ウ) 街頭募金 236,275 円 (前年度 241,347 円)

- a. 実施日 10月1日、6日、10日、17日、24日
- b. 実施場所 練馬駅、中村橋駅、石神井公園駅、大泉学園駅、武蔵関駅、光が丘駅
- c. 協力団体 5 団体
練馬家族会、大陽ステルススプリング(株)、光が丘地区連合協議会、シンプルライフ、友和会

(エ) 募金箱の設置 115,977 円

区内公共施設など 102 か所に募金箱を設置し、区民に募金活動の周知と参加を呼びかけた。

5. 地域福祉事業

(1) チェアキャブ運行事業〔練馬区補助事業〕

区内在住の車いす利用者の外出・社会参加等を促進するために、3 台のリフト付車両を運行した。

- ア. 自家用有償旅客運送登録（種別：福祉有償運送）の有効期間：平成 25 年 6 月 22 日から平成 28 年 6 月 21 日まで

- イ. 利用登録会員数 113 名 (うち平成 26 年度新規登録会員数 28 名)

(ア) 利用登録会員の状況

(単位：人数)

	身障手帳	介護認定	重複
内 訳	1 級 73	介 1 6	介 1 身 1 3
	2 級 14	介 2 13	介 2 身 1 6
	3 級 5	介 3 16	介 3 身 1 5
	4 級 3	介 4 15	介 4 身 1 8
	5 級 1	介 5 18	介 5 身 1 15
			その他重複 14
合 計	96	68	51

ウ. 運行実績

(ア) 利用件数

(単位：件)

区分	予約申込	利用	キャンセル	利用不能
件数	1,130	1,017	19	94

※「キャンセル」は、利用者の都合により運行を中止したもの。

(イ) 利用内容

(単位：件)

区分	利用	利用目的		運行方法		運行範囲		
		通院	その他	往復	片道	区内	都内	都外
件数	1,017	748	269	54	963	220	753	44

エ. 福祉有償運送運転者講習会

(ア) 講習の種類

- a. 福祉有償運送運転者講習
- b. セダン等運転者講習

(イ) 実施回数

	第1回	第2回	第3回
実施日	6月7・8日	9月14・15日	11月8・9日
修了者人数	12名	7名	8名

(2) 助成援護事業

地域の民間福祉団施設・団体が行う様々な活動を積極的に支援するため、以下の事業を行なった。

ア. 助成事業

(ア) 喫茶コーナー『我夢舎楽』運営委員会へ運営費助成〔練馬区補助事業〕

- a. 助成金額 2,204,790円

(イ) 助成事業

- a. 歳末たすけあい配分助成事業〔歳末たすけあい運動募金地域福祉活動費活用事業〕

(a) 助成総額 4,480,000円

(b) 申請事業数 45事業(助成決定44事業、内1事業は決定後辞退、1事業は助成見送り、)

<助成団体内訳>

(単位：円)

施設・団体名	助成金額	施設・団体名	助成金額
しあわせ福祉ネット・関	20,000	練馬パーキンソン病友の会	80,000
練馬区生涯学習団体グリーンハウス	160,000	練馬水泳連盟	80,000
音楽工房のあ	50,000	ねりえいサークル	120,000
地域福祉おたすけ隊	140,000	成年後見推進ネットこれから	50,000
総合型地域スポーツクラブ平和台	120,000	保育サービスぽてと	180,000
練馬松の実会 松の実事業所	160,000	むすび	160,000
練馬精神障害者家族会	60,000	練馬区視覚障害者福祉協会	80,000
日本ダウン症協会東京練馬支部 ちゅうりっぷの会	160,000	白い箱の会	120,000
点訳・音声訳集団 一歩の会	70,000	べるはうす	90,000
お茶の間ネット	90,000	つくりっこの家	80,000
ランチとお話を楽しむ会	50,000	表現クラブがやがや	50,000
子どものための音楽療法サークル 「音の輪」	160,000	えごのみ	100,000
びすけっと	40,000	ごたごた荘	40,000
健生会	150,000	福島こども保養プロジェクト・練馬	60,000
ねりま子育てネットワーク	120,000	スポーツクラブホワイエ上石神井	90,000
日本夢教育協会	80,000	大泉風の会	160,000
石神井・冒険遊びの会	160,000	練馬区障害者通所施設 合同運動会実行委員会	240,000
練馬健康連絡会	60,000	東京コミュニティミッドワイフ活動 推進協議会	160,000
練馬断酒会	120,000	練馬認知症支援「オレンジの会」	10,000

立野冒険遊びの会	160,000	練馬認知症支援ネットワークの会	60,000
練馬区要約筆記サークルさくら会	50,000	練馬手をつなぐ親の会、未来・ねりま ねりま事業所、豊玉西町会	240,000
南田中のまちを考える会	50,000		

b. 歳末たすけあい運動推進委員会における平成 27 年度助成事業配分審査会の開催
平成 27 年度歳末たすけあい配分助成事業の申請を受け、審査を行った。

- (a) 審査日時 平成 27 年 2 月 27 日 書類審査及びプレゼンテーション審査
(b) 審査内容

事業名	申請事業	申請金額	助成事業	助成金額
福祉団体助成事業	44 事業	6,030,000 円	42 事業	4,410,000 円

c. 赤い羽根配分助成事業

- (a) 助成総額 5,518,000 円
(b) 申請事業数 35 事業（助成決定 35 事業、内 1 事業は辞退）

<助成団体内訳>

施設・団体名	助成金額	施設・団体名	助成金額
練馬和光保育園	220,000	たんぼぼ	200,000
リブ女性ハウス	300,000	大泉地域の医療と福祉を考える会	200,000
クラブハウス「シンプルライフ」	70,000	ねりま事業所	300,000
松の実事業所	300,000	友和会	140,000
練馬つばさ荘	40,000	総合型地域スポーツクラブ平和台	100,000
笑和の家	18,000	むすび	210,000
誠寮	100,000	喫茶コーナー我夢舎楽	70,000
練馬第一寮	50,000	ねりま第二事業所	300,000
日本ダウン症協会 東京練馬支部 ちゅうりっぷの会	170,000	練馬区視覚障害者福祉協会	200,000
子どものための音楽療法サークル 「音の輪」	50,000	大泉にじのいろ保育園	130,000
ほっとすぺーす練馬	300,000	南大泉にじのいろ保育園	170,000
グループホーム石神井台	100,000	ありんこぼてと	40,000
いずみ保育園	180,000	えごのみ	80,000
ひかりの会	140,000	すのうべる	140,000
練馬リハビリ友の会	160,000	べるはうす	300,000
幼児教室 とことこ	300,000	あっとほーむ	80,000
すまいるワクワク	60,000	つくりっこの家クラブハウス	300,000

d. 東京都共同募金会練馬地区配分推せん委員会における平成 27 年度赤い羽根配分助成事業
配分推せん審査会の開催

平成 27 年度赤い羽根配分助成事業の申請を受け、内容を審査し東京都共同募金会に推せんした。

- (a) 審査日時 平成 26 年 12 月 22 日 書類審査及びプレゼンテーション審査

e. 助成事業説明会の開催

平成 27 年度助成事業について、区内地域団体や施設を対象に説明会を開催した。

- (a) 開催日時 平成 26 年 9 月 9 日、平成 26 年 9 月 17 日

イ. 中央競馬馬主社会福祉財団助成事業

財団へ申請する NPO 法人に対し 1 件の推薦状作成を行なった。

施設名	備品名等	申請金額	自己負担額	事業費計
Hot Job	軽車両	1,000,000 円	350,000 円	1,350,000 円

ウ. 名義使用承認

施設・団体が行う講演会・イベント等の広報物等に練馬区社協の名義を使用することに対して申請を受け付け、その趣旨と内容を勘案した上で承認を行い、事業の広報活動等に協力した。

(ア) 協賛名義(職員の派遣・直接的な協力なし) 申請件数 22件 承認件数 22件

主催団体名	内容
練馬健康連絡会	第9回春の健康フェスティバル
(株)新都市ライブ	光が丘 IMA「フラワーチャリティ」
東京土建一般労働組合練馬支部	第37回住宅デー
首都圏建設産業ユニオン練馬支部	第37回住宅デー
NPO 法人保育サービスぽてと	第8回おいでおいであそぼー「ぽてとまつり」
練馬精神障害者家族会	平成26年度第1回交流会
キャンディープロジェクト	「僕の後ろに道はできる」上映会
練馬手をつなぐ親の会 豊玉西町会・未来ねりま	第31回納涼福祉盆踊り
練馬精神障害者家族会	第2回交流会勉強会
練馬手をつなぐ親の会	「知的障害者のための成年後見制度」
練馬区視覚障害者福祉協会	アイルランドからの風
あかねの会	第17回心の鐘コンサート
NPO 法人練馬区水泳連盟	第17回ノーマライゼーション水泳フェスティバル
練馬区母子寡婦福祉連合会	第58回練馬区母子寡婦福祉大会クリスマス子ども祭
ねりま光が丘地域活性化プロジェクト実行委員会	ねりま光が丘 Hikari-Project-Festa-2014&15
NPO 法人新座子育てネットワーク	なかまほいく@大泉こそだてひろば
練馬手をつなぐ親の会	楽しいクリスマス会
練馬区生涯学習団体グリーンハウス	東日本大震災復興支援チャリティーリサイタル
ねりま光が丘地域活性化プロジェクト実行委員会	ねりま光が丘 Cherry-Blossom Festa2015
第47回全国保育団体合同研修会実行委員会	第47回全国保育団体合同研修会
練馬健康連絡会	第10回春の健康フェスティバル
保育サービスぽてと	第9回おいでおいであそぼー「ぽてとまつり」

(イ) 後援名義(職員の派遣あり) 申請件数 17件 承認件数 17件

主催団体名	内容
有限会社ぬばたま	美容チャリティー
練馬区障害者通所施設合同運動会実行委員会	練馬区障害者通所施設合同運動会
練馬アーケード商店街	第4回こども笑店街
NPO 法人成年光推進ネットこれから	シンポジウム
認知症支援ネットワークの会	認知症フォーラム
石神井公園商店街振興組合	チルコロ石神井
「地域をつくる」上映会 IN ねりま実行委員会	「風の舞～闇を拓く光の詩～」上映会
障害者フェスティバル実行委員会	2014年度障害者フェスティバル
東京石泉ライオンズクラブ	第4回福祉音楽祭 in ねりま
「地域をつくる」上映会 IN ねりま実行委員会	「風の舞～闇を拓く光の詩～」上映会
ねりま子育てネットワーク	第8回ねりま子育てメッセ
光が丘 J-CITY アート展実行委員会	光が丘 J-CITY アート展
NPO 法人練馬明るい社会づくりの会	第18回練馬ファミリーまつり
石神井公園商店街振興組合	チルコロ石神井
東京石泉ライオンズクラブ	東京石泉ライオンズクラブ福祉音楽祭 in ねりま
練馬笑店街実行委員会	ねりま笑店街
有限会社ぬばたま	第10回美容チャリティー

エ. 赤い羽根運動募金A配分・民間財団助成事業申請のための社協推薦

民間施設・団体が、赤い羽根運動募金A配分・各種財団助成金を申請する際必要となる社協の推薦意見書を作成し、当該施設・団体の事業運営のための財源確保を支援した。

(ア) 赤い羽根運動募金A配分 3件

(イ) 公益財団法人和証券福祉財団 2件

(3) 在宅サービス事業〔練馬区補助事業〕

区内在住で日常生活を営むうえで手助けを必要としている低所得の方に有償で家事援助や介護援助を行った。

ア. 協力員の登録状況（平成 27 年 3 月 31 日現在）

男 性	女 性	合 計
14 名	130 名	144 名

※平成 26 年度中の新規登録者 16 名
（昨年度 10 名）

イ. 家事・介護援助サービス実績

事業名	内 容	実施規模	人数
新規相談者数	職員が電話や窓口で新規に相談、訪問等を行った。	64 件	
家事援助サービス	協力員が掃除、洗濯、買い物等の家事援助を行った。 (1 時間 700 円/1,000 円)	2,505 時間	利用者 65 名
介護援助サービス	食事、排泄、入浴等の介護援助および認知症高齢者の介護援助を行った。(1 時間 1,000 円/1,300 円)	340 時間	利用者 6 名
サービス併用利用	家事援助サービス・介護援助サービスを併用利用		利用者 1 名
計		2,845 時間	72 名

※サービス提供回数…1,736 回

ウ. 在宅サービス関連事業

事業名	内 容	対象施設	対象・参加人員等
有料老人ホーム短期入所サービス	一時的な宿泊施設として、短期有料老人ホームを割引斡旋した。	18 施設	登録者 13 名 利用者 1 名 延 6 泊

エ. 協力員の研修等

事業名	内 容	参加者
第 1 回 介護実技講習	協力員・区民を対象に、『よりよい介護のために…高齢者支援に役立つ知識と技術を学ぶ』と題して、日本赤十字社から生活支援講習指導員を招き、介護技術の向上を図った。	協力員 10 名、区民 13 名
日帰り研修	協力員の福祉に関する知識の拡充と交流を目的とし、医療法人群馬会 赤城高原ホスピタル（依存症専門病院）で研修を行った。	協力員 16 名
第 2 回 介護実技講習	『いざという時、私にもできる～避難所生活から役立つ技術を学ぶ～』と題し、避難所生活の中で、身近なものを活用し、役立つ技術や、避難所生活が高齢者に及ぼす影響を学んだ。	協力員 20 名、区民 5 名
調理講習会 交流会	地域のボランティアグループ「食のサポーターねりま」の協力のもと、調理講習会「わかわか かむかむ 元気ご飯」を 2 回実施した。	2/6 協力員 5 名、区民 10 名 2/18 協力員 7 名、区民 12 名

オ. 通信等

事業名	内 容	実施規模	対象・参加人員等
すまいる通信の発行	研修の内容・日程を通知し、協力員の活動や利用者とのふれあい等を周知した。	4 回	各 615 回部

(4) 実習生受入れ

社会福祉士実習、精神保健福祉士実習、見学実習等の社協組織としての受入れ事務（学校関係者等との連絡調整や契約）を総括し、円滑な実習受け入れに努めた。

6. 各種資金の貸付及び償還事務

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯に対し、その世帯の生活の安定と経済的な自立を図ることを目的とした資金の貸付と必要な相談支援を行った。

平成 26 年度中では、生活福祉資金は例年通り教育支援資金の相談が多かった。教育支援資金の決定件数も昨年度の 61 件から 100 件と 1.6 倍になった。その他生活保護世帯のエアコン購入費用や国民年金後納分の貸付、障害者世帯の自動車購入費用等の貸付、低家賃住宅への転居費用の貸付等を行った。生活保護世帯のエアコン購入費用の貸付は、生活保護法改正に伴って、生活保護受給世帯の生活必需品の購入に必要な費用としての変更があった。学習塾の費用や高校・大学等の受験料の貸付を行う受験生チャレンジ支援貸付は年々貸付件数が増加しており、制度の認知度が上がってきていることがうかがえる。

(1) 生活福祉資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

低所得者世帯・障害者世帯・高齢者世帯の自立支援資金として、民生児童委員の調査・協力を得て、相談・貸付・償還事務を行った。

ア. 貸付実績

(ア) 貸付決定件数 129 件 (うち全額辞退者 8 名) ※昨年度 83 件

(イ) 貸付決定金額 155,356,738 円 (全額辞退者含む) ※昨年度 94,055,370 円

資金種類	件数	貸付決定額
教育支援資金	100 件	140,615,000 円
福祉資金	20 件	13,856,738 円
緊急小口資金	9 件	885,000 円
合計	129 件	155,356,738 円

イ. 償還実績

(ア) 償還率 81.30% (現年度)

(イ) 償還完了件数 58 件 (平成 26 年度末債権数 1,150 件)

(ウ) 償還金支払免除 3 件

(エ) 延滞利子支払免除 1 件

ウ. 生活福祉資金調査委員会の開催

年月日	内 容
H26.7.28	①調査委員会の役割について ②平成 25 年度 生活福祉資金実績報告 ③生活福祉資金償還免除対象者選定の経過報告 ④東京都社会福祉協議会との合同会議 について ⑤生活保護受給世帯の生活必需品等の購入に必要な費用の貸付について
H27.3.2	①生活福祉資金償還免除対象者選定について ②生活困窮者自立支援度との連携について

(2) 離職者支援資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

失業により生計の維持が困難となった世帯に対して、再就職までの生活資金貸付を行う制度の償還事務を行った。(平成 21 年 9 月末で離職者支援資金貸付事業は終了)

ア. 償還実績

(ア) 償還率 59.79% (現年度)

(イ) 償還完了件数 1 件 (平成 26 年度末債権数 58 件)

(ウ) 償還金支払免除 1 件

(エ) 延滞利子支払免除 1 件

(3) 総合支援資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

失業等、日常生活全般に困難を抱えており、生活の立て直しのための継続的な相談支援(就労支援、家計指導等)を必要とし、貸付を行うことにより自立が見込まれる世帯に対しての生活資金等貸付制度として、相談・貸付・償還事務を行った。

ア. 貸付実績

(ア) 貸付決定件数 3 件

(イ) 貸付決定金額 1,870,000 円

資金種類	件数	貸付決定額
住宅入居費	0 件	0 円
一時生活再建費	0 件	0 円
生活支援費	3 件	1,870,000 円
合計	3 件	1,870,000 円

イ. 償還実績

(ア) 償還率 80.48% (現年度)

(イ) 償還完了件数 7件 (平成26年度末債権数234件)

(ウ) 償還金支払免除 2件

(4) 生活復興支援資金

東日本大震災に伴い、生活福祉資金(福祉資金福祉費)の特例貸付がはじまり、震災により被災した低所得世帯に当面の生活に必要な経費等の貸付相談を行ったが、平成26年度は貸付決定がなかった。

(5) 子育て世帯への優遇貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

離職者支援資金または総合支援資金生活支援費の申請者で、世帯内に扶養している子どもがいる世帯に対しての、生活費の上乗せ、または修学に必要な費用の貸付制度に関する償還事務を行った。

(平成22年3月末で貸付事業は終了)

ア. 償還実績

(ア) 償還率 29.50% (現年度)

(6) 臨時特例つなぎ資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

住宅喪失の離職者で、公的給付制度又は公的貸付制度の申請が受理されており、かつ当該給付等までの生活に困窮している世帯に対しての生活資金貸付制度として、相談・貸付・償還事務を行った。平成26年度においては、1件貸付を行った。また、年度当初、平成25年3月までの時限事業となっていたが、平成27年度も実施予定となっている。

(7) 不動産担保型生活資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

現在居住している自己所有の不動産(土地・建物)に、将来にわたって住み続けることを希望する高齢者世帯に対し、その不動産を担保に生活資金を貸付する制度として、相談・貸付・償還事務を行った。平成26年度も全世界帯の訪問を行い、世帯状況の把握に努めた。

ア. 貸付実績

(ア) 貸付決定件数 0件

イ. 償還実績

(ア) 償還完了件数 1件 (平成26年度末債権数19件)

(8) 要保護世帯向け不動産担保型生活資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

要保護状態の高齢者世帯に対し、現在居住している自己所有の不動産(土地・建物)を担保として生活資金を貸付する制度として、相談・貸付・償還事務を行った。平成26年度は新規の貸付決定件数が1件、承継が1件あった。また、全世界帯の訪問を行い、世帯状況の把握に努めた。

ア. 償還実績

(ア) 貸付決定件数 1件

(イ) 償還完了件数 1件 (平成26年度末債権数12件)

(9) 受験生チャレンジ支援貸付事業〔練馬区からの受託事業〕

一定所得以下の世帯の子供への支援を目的として、学習塾等の費用や、高校や大学等の受験費用の貸付を無利子で行った。

ア. 学習塾等受講料貸付金 貸付決定件数 212件 貸付金額 40,013,100円

イ. 受験料貸付金 貸付決定件数 203件 貸付金額 10,332,900円

(10) 私立高等学校等入学資金貸付事業〔練馬区補助事業〕

生活保護世帯あるいはこれに準ずる生活困難な世帯が、他の同種の公的資金を借り受けてもなお資金が不足する場合の入学資金等の貸付の償還事務を行った。(平成26年3月末で貸付事業は終了)

ア. 償還実績

(ア) 償還率 24.31%

(イ) 償還完了件数 0件 (平成26年度末債権数13件)

(11) 長尾修学育英資金貸付事業

所得の少ない世帯を対象として、大学・短期大学入学に際して必要となる入学資金等の貸付に関する償還事務を行った。(平成18年3月末で貸付は終了)

ア. 償還実績

(ア) 償還率 2.36%

(イ) 償還完了件数 1件 (平成26年度末債権数7件)

(12) 法外援護緊急たすけあい事業

ア. 小口資金貸付

災害や臨時の出費等による一時的な生活困窮者に対し、5万円を限度とした貸付相談を行った。

(ア) 貸付決定件数 1件

(イ) 償還完了件数 3件 (平成26年度末債権数35件)

(ウ) 償還金支払免除の適用

練馬区社会福祉協議会定款第16条(1)に基づき平成27年3月31日議決

死亡または所在不明等による償還金支払い免除 1件

イ. 資金の交付

住所不定者等に当座の食費、知人・友人宅及び救護所等へ赴く交通費等を支給した。

(ア) 各総合福祉事務所へ事務を委託 交付金合計 1,436,107円

区 分	件 数	区 分	件 数
練馬総合福祉事務所	886	光が丘総合福祉事務所	201
石神井総合福祉事務所	335	大泉総合福祉事務所	300
4 総合福祉事務所合計			1,722

(13) 社会復帰支援資金貸付事業

保護観察の対象となっている方に対し、社会復帰をする上で必要な資金に関する貸付相談を行ったが、平成26年度は貸付実績がなかった。

(14) 関係機関との連携

ア. 会議への参加

(ア) 福祉事務所との連絡調整会議 2回

相互の情報提供・連絡調整を図るため、福祉事務所主催の連絡調整会議へ積極的に参加した。

7. 講師派遣

成年後見制度やボランティア活動の説明、小地域福祉活動の実践報告、SST(ソーシャルスキルズトレーニング)について等、練馬区社協各部署の知識や技術等の専門性を生かし、関係機関、団体、学校等へ講師として職員の派遣のとりまとめを行った(44件)。

【白百合福祉作業所】

事業種別：就労継続支援B型事業

一般企業で働くことが困難な主に知的障害のある方を対象に、自立と社会経済活動への参加を促進するために働く場を提供し、作業および生活の支援を行い、障害者福祉の増進を図ることを目的として各種事業に取り組んだ。

1. 利用者の状況 定員 40 名、現員 33 名

(1) 性別・年齢

項目	男性	女性	合計
人数	18名	15名	33名
平均年齢	39歳	44歳	41歳

(2) 入退所状況

入所者	1名	退所者	2名
-----	----	-----	----

2. 作業実績

(1) 工賃支払実績

区分	年額	平均月額
総収入額	4,173,523円	〈平均〉348,202円
消費税清算金	4,900円	
一人あたり平均支給額	123,504円	10,292円

※一人あたりの平均月額は、26年度支払工賃総額（総収入額+消費税清算額）÷支払対象者数（年間延実働人員数406名）による。

(2) 作業種目別収入

項目	年額	平均月額
紙器組立	1,354,251円	112,854円
割箸袋入れ	407,947円	33,996円
紙器組立・封入	470,110円	39,176円
寿司用箸セット	85,240円	7,103円
受託販売（梅干）	532,875円	44,406円
公園清掃	329,868円	27,489円
古紙回収	242,700円	20,225円
アルミ缶回収	24,125円	2,010円
さをり織り（自主生産）	342,468円	28,539円
手すきハガキ（自主生産）	82,820円	6,902円
その他	402,219円	33,518円
26年度消費税預かり金額	△96,200円	△8,016円
計	4,178,423円	348,202円

3. 利用者支援

(1) 作業支援（福祉的就労支援）

ア. 個別支援の充実

利用者一人ひとりの状況を把握し、意向や希望等聞き取り個別支援計画を作成した。個別支援計画に基づいて、作業所として柔軟なサービス提供や支援を心がけた。あわせて前期後期に各人の個別支援計画の見直しを行いながら、1年間を通して利用者が充実した作業所生活を送ることができるよう心がけた。

イ. 週末ミーティング

毎週金曜日に、作業班ごとで週末ミーティングを行った。一週間で自分は作業のどのような部分を頑張ったのか、一人ひとりが発表した。回数を重ねることで、自分から手を挙げて、発表することが出来るようになった。また、発表することで次の作業への意欲に繋げることが出来た。

ウ. 工賃の支給・評定

3ヶ月ごとに開催した評定会議において、評定基準に基づき利用者個人の作業評定値を決定し、工賃を支給した。また、評価基準をより現状に即した形に改善するため検討会議を重ね、新たな基準を作成した。

エ. 作業開拓、工賃の増額

(ア) 安定した作業を提供するために、作業開拓を行い、工賃アップへと繋がるよう図った。

(イ) 一人ひとりにあった作業提供の工夫や細やかな作業支援を行い、利用者が主体的に作業に取り組めるような環境を整えた。

オ. 作業内容

(ア) 受注作業

作業種目	作業状況
寿司用箸セット	宅配寿司、宅配釜飯用セット作り等を行った。作業工程に流れ作業を導入したり、自助具を使用する等、利用者の特性に応じた作業提供が行えた。
紙器製作	安定した入荷量であった。作業工程や種類が多く、多くの利用者が関わることができた。
割箸袋入れ	一年を通して、作業が切れることなく安定して作業を継続することができた。
チラシ折り	ポスティングのチラシの2つ折りの作業が定期的に入荷があり、多くの利用者が関わることができた。

(イ) 屋外作業

古紙回収	区役所、図書館、近隣の住宅・団地（950世帯）、などからの回収を年間延べ70回行った。地域住民から多くの協力があり、利用者も意欲的に取り組むことができた。1年間で総重量42,830kgの古紙を提供いただいた。
アルミ缶回収	近隣の住宅・団地を中心に回収を行った。利用者家族からの協力も多く、1年間で225kgの空き缶を提供いただいた。
公園清掃	練馬区立泉こぶし公園の清掃作業を週2回行った。改修工事が入り、冬場の約3か月はトイレのみの清掃となった。
ピアレス清掃	練馬区立石神井公園区民交流センター内のトイレ清掃を月に1回行った。

(ウ) 自主生産

昨年度に引き続き、販売会等に積極的に参加することができた。地域交流に取り組んでいることで、販売の場を紹介していただき、販売の機会を得ることができた。また以前に購入していただいた方からの発注が引き続き多く見られた。

さをり織り	7名の利用者で取り組み、ボランティアの協力のもと製品に仕上げた。色の選択、組み合わせは利用者自らが行き、个性的で色彩豊かな作品となり従来品以外の注文も受けた。また、販売会に参加し、直接お客様とやり取りすることで創作意欲にもつながった。
手すきハガキ	2名の利用者が取り組み、それぞれが得意な工程を受け持ち協力して仕上げることができた。ほぼ毎日取り組むことで大きな注文にも対応することができた。無地やスタンプで模様をつけたハガキ、ボランティアや利用者家族の協力で絵付きハガキを作成し販売した。

(エ) 受託販売

「紀州南高梅」の梅干し販売を受託し、利用者作画のイラスト入りラベルを貼り、リサイクルショップ・各種販売会等での販売を行った。

a. 自主製品販売会・バザー等参加状況：参加51回、利用者延べ24名・職員延べ53名

カ. 自主生産事業の商品開発・開拓

自主生産製品の商品開発や販路拡大にも努め、情報収集・研究を行った。

(2) 就労支援

貫井福祉工房就労移行支援事業担当のジョブコーチを講師に迎え、『働くために大切な10のこと』をテーマに「グッドワーク講座」を開催した。はたらくことについてみんなで考え、はたらくことへの意欲を高める機会を設けた。

(3) 生活支援

ア. 行事

行事名	実施日	場所・内容
福祉音楽祭 in ねりま	4/25	練馬文化センターにて、地域団体主催の音楽祭に参加し、舞台発表や自主製品販売を行った。
グループ活動	5月	スカイツリー、東京駅散策、森林公園散策、ボウリング、上野動物園の見学、体験を行った。
施設公開	5/28, 6/6 2/13	施設の理解と地域の方との交流を深めるために施設公開を行った。仮設では2回行い来所者は少なかったが、地域の方々へ施設の理解を広めることが出来た。2月には新しくなった作業所のお披露目を兼ねた施設公開を行い、60名の来所者があった。

障害者通所施設合同運動会	5/31	区内通所施設が練馬区立南町小学校に集い開催した。
宿泊旅行	9/25～26	群馬県・碓氷温泉方面に出かけ、こんにやくパーク・碓氷鉄道文化村・梅干し工場の見学となし狩りの体験を行った。
白百合まつり	10/25	大規模改修に伴う仮設の作業所にて、施設公開をはじめ、アトラクション、模擬店などを実施し、約 200 名が来所した。
四所交流会	11/14	光が丘体育館において、フラダンスや作業所ごとの出し物の発表などを行い交流した。
障害者フェスティバル	12/6	光が丘区民センター及び周辺にて舞台発表と販売会を行った。
新年顔合わせ会	1/5	「今年の抱負」の発表を行った。
ボランティア感謝ウイーク (ありがとうの会)	2/23～ 2/27	利用者が中心となり感謝状や記念メダルを作成した。期間中 22 名のボランティアに手渡し、日頃の感謝を伝えた。

イ. 社会見学会（しらゆり探検隊）（年 1 回）

地域の公共施設や関連施設を見学し、仕事の様子を調べて、報告会を行った。（石神井図書館、貫井福祉工房、J A 東京あおば、大泉障害者地域生活支援センターさくら、石神井庁舎）

ウ. クラブ活動（第 1・第 3 水曜日／午後 2 時 30 分～午後 3 時 30 分）

利用者の希望をもとにクラブを構成し、ボランティアの参加や、前期・後期で活動内容を変えることにより、多彩な活動が体験でき、楽しんで活動を行うことが出来た。（カラオケ・手話ダンス・新聞づくり・ちぎり絵・折り紙・ボウリングなど）

エ. みんなの会（年 4 回：5/26、8/27、11/27、2/25）

利用者から選出された役員が中心となりみんなの会を実施した。活動の役割分担や所内でのマナーなど利用者から提出された課題について話し合いの場を持ち、意見の交換などを行なった。

オ. 生活講座（はなまる講座）（年 4 回：4/30、7/23、10/29、1/28）

利用者一人ひとりが主体的に働くこと・楽しむことを支援するため、生活に必要な様々な事柄について学び・考え・知る機会として講座を開催した。

議題：「消費税について」「大人のマナー・暑中見舞いについて」「ゴミの分別について」「販売会の接客マナーについて」等

カ. しらゆり安全委員会（年 6 回：6/28、7/23、7/31、10/23、1/29、3/13）

利用者が主体となり、日頃から安全意識を高め考えていく機会を設けるために、利用者・ボランティア・職員で構成した「しらゆり安全委員会」を発足した。施設内の安全点検、避難所まで所要時間の調査、駐車場車止めの塗装、非常灯の設置等を行った。

キ. 役割活動

利用者が日直当番や掃除当番等の所内の役割に主体的に関わる機会を設け、役割を担い果たすことの大切さを身につけることが出来た。

ク. 通所等の安全確保

大規模改修工事中、移転先で利用者が安全に通所出来るよう、一定期間見守りを行った。（駅改札口、道路の曲がり角等）

ケ. 情報提供・話し合い

利用者に家族会の内容や行事等の説明をしたり話し合いを行った。そこで利用者の意見を聞きとることが出来た。また、地域生活に必要な情報を提供できるようにした。

コ. 利用者余暇支援・利用時間の延長

(ア) 休日余暇支援事業（みんなのつどい）

登録した利用者（白百合福祉作業所 14 名、かたくり福祉作業所 31 名）を対象に、原則毎月第 3 土曜日に作業所において、レクリエーション活動等を行った。季節に合わせたプログラムの企画を行うとともに、多くのボランティアの協力を得て演奏や演劇等の鑑賞機会を設けるなどして余暇の充実を図った。楽しみの時間を共有することで、地域住民との交流の機会ともなった。年間計 12 回開催、利用者参加延べ 282 名（うち白百合福祉作業所利用者延べ 73 名）

(イ) 施設利用時間の延長

家族の所用、急用等の事情にあわせて便宜を図るため、施設利用時間の延長を行った。延べ 38 回実施

(4) 健康管理・健康活動・保健衛生

ア. 健康管理

項目	内容	実施日	受診・受講人数
健康診断	聴心、尿検査、血液検査、x-線、 腹囲(40歳以上)	1/15	7名
内科検診	血圧測定、心肺音聴取等	毎月1回	
歯科検診	う歯、歯石、歯肉の炎症、咬合検査	4/10	30名
眼科検診	眼底検査	6/25	28名
耳鼻科検診	耳、鼻、咽頭検査	5/22	30名
身長測定	年1回	4/14	33名
健康講座	朝ごはんはなぜ大切なの？	2/20	26名
体重測定	毎月1回 年12回		

イ. 健康活動…ラジオ・ストレッチ体操、いきいき体操(月・金)、健康指導、ウォーキング、健康講座、手洗い、うがい、消毒等を行った。

4. 地域活動(ともに生きるまちづくり)

(1)「ともに活動する」

ア. 地域貢献活動

(ア) しらゆり見守りウォーキング…仮設の作業所においては清掃活動として、地域の路上のゴミ拾いを行い、道行く地域の方に挨拶をした。1月新しい作業所に戻り、見守りウォーキングを再開した。

(イ) 駅前清掃活動：年間16回参加(利用者延べ32名、職員延べ17名)

池淵町会婦人部、練馬地域福祉ハートフルアクターズと協働し、石神井公園駅前清掃活動に参加した。利用者は地域のためにできるボランティア活動としての意識を持ち、いきいきと取り組んでいた。

(ウ) リサイクル事業

a. 新聞回収(各1回/月)

回収先：近隣の住宅・団地、区内図書館、練馬区役所(2回)、石神井庁舎、豊玉障害者地域生活支援センターきらら

b. アルミ缶回収 近隣住宅・団地(各1回/月)

近隣の住宅・団地の協力を得て古紙・アルミ缶回収を行なった。高齢等により古紙を階段下までおろすことが負担になる方に対しては、玄関口での個別回収を行った。地域に作業所の様子を知ってもらうために、回収日を知らせるチラシには作業所の近況報告を載せた。また、裏面にはお祭りやイベント、リサイクルショップの告知、ボランティア募集記事、自主製品や梅干し販売の情報を載せた。

c. リサイクルショップの開催

仮設施設運営期間中はリサイクルショップの開催を見合わせる。本施設移転後の開催に向けた検討会(ボランティア・職員で構成)を行う。

(エ) クリーンウォークキャンペーン：年間1回参加(4/27 利用者・家族6名、職員1名)

練馬地域福祉ハートフルアクターズと協働し、地域の環境美化のため清掃活動を行った。

イ. 地域交流事業の推進

(ア) イベントの開催

a. 白百合まつり(10/25)

大規模改修に伴う仮設の作業所にて、施設を知ってもらい、作業公開・体験をはじめ、アトラクション、ゲーム、地域のお店などを実施し、地域の方との交流をすることが出来た。

b. 施設公開の開催(5/28, 6/6, 2/13)

地域の方々に、日頃利用者が作業をしている様子を見てもらい、作業体験をする機会として開催した。作業公開・体験、作業所紹介の展示、自主製品販売、カフェコーナーを設けた。

(イ) 地域イベントへの参加

a. 灯籠流しの夕べ(8/2)、チルコロ石神井まつり(11/9、3/29)

b. その他イベント等での自主製品の販売会に参加した。(51回)

(ウ) 石神井小学校との交流

2年生の「この町大すき!石じい大はっけん」の授業の一環として訪問を受け入れた。その

後行われた小学校の発表会に招待され、職員と利用者で小学校に伺い交流を図った。

(エ) グループ外食(4月、7月、9月、11月)

地域の飲食店を利用し、外食を楽しみ、地域の方々とふれあい、施設理解を深めた。

ウ. 地域とつくる災害対策

(ア) 「こんにちは! しらゆりです」運動…古紙、アルミ缶回収等にご協力いただいている地域住民を対象に玄関先での挨拶を交わすことで関係作りをし、ゆるやかな見守りの役割を担った。

(イ) 協働災害訓練…日頃から地域住民との関係づくりに努め、近隣町会やボランティアと協働して災害訓練を開催するに当たり、AED講習等の企画を進めた。次年度への実施に向けての取り組みを行った。

(2) 「ともに学ぶ」

ア. 地域学習会(年2回)

(ア) 第1回地域学習会(9月30日 参加者19名)

「ともに生きるまちづくり活動」の一環として民生・児童委員障害者部会の方々と学習会を行った。利用者が案内係りや講師役を担い、作業の見学や体験を通じて利用者との交流が深まり施設理解につなげることができた。

(イ) 第2回地域学習会(2/27 参加者11名)

「障害とボランティアに関する勉強会」として地域住民の方や、これからボランティアを始めたい方などを対象に、作業の見学・体験、利用者からの話、ゲームやテスト方式での講座などを行った。施設理解やボランティア活動の理解につなげることができた。

イ. 夏休み体験教室(8月1日・8月8日 親子参加含む21名)

小・中学生を対象に自主製品のさをり織りと手すきハガキの体験の機会を提供した。親子参加も積極的に受け入れ、交流の機会にもなった。

ウ. 夏休み体験ボランティアの受け入れ

福祉に関心のある大学生や専門学校生を対象に、夏休みを利用して、作業所での体験をしてもらった。障害への理解を深めてもらうとともに、福祉人材の育成に取り組んだ。

エ. 実習生の受け入れ

(ア) 福祉実習…大学、専門学校の社会福祉士等の資格取得のための実習生の受け入れを行った。(社会福祉士18名、精神保健福祉士5名)

(イ) 体験学習…福祉学習の一環として、小学生、中学生、高校生の体験学習を受け入れた。

(3) 「ともに活かし合う」

ア. ボランティアとの協働(受け入れ態勢の充実)

ボランティア・見学者の受け入れ(受け入れ総数: ボランティア695名)、散髪ボランティア(年間5回、延べ15名)・手話ダンスボランティア(年間10回、延べ45名)・作業ボランティア(延べ527名)・行事等協力ボランティア(延べ96名)を定期的に受け入れた。活動の一つとして、いきいき体操ボランティア(延べ12名)も定着し、行事や外食などにも一緒に参加してもらい、交流が深まった。また、練馬区立光が丘第二中学校生徒(4名)の体験ボランティアを受け入れて、福祉教育への積極的な協力を行った。さらに、施設見学・体験を希望する住民、学生、関係機関職員等を随時受け入れ、施設理解を深めることに努めた。

イ. ボランティア感謝ウィーク(2/23~2/27)

ボランティアに、日頃の感謝の気持ちを伝える機会として「ありがとう感謝ウィーク」を利用者と企画した。利用者が主体となり、メダルや招待状、「ありがとうの手紙」を作成してボランティアに手渡した。

5. 施設運営・利用者の権利の擁護

(1) 施設運営

ア. 大規模改修工事期間中の仮施設運営

(ア) 一時移転中や改修後の環境変化に、利用者が円滑に移行できるよう支援を行った。

(イ) 周辺住民に障害や施設について理解をしてもらい、相互に理解を深め、気持ちよく過ごせる環境を整えるよう努めた。

イ. 運営協議会の開催(年2回開催)

地域関係者、利用者・家族、練馬区および施設職員を構成員とする協議会を設置し、利用者サービスの向上、施設運営の改善等のための意見交換・協議を行った。施設情報の提供や意見交換を行う中で地域関係者とのつながりを深めることができた。

ウ．家族との連携

- (ア) 家族会：年 10 回開催。年度の計画、方針、各行事、施設サービス、保健などについての説明、報告や意見交換を行った。（＊家族会延べ参加人数 206 名）
- (イ) グループ懇談会：年 3 回開催（1 回につき 2 グループ同時開催）。利用者家族を 6 グループに分け、少人数で発言をしやすい雰囲気の中意見や情報の交換を行った。
- (ウ) 勉強会：12/19「高齢者向けサービスについて知る」（高齢者相談センター富士見台支所）20 名参加
- (エ) 食事会：2/27 開催。大規模改修の完了による本施設での活動再開を祝い、家族も利用者と同じ献立で、一緒に食事をする会を開催した。

(2) 危機管理・安全対策

- ア．防災計画の見直し・修正・確認
安全対策委員会主催の「BCP」（事業継続計画）研修をもとに、発災後翌日までの対応を見直し、BCP に沿って防災計画の修正を行った。
- イ．しらゆり安全委員会…利用者がボランティアの協力を得て行う施設内外の安全保持活動「しらゆり安全委員会」を発足し利用者の視点で主体的に安全や安心について提案することが出来た。
- ウ．安全対策…定期的に所内の安全点検を行うとともに、作業室の整理整頓を行った。
- エ．災害訓練（月 1 回）
仮設作業所での避難訓練を計画、実施した。また、改修後の本施設においても訓練を見直し、実動訓練と共に避難方法の検証を重ねた。
- オ．災害時引渡し訓練（10/1）
震災想定避難の後、引渡し訓練を行った。家族向けに「災害時伝言ダイヤル」体験を実施。
- カ．防災講習会の開催（10/1）
「災害時の対応について考える」防災講習会を行った。
- キ．防災パンフレット…災害時に必要な情報をまとめた冊子を作成した。家族・ボランティア・関係機関・職員との連携強化を図った。

(3) 相談・苦情対応、個人情報保護、リスクマネジメントの取り組み

- ア．利用者からの相談・苦情をいつでも受け付けられる体制を整え、要望等には誠実かつ迅速に対応するよう努めた。
- イ．苦情解決第三者委員との懇談会：年 2 回実施。（家族対象 9 月・利用者対象 2 月）
家族や利用者から施設への要望や苦情等の聞き取りを行った。
- ウ．個人情報保護のための管理体制を整備し、職員の個人情報保護に関する意識啓発に努めた。
- エ．リスクマネジメント体制を整え、「ヒヤリハット情報」の収集を行い、職員間で共有し事故の防止に努めた。

(4) 施設評価・調査

- 利用者・家族を対象に「利用者アンケート」を実施し、満足度調査を通して施設サービスの改善点や課題を明らかにしその改善に取り組んだ。

(5) 広報活動

- 施設広報紙「しらゆり通信」の発行、チラシ・パンフレット、練馬区社協ホームページでの情報提供、練馬区社協広報誌「社協だより」への記事掲載、掲示板の活用等を通して施設 PR や社協の事業紹介を行った。

(6) 職員研修・育成

- ア．職員研修
支援の充実、職員の資質向上を目指し研修を受講した。（研修参加 36 回、参加職員延べ 89 名）
- イ．練馬区社会福祉協議会人材育成方針に基づいた OJT（職場内研修）の充実を図った。
- ウ．練馬障害福祉人材育成・研修センター等の研修を受講し、専門性を高められるようにした。
- エ．練馬区立福祉作業所合同研修会の開催（12/12）
区立福祉作業所 5 所の共催により職員研修会を実施した。実施にあたっては、民間福祉作業所にも積極的に参加を呼びかけ、交流ならびに情報交換の場となるよう図った。

(7) 実習生の受け入れ

- ア．入所実習：2 名（特別支援学校高等部 3 年生 1 名、他施設からの転所希望 1 名）
- イ．体験実習：特別支援学校高等部 2 年生 3 名、その他 1 名

【かたくり福祉作業所】

事業種別：就労継続支援B型事業・就労移行支援事業

◇就労継続支援B型事業

心身に障害がある方を対象に作業施設と仕事を提供し、生活および作業の支援を通して自立と社会参加を促進することを目的に各種事業に取り組んだ。

◇就労移行支援事業

一般企業で働くことを希望する障害者に対し、一般就労につなげるために、施設において作業の提供等、必要な支援を行うことを目的として取り組んだ。今年度から、愛称を「ジョブサポートかたくり」と親しみやすい名称とし、広く周知に努めた。

*就労継続支援B型事業と就労移行支援事業で共通のものは（共通）の表示をしている。

1. 利用者状況（共通） 平成27年3月31日現在

定員73名（B型63名・移行10名）現員59名（B型57名・移行2名）

（1）性別・年齢

項目	男性	女性	合計
人数	42名	17名	59名
平均年齢	33歳	39歳	35歳

※小数点以下四捨五入

（2）入退所状況

入所	4名	高校卒業 その他	1名 3名
退所	2名	転所 就労 その他	1名 0名 1名

2. 作業実績

（1）工賃支払実績

（就労継続支援B型事業）

区分	年額	平均月額
総収入額	7,125,405円	594,175円
消費税精算金	4,700円	
一人あたり平均支給額	127,332円	10,611円

（就労移行支援事業）

区分	年額	平均月額
総収入額	230,364円	19,197円
一人あたり平均支給額	172,776円	14,398円

※一人あたりの平均月額は、26年度支払工賃総額（総収入額＋消費税精算額）

÷支払対象者数（年間延実働人員数B型：672名 移行：16名）による

（2）作業種目別収入

（就労継続支援B型事業）

項目	年額	平均月額
割り箸袋入れ(弁当用)	705,020円	58,752円
チラシ折り	368,467円	30,706円
付録のセット作り	197,816円	16,485円
自主生産(祝い箸・委託販売お茶リパック)	938,392円	78,199円
日用品のセット作業	1,420,972円	118,414円
DVD検品作業	207,264円	17,272円
ダイレクトメールの封入	2,544,270円	212,022円
お菓子袋詰め	166,777円	13,898円
その他	747,527円	62,293円
26年度消費税預かり金額	△166,400円	△13,866円
計	7,130,105円	594,175円

※自主製品材料費 419,854円 委託販売品購入費 318,492円

(就労移行支援事業)

項目	年 額	平均月 額
ハウスクリーニング他	100,000 円	8,334 円
日用品のセット作業	44,687 円	3,724 円
配架作業	18,000 円	1,500 円
公園清掃	6,622 円	552 円
お菓子袋詰め	15,041 円	1,254 円
その他	51,214 円	4,268 円
26 年度消費税預かり金額	△5,200 円	△434 円
計	230,364 円	19,197 円

3. 利用者支援【就労継続支援 B 型事業】

(1) 作業支援（福祉的就労支援）

ア. 個別支援の充実

- (ア) 利用者一人ひとりの状況を把握し、意向や希望を聞き取りながら、個別支援計画を作成した。毎月進捗状況等を確認しながら支援を検討し、年 3 回利用者とともに見直しを行い、1 年を通じて段階的に目標を設定し利用者の自信と達成感が次の意欲につながるよう支援を行った。
- (イ) 定期的に二者面談、三者面談、個別支援会議、グループ会議などを行い、支援内容を確認、検討した。

イ. 工賃の支給、評定

- (ア) 3 か月ごとに評定会議を開催し、評定基準に基づき評定値を決定し、工賃を支給した。
- (イ) 各グループで利用者が工賃の話し合い（工賃会議）を行い、利用者自らが受注作業の内容を把握することで、働く意欲につながった。

ウ. 工賃額の維持、作業開拓

- (ア) 利用者個々の状況に合わせた作業環境を整えるとともに、一人ひとりが様々な作業に取り組むことができるように補助具等の使用や工夫を行い、個々の実施作業の幅が広がった。
- (イ) 安定した作業を提供するために、新規に事業者（4 社）と契約し新作業に積極的に取り組んだ。また、新規に地域企業商品の委託販売、利用者の描いた絵のラベルを貼付したパッケージでのお茶のリパック販売に取り組んだ。

エ. 作業内容

(ア) 受注作業

作業種目	作 業 状 況
割り箸の鞘入れ	一年を通して、安定して作業を継続できた。箸の不良等を確認する検品作業を行う利用者が増えた。
雑誌付録のセット作り	材料の仕分けから利用者に取り組むことができた。また作業工程の種類が多く、多くの利用者に関わることができた。
日用品のセット作り	作業工程の種類が多く、多くの利用者に関わることができ段階的に高度な作業に挑戦していくことができた。
ダイレクトメールの封入	利用者が計量器や結束機を使用して、検品や完品の作業に関わることができた。
お菓子の袋詰め	一年を通して、安定して作業を継続できた。シーラーを上手に使用し袋の封止めをする利用者が増えた。
お茶のリパックおよび販売	新規の作業として、利用者が描いたラベル製作・ラベルの貼付・封入・シーラー・販売までの一連の作業を行った。

(イ) 自主製品生産事業

アイデアを活かし和文具の新製品を開発し、販売会等で好評を得て売り上げにつながった。作業工程を細かく分け補助具等を使いながら多くの利用者が作業に関わることができ、作業ボランティアの協力により質良く仕上げることもできた。販売では、ボランティアの紹介や地域とのつながりから委託販売の新店舗の協力を得られ、利用者とともに定期的な営業活動を展開することができた。また、新規にカタログを製作し関係者に配布した。

《主な製品》祝い箸、黒文字、ポケットティッシュボックス、ぼち袋、のし袋、クリップ、和文具（付箋、マグネット、ダブルクリップ）等

(ウ) 販売会の参加
自主製品の販売会に利用者が積極的に参加した。(52回 加えて毎月家族会でも販売)

(エ) 公園清掃

週1回北大泉くれはし公園のトイレや園内の清掃を行った。マニュアルに基づき、利用者がトイレ清掃等を自ら実施することができた。

(2) 就労支援

ジョブサポートかたくりとつながりのある特例子会社に、希望者が企業見学に行き自ら報告書を作成した。また、利用者会「青空会」において報告会を行い、働くことへの意欲向上につながった。

(3) 生活支援

利用者が主体者として、所内生活の自主管理や行事等での主体的活動を目指すことができるように支援した。また、利用者の意見や要望が施設運営に反映できるように努めるとともに、興味のあるプログラムの提供等を通して生活技術の向上につながるよう支援を行った。

ア. 行事

※印は任意参加行事

行事名	実施日	場所・内容
レクリエーション活動	雨天のため中止	和光樹林公園：準備をしたが、雨天のため中止となった。
福祉音楽祭 in ねりま	4/25	練馬文化センターにおいて、地域団体主催の音楽祭に参加し、舞台発表や自主製品販売を行った(利用者46名)。参加しない利用者は、所においてレクリエーション活動を行った。
練馬区障害者施設合同運動会	5/31	南町小学校で、区内通所施設が集まり開催された。 利用者・家族92名
※障害者スポーツ大会	5月	東京都障害者スポーツ大会の案内をし、希望者が陸上・水泳に参加した。
グループ活動	5～6月	9グループの少人数に分かれて外出し、様々な社会体験をした。J-world、オ・ビィ横浜、グリオ工場見学、井之頭公園散策、サンシャイン水族館、ダイバーシティ・お台場7Dテレビ、東京駅・パナグループアーバンファーム等
宿泊旅行	9/4～5 9/11～12	熱海方面と那須方面の2箇所を設定し、利用者の希望による選択制とした。
かたくり祭り	10/18	施設公開、作業体験、アトラクション、模擬店、バザー等を行った。来場者数約500名
四所交流会	11/14	区立四作業所が集まり、フラダンスや作業所ごとの出し物の発表などを行い交流した。
※障害者フェスティバル	12/6	光が丘区民センターにおいて舞台発表、周辺で販売会を行い作業所の紹介とともに地域との交流を図った。
忘年会	12/26	利用者によるレクリエーションを楽しんだ。
納め会	3/31	1年間の業績発表・ボランティア感謝企画、「がんばった」で賞表彰、感想発表、送別会を行った。

イ. クラブ活動

クラブ活動を月2回行った。前期には興味や関心を引き出す機会として、通常クラブに加えて特別クラブを設定した。また、前期・後期に拡大クラブを設け、地域の体育館を利用したプログラムや清掃工場・消防署見学など、地域の施設を利用して活動の充実を図った。

(ア) 通常クラブ、特別クラブ

a. 前期:第1・3木曜日 午後2時30分～午後3時30分

音楽、スポーツ、レクリエーション、特別クラブ(折り紙)、拡大クラブ(カラオケボックス・区立体育館・清掃工場見学・写真立て作り)

b. 後期第1・3金曜日 午後2時30分～午後3時30分

音楽、スポーツ、レクリエーション、フェスティバル、拡大クラブ(カラオケボックス・区立体育館・消防署見学・お茶会体験)

ウ. 利用者会（青空会） 月1回 第4木曜日 午後3時～午後3時30分

利用者会の中から前期・後期6名の委員を選出し、前日に委員会を開催して議題を検討した。今年度は、企業見学報告会や代表して参加するシンポジウムでの発表リハーサル等も行い、利用者同士で意識を向上するための取り組みを行った。委員会での検討内容は、各作業班の話し合いの中にも取り入れ、利用者が話し合いに参加できる機会を増やすことで、利用者自身が主体的に運営するという意識が持てるように支援を行った。送別会・忘年会などの行事内容は、青空会委員が中心となって企画した。また、地域交流イベントではフリーマーケットを行った。

《主な議事内容》

- ・青空会委員の選出、行事説明、行事の係選出、行事の感想など
- ・所内生活について（行事や余暇活動についての提案、更衣室やトイレ、廊下でのマナー、提案事項、新作業室についての意見交換等）
- ・就労関連情報、苦情解決など
- ・企業見学報告、シンポジウム発表リハーサル

エ. 皆勤賞（応援プログラム）

利用者が作業や作業所のプログラムに意欲的に参加し励みになるように、納め会で利用者全員に、一人ひとりの「がんばったこと」「良かったこと」の表彰を行った。

オ. 利用者余暇支援・利用時間の延長（共通）

（ア）休日余暇支援事業（みんなのつどい）

登録した利用者（かたくり福祉作業所31名、白百合福祉作業所14名）を対象に、原則毎月第3土曜日に作業所において、レクリエーション活動を行った。季節に合わせたプログラムの企画を行うとともに、多くのボランティアの協力を得て演奏やコーラス、人形劇などを楽しみ余暇の充実を図るとともに、地域住民との交流の機会ともなった。

※年間計12回開催、利用者参加延べ282名（内かたくり福祉作業所利用者延べ209名）

（イ）施設利用時間の延長

家族の使用、急用等の事情にあわせて便宜を図るため、施設利用時間の延長を行った。

述べ24回

カ. 利用者の役割

（ア）広報紙編集委員

広報紙「しゃぼんだま」についての内容検討・カット・印刷・折り作業などをともに行った。2名選出。

（イ）行事担当

各行事について、企画や運営に関する役割を担った。

（ウ）清掃当番

所内・運動場を全員で清掃し、自分たちが利用する施設に対して美化の意識をもった。3ヶ月ごとに清掃場所の変更を行った。

キ. 家族との連携

連絡帳、家族会の開催（年12回）、個別面談等を通じて家庭と連携し、支援の充実を図った。

（ア）家族会（B型月1回）

年12回開催。年度の計画、方針、各行事、施設サービス、保健などについての説明や報告、意見交換を行った。また家族会主催で「田柄福祉園」の見学会を行った。

（イ）個別面談（年1回および必要に応じて随時）

（ウ）グループ懇談（5月・12月）

年2回（5月、12月）班の担当職員と家族で、グループ内での日常の作業内容やそれぞれの利用者の様子などを知らせ、質問、意見の交換を行った。

（エ）精神科相談

年4回 利用者の精神面や生活の安定のための相談のきっかけ作りとして実施した。

また、5月は講座を開催した。

（オ）苦情解決第三者委員との懇談会（共通）

年1回実施（2/10）。職員は入らず、第三者委員と家族のみで行い、施設への要望や苦情等の聞き取りを行った。

(4) 健康・給食・安全管理（共通）

ア. 健康管理・健康活動・保健衛生

(ア) 健康管理

項目	内容	実施日	受診人数
健康診断	胸部 X-P、尿検査、血液検査、聴診	12/18	41 名
内科検診	血圧測定、心肺音聴取等	毎月 1 回	46 名～52 名
歯科	う歯、歯石、歯肉の炎症、咬合検査	5/22	52 名
眼科	眼底検査	4/16	49 名
耳鼻科検診	耳、鼻、咽頭検査	6/17	50 名
歯磨き指導	歯科衛生士による指導	6/13	11 名
体重測定		毎月 1 回	—
災害時服薬管理	災害時用に薬の保管を行う。	年 2 回	35 名分

(イ) 健康活動

ラジオ体操、健康指導を行った。ジョギング、ウォーキングは、北大泉野球場の協力のもと水曜・金曜に芝生の球技場で行った。

イ. 給食

今年度は、スチームコンベクションを導入しメニューの幅を広げるとともに、摂取カロリーを抑えたメニューを提供した。また、嗜好調査を実施し利用者の声を献立に反映させた。

ウ. 危機管理・安全対策

(ア) 安全対策 定期的に所内の安全対策を行った。

(イ) 災害対策 避難訓練（火災・地震・震災）を毎月実施した。

- 地震想定：B型・移行：（4月、7月、8月、1月）
- 火災想定：B型・移行：（5月、10月、11月、2月）
- 震災想定：B型・移行：（6月、9月、12月、3月）
- 滑り台訓練（B型）：年2回実施（7月、12月）
- 災害時引き取り訓練（共通）：年1回実施（12/1）震災想定避難訓練後、避難拠点「大泉第一小学校」にて、家族への引き渡し訓練を行った。
- 防災講座の開催：（共通）（12/1）「福祉避難拠点、災害時要援護者に対する支援、災害時要援護者名簿登録制度等について」の講座（講師：練馬区立防災学習センター）を開催し19名が参加した。また、家族向けに災害伝言ダイヤル・webの体験を行った。
- 災害緊急メールの登録（共通）大規模災害時に、あらかじめ登録してあるメールアドレスに情報を送信するため、利用者・家族に緊急メールの登録を促した。避難訓練後、訓練メールの送受信訓練も行った。
- 防災備蓄の整備（共通）大規模災害に備え、飲料水等備蓄品の点検・補充を行った。今年度は、ヘルメットの設置や備蓄品の充実を図った。
- BCP（事業継続計画）作成および発災から翌日までのBCPを作成した。そのBCPをもとにかたくり福祉作業所における発災直後から当日夜までを想定した訓練を行った。

(ウ) 防犯対策等 警察署・消防署等と連携し。安全管理に努めた。

交通安全指導（B型）：年1回（9/25）

「安全な歩道の歩き方と横断の仕方」をテーマに実施した。かたくり福祉作業所の周辺をビデオ撮影したものを視聴した後、警察の協力のもとで横断、側方通過の体験を行った。

4. 地域活動（共通）

(1) 施設公開、イベントの企画・実施

ア. かたくり祭り（施設公開イベント）10/18 来場者 約500名

施設のことをより広く知ってもらうため、作業公開・体験をはじめアトラクション・ゲームを行うとともに地域の団体等によるお店等の出店協力を得て地域の方々と交流した。

- 作業公開
- 模擬店
- アトラクション
- バザー
- 自主製品販売等

イ. 地域交流イベント 6/21 来場者 約500名

練馬区社協の拠点として、地域に開かれ、また気軽に立ち寄ることのできる作業所を目指し、さまざまな地域交流事業を行った。

- 地域住民による9区画のフリーマーケット
- 町会による写真展示、水ヨーヨー祭り

- c. 民生児童委員協議会による綿あめ・ポップコーンの配布、募金活動
- d. 子育て相談会
- e. カフェ、野点、炊き込みご飯、焼きそば、フランクフルト、つくたてもちなどの模擬店
- f. 自主製品販売、他施設販売
- g. 地域中学校演奏会、餅つき、マジック等

ウ. 施設公開

(ア) 施設公開

年2回イベントやお祭りとは違う日常の作業の様子の見学を通し、利用者や作業所への理解を深める機会とした。 5/27：参加者11名 2/4：参加者19名

- (イ) 施設見学・体験 夏休み特別企画「かたくり探検ツアー」(7/22～8/22・26) 参加者25名
区内小中高校生が、夏休み期間に作業所の見学・体験を通し作業所や利用者への理解を深める機会として実施した。近隣の小学生や家族が作業所や障害を知り、特別支援学校在学生在が卒業後の進路のイメージを作る機会となった。

(2) 実習生・研修生の受け入れ

ア. 入所実習

入所実習・体験実習：13名 (B型：3名 移行：10名)

イ. 福祉実習

(ア)「教育職員免許法特例における介護等体験事業」研修生の受け入れ：11名

(イ) 資格取得実習(社会福祉士、精神保健福祉士 等)：23名

ウ. 体験実習

(ア) 豊溪中学校1名、光が丘第二中学校5名、大泉北中学校15名

(イ) 都立大泉桜高校奉仕体験 前期5～7月毎週木曜 3名、後期11月～2月毎週木曜 3名

エ. パワーアップカレッジ 見学・体験実習

見学8名、講義・実習1名

(3) 施設・障害の理解促進、地域の人材発掘

障害や施設について理解を深めるため、学校等への積極的なPRや講師派遣を行った。

ア. 大泉桜高等学校 1年生奉仕の授業「ボランティアをやるにあたって」(5/1)

イ. 練馬区立大泉北中学校 職業講話「福祉作業所の仕事について」(2/14)

(4) 見学者・ボランティアの受け入れ・協働

ア. ボランティアとの協働

年間を通して作業やイベント・クラブにおいて、ボランティアの協力のもと事業を実施した(作業186名、イベント59名、かたくり祭り67名、特別クラブ6名、花クラブ52名、みんなのつどい9名、忘年会5名、納め会4名 延べ388名)。納め会に招待し、一緒に納め会を楽しみ、感謝の手紙をお渡しした。その他、大泉北中学校の生徒15名の劇と歌の披露や光が丘第二中学校のボランティア体験等の受け入れを行い交流した。

イ. ボランティア懇談会

ボランティアに呼びかけボランティア懇談会を開催し交流を図った。3/16 参加者6名

ウ. 見学者の受け入れ

常時、見学者の受け入れを行った。団体では、旭出学園特別支援学校、練馬特別支援学校、板橋特別支援学校、練馬区十障害者連絡会や和光市の就労支援B型事業所が来所し交流を図った。

(5) 講座等の開催

小地域福祉活動の一環として、かたくり福祉作業所で地域住民を対象とした講座を開催した。

「みんなで歌おう♪歌声広場」3月14日(日)13:00～15:00 参加者34名

(6) 地域との協働

ア. 町内会等との協働

(ア) 大泉連合町会 大泉町流し踊りの参加 9/14 参加者20名

(イ) 大泉北泉町会主催の防災訓練に参加 11/7 参加者65名

ア. 団体等の協働

(ア) 大泉まちづくりネットワーク会議への参加

(イ) 大泉まちづくりネットワークの大泉学園通り落ち葉掃きへ参加 12/4 参加者5名

(ウ) デイケア・かたかごの花クリスマス会に参加 12/15 参加者15名

(7) 緑化事業

「練馬みどりの機構」と協働で、地域のボランティアとともに定期的に地域の公園や花壇の手入

れを行った。また、「練馬区みどり推進課」と協働で越後山憩いの森緑地において農作物の種まき・苗植え・収穫作業を行った。

(8) 自主製品の委託販売

地域住民に施設や自主製品を広めるため、地域の和菓子店を中心に製品を置いていただいた。また、製品の補充や営業を利用者とともに定期的に行い交流を図った。
12店舗、3ボランティア・地域福祉コーナー

5. 施設運営・利用者の権利の擁護（共通）

(1) 職員研修・育成

ア. 練馬区内作業所職員合同研修会の実施

区立5所と区内民間作業所に呼びかけ実施した。12/12「サービス等利用計画を10倍生かす方法」参加者約60名

イ. 職場内研修の充実、外部研修・自主研修への積極的参加

支援の充実、職員の資質向上をめざし研修を受講した。研修参加71回 参加職員延べ191名

ウ. 人材育成計画に基づいた内部研修への参加、障害についての専門的研修への積極参加

支援会議等における内部研修の充実および練馬障害福祉人材育成・研修センター等の研修を受講し、専門性の向上に努めた。

(2) 相談・苦情対応、個人情報保護、リスクマネジメントの取り組み

ア. 相談・苦情対応

(ア) かたくりのこえ(ポスト)をB型5カ所、移行2カ所に設置し利用者の声・要望に対応した。

(イ) 苦情解決第三者委員巡回相談

巡回相談(8/27)、家族会懇談(2/10)を実施し利用者・家族の要望や苦情の聞き取りをした。

イ. 個人情報保護とリスクマネジメント

(ア) 個人情報・情報セキュリティに関する研修

内部研修3回行うとともに、講師を招いて「情報セキュリティについて職員として理解しておくことを学ぶ」研修会(10/30)を実施した。

(イ) 「ヒヤリハット情報」の収集を行い、リスクマネジメント体制を整え、職員間で共有し事故等の防止に努めた。

(3) 広報活動

施設広報紙「しゃぼんだま」を発行(5月・9月・1月・3月)、練馬区社協ホームページでの情報提供、練馬区社協広報誌「社協だより」への記事掲載、掲示板の活用を通して施設PRや事業紹介を行った。

(4) 運営協議会の開催(年2回開催)

地域関係者、利用者・家族、練馬区および施設職員を構成員とする協議会を設置し、利用者サービスの向上、施設運営の改善等のための意見交換、協議を行った。(7/25、3/13)

(5) 地域福祉活動計画の推進

各種委員会に参加し、第3次地域福祉活動計画の推進を図った。

(6) 調査

利用者・家族を対象に「利用者アンケート」を実施し、満足度調査を通して施設サービスの改善点や課題を明らかにしてより良い運営を目指し改善点に取り組んだ。

(7) 関係機関との連携

必要に応じて、福祉事務所、医療機関、障害者地域生活支援センター、就労支援団体、地域団体等と連携を取りながら利用者支援を行った。

6. 利用者支援【就労移行支援事業「ジョブサポートかたくり」】

(1) 作業支援

受注作業、自主製品作製・販売、公園清掃等を通し、就労に必要な挨拶・返事・報告・質問等のスキルが獲得できるよう個別の目標を立て支援を行った。

ア. 個別支援の充実

利用者の状況を把握し、意向や希望を聞き取りながら個別支援計画を作成し、個々の課題に対し、必要な支援を行った。今年度は、個別支援計画アセスメントの見直しを行いより就労意欲につながる様式とした。また、家族とも連携し、支援の充実に努めた。

(ア) 家族との連携 個々の状況に応じ実施した。

(イ) 個別支援策定会議 (年4回および必要に応じて随時、面談を行った)

イ. 工賃の支給、評定

4か月ごとに評定会議を開催し、評定点数を決定し工賃を支給した。

ウ. 作業内容

作業種目	作業状況
日用品のセット作り	箱折り・箱の組み立て・封入・テープとめ・セットの作業を仕分けから完品、B型への納品まで総合的に行った。
ダイレクトメール	封入・封緘・ラベル貼り・区分け・結束機、丁合機の操作など、利用者が自ら検品や完品の作業を行った。
ハウスクリーニング	法人が所有する土支田の戸建ての清掃を行った。道具の使用方法や清掃方法等を習得しながら作業を行った。
自主製品製作・販売	各販売会や出張所での自主製品の販売を通し接客などの訓練を行った。
施設外作業	「ショップ学園通り」での販売・接客、企業に赴いての配架作業を行い、就労へのイメージを深めた。
パソコン入力	パソコン入力やワード・エクセルなど基本操作の練習を行い、就労に向けて必要なパソコンスキルの習得を行った。
ワークサンプルプログラム	OA 作業、事務作業、実務作業に大別された 13 職種の訓練プログラムを通し、仕事のイメージづくりと作業遂行力の向上を図った。

(2) 就労支援

利用者の希望や適性に応じ関係機関と連携をしながら、企業実習、求人登録や申請など必要な手続きの補助や支援を行った。

ア. 地域就労支援ネットワーク作り

練馬区障害者就労支援ネットワークに積極的に参加し、他機関との連携を図り情報の共有化に努めた。今年度は、地域の精神保健連絡会にも参加し、ネットワークづくりを行った。

イ. 職場開拓

ハローワークやレインボーワークと連携し、職場開拓を行った。

ウ. 体験実習

企業とのつながりから、体験実習を1名実施した。

エ. ハローワークとの連携

職場開拓や体験実習等において、ハローワークと連携し利用者就労支援を行った。

オ. 職場定着支援

定着者3名の職場や機関等と連携し支援した。職場訪問・面談等を実施し定着支援を推進した。

カ. 余暇支援

就業者へ、グループ活動・外出行事等への参加を呼びかけ、余暇の幅を広げる機会を提供し、安定した就業生活につながるように支援した。参加回数：外出活動2回、かたくり祭り1回

キ. 就労支援の状況

- (ア) 就労者 今年度は就労者なし
- (イ) 企業見学 3回・・・都内の特例子会社等の見学会に参加した。
- (ウ) 企業実習 1名(延べ)・・・特例子会社で実習を行った。
- (エ) 採用実習 なし

(3) 生活支援

社会ルールやマナーなど社会生活に必要な技術や知識を身につけられるよう、生活支援講座を計画的に全39回実施した。

ア. 生活支援講座 (主な内容)

講座名	回数	内 容 等
働く	9回	働く上で必要なスキルと仕事の「報告・連絡・相談」等の講座や、人と接するときの態度や距離感などの対人スキルを身につけられるよう、ロールプレイなども行った。
生活	10回	健康管理や身だしなみなどについて、働く上で必要な生活面におけるマナーやルールを学ぶための講座を行った。

社会	9回	事前講習で学んだことを公共の場で体験し、社会生活に必要なスキルを身につけてもらう機会として行った。
グループ活動	6回	楽しみながら視野を広げるとともに、社会経験を豊かにすることを目的に、利用者が希望する施設や体験できる場所へグループで出かけた。でかけるにあたっては、利用者間で場所や行程の話し合いを行い、計画を立て実施した。実施後、振り返り、壁新聞の作成を行った。 場所：1回目 よみうりランド 2回目 オービィ横浜
調理実習	1回	自立生活のため調理や安全な調理道具の使い方、衛生について学んだ。
社会活動	4回	公共の場におけるマナーを学ぶこと、外出活動で必要な情報収集の方法について講座を行った。また、療育手帳の活用方法を知り、余暇において活動の幅を広げる体験も行った。 外出：1回目 国立科学美術館 国立西洋美術館 2回目 グループホーム高松 映画鑑賞

イ 行事 (就労継続支援B型に掲載)

【豊玉障害者地域生活支援センター きらら】

事業種別：「指定特定相談支援事業」「指定一般相談支援事業」「地域活動支援センター I 型事業」

「サービス等利用計画」作成の取り組みを通し、障害がある方たちや、その家族が地域で孤立せず安心して自分らしくいきいきとした生活を送ることができるように一緒に考え、支援することを目的として各種事業に取り組んだ。

1. 登録者の状況

利用者一人ひとりに必要な地域生活の情報提供をするために、利用申請登録制としている。今年度も、利用者状況の変化に対応するために、毎週のスタッフ会議での情報共有とともに登録更新を重点的に行った。今年度の新規登録者は、40代が一番多く、次いで30代と50代の登録が多い。また、登録者に関しては、40代～50代以上の利用者が顕著に増加している。60歳以上（70代含む）が51人となっており、利用者の高齢化が課題となっている。地区別では、豊玉保健相談所管轄が半数近い人数となっている。うつ病等気分障害や知的障害、広汎性発達障害者等の登録増加、重複の障害者の増加傾向がある。

(1) 性別

	男性	女性	総計
登録者総数	294名	252名	546名
H26年度登録者数	18名	10名	28名

(2) 年齢別

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明	総計
2名	34名	130名	207名	122名	51名	0	546名

(3) 地区別（保健相談所担当地区別）

豊玉	大泉	石神井	光が丘	北町	関町	区外	総計
244名	42名	86名	63名	32名	16名	63名	546名

2. 相談支援事業

障害者総合支援法第5条16項に規定する相談支援事業を行った。

(1) 地域の障害者の福祉に関する相談（基本相談支援）

生活上の相談、病状のこと、仕事や対人関係の不安や悩みなどの相談を受けた。

《電話相談》 月・火・木・金曜日の午前9時～午後8時
土・日曜日の正午～午後8時

《面接相談》 随時：火・金・土・日曜日の正午～午後7時

予約：火曜日の午前、木曜日の午前と午後4時～午後7時、月曜日

ア. 相談件数

(単位：件)

相談の種類	電話相談 (1日平均)	面接 (1日平均)	総数
26年度	4,673 (16.2)	1,858 (6.4)	6,531
25年度	6,086 (20.9)	2,993 (10.3)	9,079

イ. 相談内容

電話相談、面接相談の相談内容の合計で「不安解消・情緒安定」は55%で最も多く、次に「福祉サービス」が21%、「家族関係・人間関係」に関する相談が6%という順であった。

今年度は全ての相談の合計において、「福祉サービス」に関する相談が、25年度の17%から30%へ増加した。計画相談支援、地域移行支援での訪問等により外出する職員増加により職員間の連携強化を目的にミーティングを開所前後の実施に加え、業務日報、業務予定表の改善、一日単位のシフト表の工夫等を図り、情報の共有・支援の方向性の統一化を更に進めた。

(ア) 電話相談

電話相談は、「不安解消・情緒安定」が61%と最も多い。次いで「福祉サービス」が21%であった。面接相談と比べて、「不安解消・情緒安定」が多かった。電話件数が減少した要因として、前年度は無言電話も件数に入れていたが、今年度は集計方法を変更し相談には至っていないため件数として計上しなかった点と、毎日複数回電話相談をされていた方が、入院、作業所通所、デイケア利用等による生活の変化があり件数が減った事があげられる。

(イ) 面接相談

年間の予約面接・訪問相談件数は1,858件、その内、随時相談は1,352件であった。随時相談はオープンスペース開所中に対応した。オープンスペースに常時職員を配置し、利用者から

職員に相談しやすい雰囲気作りに努めた。社会資源の見学やプログラムにおける同行支援は59件であった。また、訪問による相談は前年度386件から、281件へと減少したが、これには計画相談支援が本格化し、困難事例の対応が増え、本人だけではなく家族や関係者が同席するケースではより聞き取りに要する時間が増えるなど、一回における訪問面接時間が長くなったことが理由として考えられる。

相談内容は「不安の解消・情緒安定」が42%、「福祉サービス」が22%、「家族関係・人間関係」が11%であった。

(ウ) 関係機関との連携

- a. 今年度は、計画相談支援、地域移行支援についての相談が増え、電話や面接等での関係機関との連携が前年度1,430件から1,640件と増加した。関係機関の種別では、サービス等利用計画に関わる関係機関（保健相談所、総合福祉事務所、病院、レインボーワーク、作業所、ヘルパー事業所等）からの相談が多かった。
- b. 大泉障害者地域生活支援センターさくらより、地域活動支援センターI型事業のプログラム、計画相談支援事業へ3日間2名の参加があり、センター間の支援の共有を図った。
- c. 精神保健福祉医療、障害福祉の関係者との連携・協力の強化を図るとともに、地域課題を共有し、情報交換を行う場を設けた。

名称	内容	回数
障害者地域自立支援協議会	障害者の自立した日常生活または社会生活を営むことができる地域生活を構築するため、障害保健福祉関係者等が連携し、情報の共有および協働を図るための方策を協議する場に参加した。	3回参加
障害者地域自立支援協議会・専門部会	〈内容〉 高齢期を迎える障害者と家族への支援の検討、意見交換等 〈構成メンバー〉 区内の精神科病院、障害福祉サービス事業者、家族会、練馬区総合福祉事務所、保健相談所、障害者施策推進課、練馬区社会福祉協議会	4回開催

(2) 障害福祉サービス等の利用計画作成（計画相談支援）：指定特定相談支援事業

障害者総合支援法第51条20項に規定する計画相談支援事業を行った。

障害福祉サービス利用者が、よりよい地域生活が営めるように、障害福祉サービス等の申請に係る支給決定前に、サービス等利用計画案を作成し、支給決定後に、サービス事業者等との連絡調整を行い、サービス等利用計画の作成を行った。

内容	具体的な取り組み	件数
計画相談契約者	計画相談支援のため、契約締結した。	101名
サービス等利用計画作成	適切なサービス等利用計画の作成をした。	129件
	サービス等利用計画が適正に行われているか、本人と家族や関係機関にモニタリングを実施した。	152件
計画作成支援（セルフケアプラン作成支援）	適切なサービス等利用計画を自ら立案できるよう支援した。	44件
サービス提供事業所等との連携	計画作成及び実行にあたり事業所等関係機関との調整を行う。	844件

(3) 地域の移行に向けての支援（地域移行支援・地域定着支援）：指定一般相談支援事業

障害者総合支援法第51条の19第1項に規定する地域移行支援・地域定着支援のための相談・調整を行った。

内容	具体的な取り組み	件数、人数
地域移行支援計画	適正な地域移行支援計画の作成	5件
精神科病院や地域のサービス事業者、社会資源との連携・調整	地域の社会資源を発掘、連携、情報共有を図り、地域移行者がすみやかに地域生活を行えるよう環境整備を図った。入院者や医療関係者に地域情報を提供し、地域との交流を図った。 主に社会復帰病棟を訪問し、入院者や医療関係者に地域情報を提供し、地域移行を促す。ソーシャルワーカーと連携をとり、入院者の地域移行の支援を行った。	71件

内容	具体的な取り組み	件数、人数
地域定着支援計画	適正な地域定着支援計画の作成	1件
精神科病院や地域のサービス事業者、社会資源との連携・調整	地域の社会資源を発掘、連携、情報共有を図り、地域移行者がすみやかに地域生活を行えるよう環境整備を図った。入院者や医療関係者に地域情報を提供し、地域との交流を図った。 主に社会復帰病棟を訪問し、入院者や医療関係者に地域情報を提供し、地域移行を促す。ソーシャルワーカーと連携をとり、入院者の地域移行の支援を行った。	3件

3. 地域活動支援センター事業

障害者総合支援法第77条第1項第9号に掲げる事業のうち、社会との交流促進その他の練馬区立障害者地域生活支援センター条例施行規則で定める事業を行った。

(1) 障害者の社会との交流の促進

地域の商店会や町会等のイベントに参画・協力し、地域住民と障害者の交流を図った。また、障害者の参加により地域活性化にも貢献し、きららを地域の方に知ってもらえる機会となったことで活動の場が広がった。

- ア. つつじ祭り (4/29・34名)
- イ. 七夕祭 (6月～7月・20名)
- ウ. 練馬こども笑店街 (7/5・19名)
- エ. 納涼祭 (7/25・20名、7/26・17名)
- オ. 豊玉氷川神社例大祭 (9/6・9/7、14名)
- カ. 酉の市 (一の酉 11/10・31名、二の酉 11/22・43名)
- キ. 千川通り駐輪禁止看板作成 (10月～2月・30名)

(2) 関係機関との連携

ア. 関係機関が主催する連絡会議等への参加

関係機関との連携強化を図り、相談者に対し質の高いサービスが確保されるように、関係機関が開催する連絡会議等にも積極的に参加した。

名称	内容
地域生活支援センター所長会・練馬区精神保健ブロック別担当者連絡会・練馬区障害者就労支援ネットワーク会議・練馬区障害福祉サービス事業者連絡会・練馬区精神障害者作業所連絡会	・関係機関とのネットワーク化 ・指定障害者福祉サービス事業者等とお互いに顔が見え、情報共有できる関係を築けるよう努めた。

イ. 地域密着型連携支援事業

練馬障害福祉人材育成・研修センターとともに豊玉・練馬近隣地域という小地域のエリアで障害福祉サービス提供事業所9事業所と情報交換会を行い、事業所のニーズを踏まえた地域に密着した研修を開催した。

・情報交換会の開催

各事業所の現状・抱える課題等についての情報交換、研修会の企画・振り返り等の内容で6回実施 ※詳細は、【練馬障害福祉人材育成・研修センター】1(3)ア. 参照

(3) 住民ボランティアとの協働

ア. 障害に対する理解を深めるため、地域住民との交流を図り、福祉のまちづくりを目指した。

(ア) 地域のイベント・お祭りへの参加 ※上記3.(1)参照

イ. 当事者への生活支援、就労支援、地域交流、組織化などの事業に、ボランティアを受け入れた。

(ア) 活動状況 延べ人数：395名 日数：150日

(イ) 活動内容：オープンスペースの運営支援、パソコン開放におけるパソコンの指導および利用者との交流、昼食会の準備、献立作り・調理および利用者との交流、食事、茶道体験の支援、地域交流におけるイベント等の支援、園芸プログラム(花くらぶ)、男性料理教室の支援、体操プログラムにおける指導および利用者との交流、SSTへの参加、出張きららでの公園散策、トライアル・ゼミ、囲碁教室での講師など。

(ウ) ボランティア交流会の実施

「ボランティア感謝の集い」を実施し、きららで行われている様々なボランティア活動をお互いに知り合う機会を作りボランティア同士および当事者との交流を図った。(3/9・33名)

(4) 障害に対する理解の促進を図るための普及啓発

発行物・イベント等	内 容	
障害者地域生活支援センターきららだより「たけのこ」	月間スケジュール、福祉関連情報、プログラム・イベントのお知らせ・報告	毎月 2300 部発行 関係機関・希望者配布
きららパンフレット	きららの利用について／きららの概要	随時発行
練馬区社協ホームページ	きららパンフレット／きららだより「たけのこ」	毎月掲載
きらら主催イベントのチラシ	精神保健福祉従業者向け研修プログラム（就労グループ、就労準備グループ、就労実習等）周知	随時発行
「誰でも参加できる SST」の開催	対象を支援者・関係機関まで広げ、SST を実施。講師：同朋大学社会福祉学部社会福祉学科吉田みゆき氏	6/21(34名)、 2/21(33名) の参加
障害年金講座の開催	テーマ「障害年金の基礎知識」 ※NPO 法人練馬精神障害者家族会、一般社団法人年金トータルサポート・コスモとの共催（当事者・家族対象）	3/8 42名参加
10周年記念イベント	「きらら 10 年のあゆみ」をメンバーが中心となり、実行委員会形式で 4/13 より毎週日曜日の午後にした。6/8 に「きらら 10 周年イベント」を開催した。当日きらら開設から関わりのある方の講演、メンバー参加による、歌や演奏、きららへの思いを語っていただく等を行い、好評を得た。	・実行委員会話し合い計 6 回 57 名 ・10 周年記念イベント 141 名

(5) 障害者の自立した日常生活を支援するために必要な支援

ア. 日常生活における必要な技術の習得、憩いの場や様々な情報提供、当事者、関係機関の情報交換の場の提供、生活の質を高める援助等を行うためのプログラムを開催し、豊かな生活を送れるよう支援した。

名称	内容・時間帯	延べ参加人数
10周年記念イベント	5. 地域活動支援センター I 型事業（4）10 周年記念イベント再掲	実行委員会話し合い、10 周年記念イベント延べ 198 名
オープンスペース	仲間と話をしながら、安心して居られるスペース。オープンスペースの利用から生活面、就労面等様々な相談にもつながっている。 火・金・土・日曜日正午～午後 7 時	6671 名
パソコン教室	パソコンの操作を学ぶことで向上心を高める役割を果たした。専門のインストラクターが一人ひとりに合ったパソコンの技術を指導した。 第 1・2・3 火曜日午後 1 時～午後 5 時／4 クラス（初心者クラス・初級クラス A・B、復習クラス）を設定した。	437 名
パソコン開放	パソコン教室以外にもパソコンを使用する機会を設け、パソコンへの興味関心を深めた。パソコンのわからないところを指導するためにボランティアが入った。第 2・4 土曜日午後 2 時～午後 4 時	242 名
昼食会	多くの人とともに昼食をとる機会を持ち、楽しい時間を過ごした。ボランティアの方たちが季節に合わせた料理を作り、片づけをそれぞれが行った。第 3 金曜日の正午～	179 名
昼食会（カレーの会）	多くの人とともに昼食をとる機会を持ち、楽しい時間を過ごした。ボランティアの方たちが料理を作り、片づけはそれぞれが行った。 第 2 金曜日の正午～	229 名
茶道体験	日常的に体験する機会のない和の静寂な世界を体験する機会を提供した。表千家講師伊藤宗郁先生がボランティアで指導した。 第 3 土曜日午後 2 時～	107 名
スポーツ	身体を動かしたいという要望により、利用者同志の親睦、健康増進を促した。卓球・ストレッチ・練馬いきいき体操等。定期的に運動したいという要望が多く月 1 回実施した。第 1 土曜日午後 1 時 30 分～	175 名

花くらぶ	ボランティアときららメンバーが、近所の公園や公共施設の花壇（練馬図書館・中央通り・練馬駅・平成つつじ公園・本通り商店会・練馬デイサービス等）の花を育て、手入れを行った。練馬区みどり推進課・練馬みどりの機構と協働。毎週火曜日午後2時～午後4時	719名
レディースデイ	女性だけで女性特有の話をする機会を設けた。料理教室、女性の身体の変化について知るなど、女性メンバーの希望により様々な内容を行った。	20名
SST（ソーシャルスキルズトレーニング）	日常生活のコミュニケーションスキルを高める練習を行う。ウォーミングアップの技法から展開し、個別の課題に取り組んだ。今年度は個別課題の聞き取りを重点的に行い、実生活の中でより役立つ練習が出来るよう取り組んだ。第1・2・3金曜日午後2時～午後4時	397名
出張きらら in 光が丘	光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナーと連携し、地域のボランティアに協力していただき、光が丘公園散策、フラダンス教室、野鳥観察等を行った。	52名
就労準備グループトライアルゼミ	就労の意欲・能力があってもその機会に恵まれないメンバーに対し就労のためのスキルや知識、情報を共有し、就労するための気持ちづくりをするグループワークを行った。練馬区障害者就労促進協会（レインボーワーク）と共催。企業見学も行った。第4金曜日午後2時～午後4時	117名
就労体験	具体的な就労の場で働くことを体験する機会を提供した。 体験先：光が丘LIVIN、練馬デイサービスセンター。	20名
男性料理教室	単身でお住まいの方や、料理に慣れていない男性向けに簡単で美味しく、気軽に作れる料理と一緒に作って食事をした。講師は、練馬いきいき体操でお世話になっているボランティアの方（栄養士）。	27名
りりーふぼーと	就労している方が、情報交換をする会。仕事の悩みや不安、元気になるためのひと工夫など、同じように働く人が普段感じていることなどを話し合った。 隔月第3土曜日 練馬区障害者就労促進協会（レインボーワーク）と共催。	34名
クリスマス会	ゲーム大会や利用者の歌等の出し物を楽しみながら歓談した。年1回のこの会を楽しみにしているメンバーも多く、当事者会が主催し、実行委員会形式で開催した。	46名
大掃除	きららオープンスペースの大掃除をメンバー有志とともにいった。年末恒例となっており、掃除の後には歓談しながら一年の無事を確認した。	24名
栄養講座	栄養士の資格を持つボランティアの方に講師を依頼し、食生活の改善や生活習慣病の予防等を目的に栄養講座を行った。	13名
年度末大掃除	年度末最後の日曜日に、オープンスペース等メンバー・スタッフで大掃除を行い、今年度を締めくくった。	11名
創作の日	「エコ楽しく倶楽部」との共催で一斗缶と自転車の部分を利用した。ボランティア、メンバー、地位住民の交流の場となった。	17名

イ. 当事者の支援・組織化

当事者、家族、専門職の支援と組織化を図り、当事者主体となり気軽に参加しやすいよう各プログラム委員会形式を採用し、当事者会の充実につなげた。

名称	内容	延べ参加人数
囲碁教室	元日本福祉囲碁協会の会長を講師に迎え囲碁教室を行った。健生会の方も参加し、合同で講義を受けた。毎月1回開催。	81名
クリスマス会	ケーキやお菓子を食べながらゲームやメンバーの歌等による楽しいひと時を過ごした。実行委員会形式で開催。	56名
音楽を語る会	当事者の会で実行委員を募り、自分の好きな音楽の思い出や音楽を通じた経験等を分かち合う時間を持つ。不定期で開催。	54名
外出（浅草～お台場水上バスツアー）	外出の機会が減りがちな冬場に、話題の場所へ出掛けた。実行委員会形式でメンバーが行先案等を出し、希望した水上バスツアーを実施した。	19名

4. 地域移行支援事業

(1) 精神障害者退院促進支援事業

地域で生活することを望む精神障害者の入院患者に対して、医療機関、福祉関係機関と連携して円滑に退院できる仕組みを構築し、地域保健、福祉の向上を図った。

※ういんぐと協働で実施 ※陽和病院はきらら、慈雲堂病院はういんぐがそれぞれ主担当となった。

	名称	内容・時間帯	支援状況
個別支援	同行支援（社会資源の見学・視察・手続き等）	地域生活をイメージ化するために、社会資源を訪問し、見学する機会を持った。また、利用者と交流し、活用方法を知る機会とした。	計3回支援 延べ48名
	病棟でのグループワーク、プログラム参画	区内の3病院（大泉・陽和・慈雲堂内科病院）と連携し、病棟訪問・交流・グループワークを行った。グループワークでの社会資源紹介では、地域生活サポーターが製作した作業所マップ「作業所に行こう！」を紹介・発表も行った。	計29回グループワーク参画、交流 延べ486名
関係機関調整	連絡調整・打合せ	病棟での取り組みについて、病棟関係者と検討、打合せを行った。病院関係者と病棟訪問、交流に関する打合せを行った。 陽和病院 計26回 慈雲堂病院 計19回 大泉病院 計28回	計99回
	①広域退院促進コーディネート事業所連絡会（いっぽの会） ②練馬区退院促進連絡会	都内の退院促進コーディネート事業所が集まり、意見交換・協議を行い、退院支援を進めるための情報交換と共有を行った。	①計11回参加 ②計1回参加
関係機関会議	地域生活サポーター養成講座	当事者が地域生活サポーターとして地域生活の先輩として入院患者の退院を応援する意義を学び合い、地域生活での工夫を出し合った。地域生活サポーターが自分の体験を通して的確なアドバイスをすることで、入院患者が退院を現実に近いものとしてイメージすることができ、サポーター自身の力にもなった。	毎月開催延べ156名参加
当事者活動支援	サポーター通信「ぴあまっぷ」作り 「作業所紹介マップ」改訂	地域生活サポーターの活動や地域の情報等を載せた通信紙、「ぴあまっぷ」作りを発刊した。毎月編集会議を行い、第10号を発刊し、3病院の入院患者や精神保健関係者等に配布した。「作業所紹介マップ」の改訂作業も行い、編集箇所や取材計画を立てた。	毎月開催延べ115名参加 第10号1,200部配布
	地域生活サポーター活動（当事者の講演や説明会など）	退院促進事業の地域生活サポーターが当事者・関係者に向けた講演や説明会を行い今後の活動につなげるとともに、当事者活動の紹介や情報交換、当事者・関係機関等の交流の場とすることを目的に参加した。	計1回
見学受入	病院の退院促進グループ	他機関の退院促進グループに関わっている当事者が、退院後の地域生活の質を高めるための居場所や余暇活動の場として、きららとういんぐを積極的に活用できるように見学を受け入れた。 陽和病院よりきらら来訪2回	計2回

5. その他

(1) 基盤整備

豊玉障害者地域生活支援センターの運営や利用のあり方について検討するため、「運営委員会」や「利用者懇談会」を開催した。

名称	内容・時間帯
運営委員会	精神保健福祉に造詣が深く、経験豊かな地域住民、専門職、関係機関・団体の方に参画を依頼し、2か月に1回、意見を出し合い、きららの運営についてスタッフとともに検討した。計6回
利用者懇談会	利用者同士が話し合う場であるとともに、きららへの要望を聞き取る機会とした。計12回 延256名

(2) 実習生の受け入れ・人材育成・職員派遣

精神保健福祉士、社会福祉士養成機関等の実習生や看護師等の実習を受け入れ、障害のある方の地域生活や具体的な支援の場を知り学ぶ機会を作った。

(ア) 受け入れ状況

- a. 資格取得実習（社会福祉士） 18名 （精神保健福祉士） 5名
- b. 看護師実習 2名
- c. 施設体験 1大学
- d. その他 インターン・シップ(パワーアップカレッジ、社会貢献型後見人) 5名

(イ) 対人援助に必要な研修に参加した。計41回

(ウ) 福祉従事者に向けた勉強会を開催した。

名称	内容・日時	延べ参加人数
SST勉強会	第5回目(6/21)第6回目(2/25)は、同朋大学准教授およびSST普及協会認定講師の吉田みゆき先生を講師に、『誰でも参加できるSST』を、当事者・家族・支援者向けに体験、学ぶ勉強会を開催した。 SST勉強会を実施しているもしくは、実施を検討している医療・福祉関係者とともに勉強会を行った。10月9日、3月23日 ※『誰でも参加できるSST』は、NPO法人練馬精神障害者家族会・石神井障害者地域生活支援センターういんぐとの共催	92名

(3) 職員（講師）派遣

ア. 各種講座への講師派遣

講師派遣依頼にも積極的に応じることで、障害への理解・啓発を図るとともに、人材育成への協力と自主財源の獲得に努めた。今年度はサービス等利用計画の説明を積極的に行った。

講師派遣：延べ10回（豊玉ブロック地域精神保健福祉関係者連絡会/「相談支援事業について・基幹相談支援センターについて等他」、計画相談支援等）

イ. 関係機関の会議への参加

練馬区やきららのよりよいサービス向上につなげるため、都や区内の精神保健福祉関係等の会議に参加しての情報交換、情報の共有化に努めた。（練馬区就労促進協会・就労支援ネットワーク会議/「障害者のある方の就労についての各関係機関の望ましい連携について」 他）

ウ. SST学術集会への参加

SST普及協会が主催する「第19回SST学術集会」に参加し、一般演題において『「誰でも参加できるSST」に参加者の認知の変化の要因を明らかにする。～「通常SST」と「誰でも参加できるSST」の利用者の発言の記録と分析から～』として実践報告をした。

(4) 危機管理・安全対策

所内の安全点検を定期的に行うとともに、大規模災害に備え、ヘルメット・ブランケット・飲料水・食品等備蓄品・衛生用品・通信機器の点検・整備等・購入を行った。

例年実施している保健相談所との合同の防災訓練の他、6月には東京消防庁池袋防災館の見学・防災体験に参加した。25年度に作成した発災当日夜までの「BCP」（事業継続計画）に基づく避難訓練を10月に実施し、地域の避難拠点までの移動も含めた避難訓練を行った。また、26年7月に実施した安全対策委員会主催の「BCP」研修をもとに、2日目以降の「BCP」の作成に取り組み、所内の掲示・周知を徹底した。27年2月には、栄養講座において「食と防災」のテーマで、非常時の食生活や日頃から準備しておくよい食材を学ぶとともに、実際に非常食の調理等を行い日頃からの防災の意識化を行った。

【石神井障害者地域生活支援センター ういんぐ】

事業種別：「指定特定相談支援事業」「指定一般相談支援事業」「地域活動支援センターⅠ型」
 障害がある方たちや、その家族が地域で孤立せず、安心して自分らしくいきいきとした生活を送ることができるように一緒に考え、支援することを目的として各種事業に取り組んだ。

1. 登録者の状況

利用者一人ひとりに必要な地域生活の情報提供をするために、利用登録申請制度を取っている。今年度は新たに 63 名の登録者があり、ういんぐ開所以来登録者の総数は 500 名を超えた。新規登録者では半数以上が精神保健福祉手帳を所持しており、特に 2 級の所持者が多かった。

また、年代別でみると 40 代が 33.3%と最も多く、次いで 50 代、30 代と続いた。計画相談作成支援でういんぐに来所した方が、日中活動の最初のステップとして登録をするケースも増えてきている。地区別の登録者数では、石神井保健相談所管轄が半数以上の人数となっており、次いで大泉、関町の管轄が多くなっている。

(1) 性別

	男性	女性	総計
登録者総数	275 名	231 名	506 名
25 年度登録者数	41 名	48 名	89 名
26 年度登録者数	35 名	28 名	63 名

(2) 年齢別

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	不明	総計
2 名	43 名	125 名	183 名	103 名	49 名	1 名	506 名

(3) 地区別（保健相談所担当地区別）

豊玉	大泉	石神井	光が丘	北町	関町	区外	総計
41 名	74 名	255 名	17 名	5 名	61 名	53 名	506 名

2. 相談支援事業

障害者総合支援法第 5 条の第 16 項に規定する相談支援事業を行った。

(1) 地域の障害者の福祉に関する相談（基本相談支援）

生活上の相談、病状のこと、仕事や対人関係の不安や悩みなどの相談を受けた。

《電話相談》 月・水・木・金曜日の午前 9 時～午後 8 時
 土・日曜日の正午～午後 8 時

《面接相談》

随時：月・水・土・日曜日の正午～午後 7 時

予約：水曜日の午前、木曜日の午前と午後 4 時～午後 7 時、金曜日の午前 9 時～午後 7 時

ア. 相談件数

(単位：件)

相談の種類	電話相談 (1 日平均)	面接 (1 日平均)	総数
26 年度	10,299 (35.5)	3,316 (11)	13,615
25 年度	6,841 (23.6)	1,572 (5.4)	8,413

イ. 相談内容

電話相談、面接相談の相談内容の合計では「福祉サービスの利用」内容が 45%で最も多く、次に「不安解消」に関する相談が 35%、「健康・医療」に関する相談が 5%という順であった。今年度は昨年度に引き続き「福祉サービス」に関する相談が大きく割合を増やし 29%から 45%となった。福祉サービスに関する相談内容が最多となったのはういんぐ開所後初めてのことである。

(ア) 電話相談

「福祉サービスの利用」の内容が最も多く、「不安解消・情緒安定」に関する相談が続き、「健康・医療」に関する相談の順であった。サービス等利用計画作成のための事前説明や情報共有を目的としたやり取りが増加したことで、「福祉サービスの利用」の相談数が多くなったと考えられる。

(イ) 面接相談

年間の予約面接・訪問相談件数および随時相談は 3,316 件であった。随時相談は主にオープンスペースに常に職員を配置し、利用者から職員に相談することができるよう環境整備に努め

た。また、訪問による相談も前年度 246 件から、今年度は 762 件と大幅に増加した。サービス等利用計画作成依頼の大幅な増加があったためと考えられる。

(ウ) 関係機関との連携

- a. 相談支援事業における相談者の支援のため、関係機関との連携を図った。電話や面接等で連携を計 3,117 件行い、支援の充実に努めた。前年度(1,363 件)と比較し、1,754 件増加しており、件数としては約 2 倍の増加となった。
- b. 精神保健福祉医療、障害福祉の関係者との連携・協力の強化を図るとともに、地域課題を共有し、情報交換を行う場を設けた。

名称	内容	回数
障害者地域自立支援協議会	障害者の自立した日常生活または社会生活を営むことができる地域生活を構築するため、障害保健福祉関係者等が連携し、情報の共有および協働を図るための方策を協議する場に参加した。	3 回参加
障害者地域自立支援協議会・地域移行専門部会	〈内容〉精神科病院の入院者・施設入所の障害者の地域移行・定着支援の課題について協議した。 〈構成メンバー〉 区内の精神科病院、障害福祉サービス事業者、練馬区民生児童委員協議会、福祉事務所、中部総合精神保健福祉センター、保健相談所、障害者施策推進課、練馬区社会福祉協議会	4 回開催

(2) 障害福祉サービス等の利用計画作成(計画相談支援)：指定特定相談支援事業

障害者総合支援法第 51 条の 20 第 1 項に規定する計画相談支援事業を行った。

障害福祉サービス利用者がよりよい地域生活が営めるように、障害福祉サービス等の申請に係る支給決定前にサービス等利用計画案を作成し、支給決定後にサービス提供事業者等との連絡調整を行い、サービス等利用計画の作成を行った。

内容	具体的な取り組み	件数
計画相談契約者	計画相談支援のため、契約締結した。	194件
サービス等利用計画作成	適切なサービス等利用計画の作成をした。	216件
	サービス等利用計画が適正に行われているか、本人と家族や関係機関にモニタリングを実施した。	302件
計画作成支援(セルフケアプラン作成支援)	適切なサービス等利用計画を自ら立案できるよう支援した。	9 件
サービス提供事業所等との連携	計画作成及び実行にあたり、必要に応じて担当学会議、モニタリングを実施した。	2,642 件

(3) 地域生活の移行に向けての支援(地域移行支援・地域定着支援)：指定一般相談支援事業

障害者総合支援法第 51 条の 19 第 1 項に規定する地域移行支援・地域定着支援のための相談・調整を行った。

内容	具体的な取り組み	件数、人数
地域移行支援計画	適正な地域移行支援計画の作成を行った。	1 件
精神科病院、地域のサービス事業者などとの連携	入院者や医療関係者に地域情報を提供し、入院者の地域移行の支援を行った。また、地域の社会資源を発掘、連携、情報共有を図り、地域移行者がすみやかに地域生活を行えるよう環境整備を図った。	198 件
退院者	ういんぐによる地域移行支援計画作成と実施を受け、退院した人数	4 名

3. 地域活動支援センター事業

障害者総合支援法第 77 条の 1 第 1 項第 9 号に掲げる事業のうち、社会との交流促進その他の練馬区障害者地域生活支援センター条例施行規則で定める事業を行った。

(1) 障害者の社会との交流の促進

地域の商店会、町会等のイベントに参画、または協力し、地域住民と障害者の交流を図った。また、障害者の参加により、地域活性化にも貢献し、ういんぐを地域の方に知ってもらう機会となり、地域で活動の場が広がった。

ア. 石神町会婦人部文化展参加 (4/18～21 出展者 9 名)

イ. 「チルコロ石神井」(11/9・3/29、延べ(計) 28 名)

ウ. 「白百合まつり」(延べ(計)10/25 16 名)

エ. 「たなばた笹飾りづくり」(6/29 28名)

オ. 「えーるフェスティバル」協力(5/31・6/1 駐輪場整備で参加 延べ8名)

(2) 関係機関との連携

ア. 相談支援事業における相談者の支援のため、関係機関との連携を図った。
電話や面接等で連携、計633件

イ. 障害者福祉サービス事業者等との連絡調整

関係機関が集まる会議体を主催し、連携を図り、指定障害者福祉サービス事業者等との連絡調整を充実させた。また、関係機関が開催する連絡会議等に参加し、連携を図った。

(ア) 関係機関が主催する会議へ参加

関係機関との連携強化を図り、相談者に対し質の高いサービスが確保されるように、関係機関が開催する連絡会議等にも積極的に参加した。

名称	内容
地域精神保健福祉関係者連絡会・地域生活支援センター所長会・練馬区中途障害者支援事業連絡会・高次脳機能障害関係者連絡会・地域生活移行支援会議圏域別会議(10区)・練馬区障害者就労支援ネットワーク会議・地域密着型連携支援事業における情報支援会・SSTを活用した交流会・「チルコロ石神井」出店者会議	・関係機関とのネットワーク化 ・指定障害者福祉サービス事業者等とお互いに顔が見え、情報共有できる関係を築けるよう努めた。

(イ) 地域密着型連携支援事業

今年度より練馬障害福祉人材育成・研修センターとともに西大泉・南大泉地区・石神井地区において障害福祉サービス事業所の情報交換会を行った。

事業所の抱える課題等を事業所間とともに考え連携して支援できる環境をつくることを目的に、地域課題の共有や情報交換を行った。

・情報交換会の開催

各事業所の現状・抱える課題等についての情報交換等の内容で5回実施

※詳細はP.70【練馬障害福祉人材育成・研修センター】1(3)ウ参照

ウ. 地域の関係機関が主催する会議やイベントに参加することにより、関係機関相互の連携構築に努めた。「石神町会婦人部定例会・新年会」、「民生・児童委員協議会」、「石神町会防災訓練」、「石神町会夜回り」

(3) 住民ボランティアとの協働

ア. 障害者に対する理解を深めるため、地域住民との交流を図り、福祉のまちづくりを目指した。

(ア) 精神保健福祉ボランティア講座開催。8名参加(実人数)

内容: 地域の方を対象に、①ういんぐメンバーとボランティアによる講義。②ういんぐでのボランティア体験(きれいにし隊!・出張ういんぐ・歩き隊)③交流会の実施

成果: 精神保健福祉の啓発とともに、ボランティア体験を通して当事者との自然な関わりを創出したことでボランティアの役割について理解を深めた。

また、その後継続したボランティア活動につながることができた。

(イ) 地域のイベント・お祭りへの参加 ※上記3.(1)参照

イ. 当事者への生活支援、就労支援、地域交流、組織化などの事業に、積極的にボランティアを受け入れた。

(ア) 活動状況 延人数: 120名、日数: 89日

(イ) 活動内容: 「出張ういんぐ」のおやつ作り・外出企画の同行・オカリナ演奏・消費者講座・タップダンス、「オープンスペース」での話し相手・茶道講師・「きれいにし隊!」・「歩き隊!」などのプログラムへ参加をした。

(4) 障害に対する理解の促進を図るための普及啓発

発行物・イベント等	内容	
石神井障害者地域生活支援センターういんぐだより「すずらん」	月間スケジュール、福祉関連情報、プログラム・イベントのお知らせ・報告	毎月2,300部発行 関係機関・希望者配布
ういんぐパンフレット	ういんぐの利用について/ういんぐの概要	随時発行
ういんぐ主催イベントのチラシ	講座、パソコン教室、茶道体験、出張ういんぐ、就労プログラム等の周知	随時発行
練馬区社協ホームページ	ういんぐパンフレット/ういんぐだより「すずらん」	毎月掲載

出張ういんぐ開催（大泉、関町）	区内2所のボランティア・地域福祉推進コーナー（大泉、関町）でテーマを企画し開催した。	毎月各1回（2所）
精神保健福祉講座の開催	テーマ「どうしてこころは病むのか？」 ～安心して地域で生活するために知っておきたい10のこと～ 講師：森川すいめい（精神科医）	7/15 66名参加
精神保健福祉ボランティア講座	※上記（3）ア（ア）参照	
地域住民との協働	石神町会婦人部定例会、石神町会新年会・防災訓練等に参加。石神町会婦人部文化展参加。チルコロ石神井参加、チルコロ石神井定例出店者会議参加。	

（5）障害者の自立した日常生活を支援するために必要な支援

ア. 日常生活における必要な技術の習得、憩いの場や様々な情報提供、当事者、関係機関の情報交換の場の提供、生活の質を高める援助等を行うためのプログラムを開催し、豊かな生活を送れるよう支援した。

名称	内容・時間帯	人数(延べ)
オープンスペース	仲間と話しをしたり、安心して過ごせる居場所。オープンスペースを利用することで、相談につなげるきっかけとなった。 ☆月・水・土・日曜日正午～午後7時	5,614名
パソコンにふれてみよう	パソコンの操作を学ぶことで技術習得の機会を提供した。専門のインストラクターが一人ひとりに合ったパソコンの技術を指導した。☆第1・2・3水曜日午後1時～午後5時/4クラス（初心者・初級A・B・チャレンジクラス）を設定。	455名
出張ういんぐ（大泉、関町）	大泉、関町2か所のボランティア・地域福祉推進コーナー（VC）を拠点とし、ういんぐ以外の場所で地域交流の場を展開した。☆第2金曜日・関町VC、第4金曜日・大泉VC（午後1時～午後3時）	248名 (大泉121名・関町127名)
きれいにし隊！	ういんぐ室内や保健相談所周辺地域をメンバーとボランティア・スタッフが共に清掃に取り組むプログラム。清掃の他、練馬みどりの機構との協働による園芸活動も行った。☆毎週水曜日（午後2時～午後3時）	735名
茶道体験してみませんか？	ボランティアである表千家の先生よりお点前の指導を受け、和の心を体験する機会を提供した。☆第3月曜日（午後2時～午後3時）	181名
歩き隊！	ウォーキングを中心に運動する機会を提供するとともに、社会資源を積極的に利用し、メンバーやボランティア、スタッフが交流できる機会を持った。☆月1回実施。	111名
IMR(リカバリーと病気の自己管理プログラム)	Illness Management and Recovery（リカバリーと病気の自己管理プログラム）の頭文字で、精神障害者の方々のリカバリーのために効果があるとされる複数の支援方法を組み合わせ、総合的に提供できるように開発されたプログラム。6ヶ月単位のグループワークを2クール実施した。☆毎週土曜日実施 3/18・3/28に説明会を行った。	272名
夕食会（持ち寄り・調理）	メンバー、ボランティア、民生児童委員、スタッフなどで協力しながら調理をし、会話を楽しみながら食事をする。☆奇数月は調理、偶数月は持ち寄りを実施。	295名
就労支援プログラム	レインボーワーク・ハローワーク池袋・就労支援機関と協力し、障害者雇用で仕事をしている人の話を聴いたり、企業の現場訪問をする等、仕事に対するイメージを作れるようにサポートした。また、就労についての懇談会を行い、意識を高め合った。☆隔月に1回開催。	77名
国際交流	NPO法人練馬区障害者福祉推進機構と共同で、ういんぐにて国際交流に関するイベントと題し「ネパール」の文化に触れた。☆1月24日実施 (NPO法人練馬区障害者福祉推進機構 女性部会「ひとねっと」共催)	33名
サイコドラマ・夢見るカメレオン	心理劇を通じて、参加者同士が抱えている問題等に共感する体験を重ねた。偶数月は講師を招き、奇数月はスタッフとメンバーのみで「夢見るカメレオン」と名付けてサイコドラマを実施した。	164名
映画会	上映作品のタイトル等をメンバーと検討しながら、当会の準備を行い、実施した。☆月1回実施。	127名
障害年金勉強会	社会保険労務士を講師に招き、障害年金について気軽に相談する機会と、障害年金の周知を目的に支援者向けの勉強会を行った。3/6開催。	17名

ういんぐ防災対策(避難訓練等)	災害時に備え震度5強以上の地震を想定し、メンバー・スタッフとともに避難拠点への実動避難訓練を実施した。9/30、3/11実施。	30名
なでしこ会	女性同士で安心して話をしたり、楽しんだりする機会を提供した。また、プログラムを通してういんぐを利用しやすくなるようにする。☆隔月に1回開催。	53名
創作の日	利用者各自の趣味などを活かすために、皆が集まって活動した。文化展共同作品であるネリー看板や、ネリーちぎり絵を作成。☆月1回実施。	140名
卓球	身体を動かしたいという要望から、卓球プログラムを開始した。利用者の親睦、健康増進を目的とする。☆月1回実施。	145名
介護者のつどい	介護を行っている同じような状況の利用者同士で悩みを共有する。9月、12月、3月に開催した。	34名
練馬区健康いきいき体操	屋内で行う体操プログラム。メンバーからの要望を受け、普及員をまねき、楽しく簡単にできる体操を一緒に行った。☆8月9日実施	12名
チルコロ石神井	年に2回開催される、石神井公園商店街のおまつり「チルコロ石神井」に、メンバーとともに参加した。ういんぐは「わなげゲーム」を実施。①11/9 ②3/29	28名
チルコロ石神井実行委員会	メンバー中心の実行委員を結成し、年2回のチルコロ石神井まつりの準備を行い、実施した。11/9開催のチルコロ実行委員会は、計6回実施。3/29開催のチルコロ実行委員会は、計5回実施。	67名
白百合まつり	白百合福祉作業所にて、施設公開や模擬店などの実施に、ういんぐも参加した。メンバーとともに、フランクフルト200本を調理・販売した。10/25実施。	16名
白百合まつり実行委員会	メンバー中心の実行委員を結成し、白百合まつりの準備を行い、実施した。計3回実施。	19名
季節を感じるプログラム「クリスマス会」	年末の特別企画。当日のスケジュールや出し物を、メンバーと協力して考えて開催した。☆単発企画	43名
クリスマス会実行委員会	メンバー中心の実行委員を結成し、当会の準備を行い、計6回実施した。また、ハンドベル練習もメンバーとともに、計4回行った。	55名
季節を感じるプログラム「七夕飾りづくり」	地域の子どもとその家族がういんぐにてメンバーと七夕飾りづくりを行った。練馬まち環境倶楽部共催 6/29実施。☆単発企画	28名
季節を感じるプログラム「かき氷」	懇談会などでメンバーから出た意見をもとに夏限定の企画を考えて実施した。☆単発企画	19名

イ. 当事者の支援・組織化

(ア) 当事者、家族、専門職の支援と組織化を図った。

名称	内容・成果
高次脳機能障害者と家族のつどい「つぼみの会」	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年1月より高次脳機能障害者と家族が集まる場を作った。自分や家族の状況を話し合うなど、情報交換をする場になっている。同じ病気や障害を経験している人や家族同士が、安心して話せる場になっている。(平成26年度 延べ92名参加) 東京都心身障害者福祉センター高次脳機能障害者支援担当の大塚祐子氏(作業療法士)を講師に招き地域住民や支援者を対象に「高次脳機能障害者の理解と対応について」の講座を行った。(2月23日 24名参加)

(イ) 当事者の活動等を、当事者・家族・関係機関等に紹介するための発表会、情報交換や交流を行った。※きららと協働で実施。詳細は きららの4.(1)参照

(6) 地域移行支援事業

精神障害者退院促進支援事業

※きららと協働で実施。詳細は きららの4.(1)参照。

4. その他

(1) 基盤整備

石神井障害者地域生活支援センターの運営や利用のあり方について検討するため、「運営委員会」や「利用者懇談会」を開催した。

名称	内容・時間帯
運営委員会	精神保健福祉に造詣が深く、経験豊かな地域住民、専門職、関係機関・団体の方に参画を依頼し、2か月に1回、意見を出し合い、ういんぐの運営についてスタッフとともに検討した。

利用者懇談会	利用者同士が話し合う場であるとともに、ういんぐへの要望を聞き取る機会とした。 毎月1回 土曜日の午後1時30分～午後2時30分 延べ202名参加
--------	---

(2) 実習生の受け入れ・人材育成・職員派遣等

ア. 実習生の受け入れ

社会福祉士・精神保健福祉士・保健師養成機関等の実習生や見学者を受け入れ、職員の支援と施設の機能及び当事者の活動を伝える役割を担った。

(受け入れ状況)

- a. 資格取得実習(社会福祉士) 18名 (精神保健福祉士) 5名
- b. 施設体験実習(保健師) 8名 (精神科認定看護師退院調整領域) 1名
- c. インターン・シップ(地域福祉パワーアップカレッジねりま) 2名

イ. 人材育成

職員の相談支援の資質向上や、より有効な福祉サービスにつなげられるよう情報共有の場である会議や専門性を高める研修へ参加した。あわせて職員の講師派遣事業にも積極的に取り組んだ。

(ア). 対人援助に必要な研修に参加した。延べ計42回

(イ). 福祉従事者に向けた勉強会を開催した。

名称	内容・日時	延べ参加人数
支援者向け年金勉強会	講師：一般社団法人 年金トータルサポート・コスモ 篠原 忠(社会保険労務士) 山崎 剛(社会保険労務士) 開催日：3月6日 共催：一般社団法人 年金トータルサポート・コスモ 障害年金について支援者向けの講座を開催し、実際の相談事例を通して支援者として必要な知識を習得した。	17名
誰でも参加できるSST	第5回(6月21日)第6回(2月21日)は、講師に同朋大学准教授およびSST普及協会認定講師の吉田みゆき氏を迎え「誰でも参加できるSST」を、当事者、家族、支援者向けに体験・学ぶ勉強会を開催した。(きららと共催)	67名

ウ. 職員(講師)派遣

練馬区やういんぐのよりよいサービス向上につなげるため、都や区内の精神保健福祉関係等の会議に参加しての情報交換、情報の共有化に努めた。また、講師派遣依頼にも積極的に応じることで、障害への理解・啓発を図るとともに、人材育成への協力と自主財源の獲得に努めた。

(ア). 各種講座への講師派遣

講師派遣：延べ4回(石神井保健相談所、東京都練馬障害者支援ホーム・城西国際大学・東洋大学)

(イ). 東京都練馬障害者支援ホーム苦情解決第三者委員派遣：延べ6回

東京都練馬障害者支援ホームより派遣依頼を受け、苦情解決第三者委員として1名派遣した。

(3) 危機管理・安全対策防災(備蓄品の整備・避難訓練等)

東日本大震災発生日時に合わせてプログラム利用者全員と避難訓練を実施し、希望者と避難拠点までの道のりを確認。町会防災訓練への参加、避難拠点防災訓練に利用者と参加、石神井保健相談所と共同の防災訓練を実施した。また、防災について取り組んでいることを話し合い、災害に備えることを目的にプログラムを実施した。

【地域福祉課】

活動計画の重点的な取り組みである地域福祉を推進するため拡大再編された「ボランティア・地域福祉推進センター」と高齢の方や障害を持つ方の地域生活をサポートする「権利擁護センター」、障害福祉サービスに係る人材育成体制及び研修体系を整える「練馬障害福祉人材育成・研修センター」の事業運営を統括し、より質の高いサービス提供を目指し各事業に取り組んだ。

【ボランティア・地域福祉推進センター】

身体的、精神的に障害があっても、高齢になっても、社会や地域と接点を持ち続け、住み慣れた土地で生活し続けられるような「住みよいまちづくり」を目指し、地域福祉を推進していく基盤作りに努めた。ボランティアや市民活動の相談、情報提供、研修会の開催等を行い、地域や社会における課題に対し、地域住民がその解決に取り組めるよう支援を行った。

1. ボランティア・市民活動推進

(1) 相談およびコーディネート事業

ア. ボランティア・市民活動相談

「ボランティアしたい」「ボランティアに応援してほしい」「NPO について知りたい」など、ボランティア・NPO に関する相談に対応した。また、様々な個別の相談に対して、課題の整理・解決等に向けて関係機関や団体、関係者との連携を図った。センター、各コーナーの相談内容としては、センターは NPO 関連相談や地域福祉コーディネーターに関する情報提供、光が丘コーナーは高齢者施設や外国人からのボランティア相談、大泉コーナーは学校からの授業協力をきっかけとしたボランティア相談や関係機関からの情報提供、関町コーナーは知的障害者からの生活相談等、それぞれの地域性が表れている。

(単位：件)

相談内容	ボランティア・地域福祉推進センター	光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー	大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー	関町ボランティア・地域福祉推進コーナー	総数
ボランティアしたい	259	601	420	278	1,558
ボランティアほしい	193	375	258	152	978
NPO 関係	226	160	169	48	603
情報提供	557	280	596	145	1,578
協力依頼	264	166	255	175	860
その他	393	485	187	634	1,699
総 数	1,892	2,067	1,885	1,432	7,276

※「その他」の内容は、主に生活相談や要望などの相談。

ボランティア・地域福祉推進センター、各コーナー（光が丘・大泉・関町）に寄せられた住民の活動相談に関して、センター・コーナー会議等で定期的に相談内容を把握し、確認及び情報の共有化を図るために、ケース検討会議を行った。また、ボランティア・地域福祉推進センター運営委員会に状況を報告した。

イ. 相談記録データ蓄積

センター、各コーナーの相談記録を蓄積し、相談記録データの整理を行った。

(2) ネットワーク構築

地域の団体、施設、関係機関との日常的な連携・協力を図り、各種会議へ参加した。

定期的に各団体の会議に出席することで最新の情報を得るとともに、練馬区社協で把握している情報を団体等に提供し、連携を図った。

ア. 地域の団体、施設、関係機関との日常的な連携・協力を図り、各種会議に参加した。

会 議 名	開 催	内 容
ねりま子育てネットワーク	随時	区内の子育て支援を行うグループや子育て中の親によるネットワーク
しあわせ福祉ネット・関	月 1 回	安心して暮らせるまちづくりを目的に活動する団体・個人・関係機関によるゆるやかなネットワーク
ほのぼの館関・運営連絡会	月 1 回	相談情報ひろば運営団体との情報交換会 (オブザーバーとして参加)
関町児童館運営委員会	隔月	地域に開かれた児童館づくりをすすめるための情報、意見交換会

関中学校評議会	年 3 回	地域や社会に開かれた学校づくりを推進するための情報、意見交換会
練馬区 NPO 活動支援センター運営協議会	月 1 回	地域振興課を含む運営団体 5 団体の情報交換会
練馬区高次脳機能障害者支援連絡会	年 5 回	家族、関係機関等による情報交換会
練馬区区民協働推進会議	随時	練馬区民との協働指針に基づき、区民と区との協働を一層進めるための具体的な仕組みづくりの会（委員として参加）
地域密着型連携支援事業	隔月	南大泉・西大泉、石神井地域の障害福祉サービス事業所等の情報交換
光が丘区民センター施設連絡会	年 4 回	光が丘区民センター施設運営団体の情報交換
「第 4 回東京石泉ライオンズクラブ福祉音楽祭 in ねりま」企画会議	随時	東京石泉ライオンズクラブ主催で福祉音楽祭を開催するにあたっての企画・運営の協力（H27. 4. 16 開催）
「地域をつくる」上映会 in ねりま 実行委員会	月 1 回	「地域、まちを自分たちでよくしていこう！地域課題をそれぞれの立場で考えて地域を変えていこう！」を目的に練馬区内の活動団体や個人が集まり、実行委員会形式で上映会を開催（H26. 12. 7、H27. 2. 21 上映会を開催）
練馬区障害者地域自立支援協議会相談支援部会	年 3 回	地域における相談支援ネットワークの推進と相談支援体制の整備に関する協議会（委員として参加）
暴力・虐待を生まない社会づくり検討委員会	年 5 回	暴力・虐待の発生要因の分析等を通して地域や福祉施設による取り組みや手法について検討する会（委員として参加）

※モデル地区に関しては 3.（1）イに掲載

イ. 地域の精神保健連絡会、地域ケア会議など、各種会議へ参加した。

会 議 名	開 催	内 容
精神保健福祉関係者連絡会	随時	豊玉、光が丘、石神井、関保健相談所を中心とした情報交換会
地域ケア会議	随時	練馬、光が丘、大泉、石神井、関町地域を中心とした高齢者のケアについての情報交換会
ミニ地域ケア会議	随時	各支所単位で行う、地域の高齢者のケアについての情報交換会

ウ. 地域ごとやテーマ別などで必要とされるネットワークの調整を図った。

日時	会議名（テーマ）	会場	参加人数
H26. 7. 29	第 10 回相談情報ひろば情報交換会	らくぜん	7 団体
H26. 10. 23	平成 26 年度第 1 回大泉地域高齢者施設ボランティア情報交換会	大泉 VC	8 団体
H26. 12. 13	第 11 回相談情報ひろば情報交換会	きっさ えん	7 団体
H27. 2. 26	平成 26 年度第 2 回大泉地域高齢者施設ボランティア情報交換会	大泉 VC	8 団体

（3）市民活動団体・学校・企業・関係機関等へのサポート

ア. 学校の福祉教育への取り組み、関係機関の企画などへの協力や講師派遣等を行った。

日時	学校・施設・団体名	講座・授業名・内容
H26. 5. 1 H26. 10. 30	都立大泉桜高校	奉仕授業「ボランティア入門」
H26. 5. 27	区立開進第四中学校	社会福祉施設体験学習「ボランティアについて」
H26. 6. 18 H26. 11. 5	都立大泉高校	奉仕授業「ボランティア入門」
H26. 6. 18	日本社会福祉事業大学（菱沼ゼミ）	小地域福祉活動の取り組み
H26. 6. 20	区立開進第一小学校 PTA	親子学習会「ボランティアについて」
H26. 6. 22 H26. 9. 21 H26. 11. 30 H27. 2. 22	M ジョイ@T ジョイ～コミュニティ・マーケット～	主催：T ジョイ大泉・大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー 福祉施設等 7 団体の自主製品販売
H26. 7. 7 H26. 7. 29	西大泉地域コミュニティひろば	光が丘地域の小地域福祉活動の取り組み

H26. 7. 17	東京学芸大学付属国際中等教育学校	国際教養の授業「はじめてのボランティア活動（入門編）」
H26. 8. 28	光が丘福祉園	ボランティアについて
H26. 9. 20	ひまわり（シニアサークル）	ボランティアについて
H26. 10. 22	区立光が丘図書館	乳幼児向けおはなし会ボランティア養成講習会
H26. 11. 27	武蔵野市民社会福祉協議会運営委員会	視察研修 事業説明および運営委員会について
H26. 11. 29 H26. 12. 7 H27. 1. 18 H27. 2. 1	光が丘地区連合協議会	幸せを家族全員で築いていこう ～そのための子育てを考える～ 基調講演会・乳幼児編・小学生編・中学生編 高校生編・夫婦編
H26. 12. 5	武蔵大学 A' t(ボランティアサークル)	ボランティアについて
H27. 1. 19	練馬リハビリ友の会	孤立をふせぐ～DVD鑑賞とお話～
H27. 3. 13	大泉西地域活動支援拠点 地域交流会	気づきあい（見守り）に関する意見交換会

イ. 福祉サービス事業者向けに、福祉施設・病院のボランティアの受け入れについての研修を「NPO 法人日本ボランティアコーディネーター協会」と共催で企画・開催した。

日 時	テーマ	講師等	会 場	参加人数
H26. 7. 2	福祉施設・病院のためのボランティアマネジメント研修	後藤麻理子氏（日本ボランティアコーディネーター協会事務局長） 樋口実氏（中野区かみさぎ特別養護老人ホームボランティアコーディネーター） 堀越未央氏（大泉学園デイサービスセンターボランティアコーディネーター）	練馬区役所 本庁舎 20 階 交流会場	21 名

ウ. ボランティア・NPO 団体に対する各種の助成情報の提供、紹介を行った。

情報誌「ぼけっと」などを通じて、各種の助成金情報を提供した。また、ボランティアグループや NPO 法人から相談があった場合には、それぞれの団体に合った助成金の情報を提供し、必要がある場合には推薦コメントの記入や申請書の記入に関してのアドバイスを行った。

(ア) 推薦 1 件

エ. ボランティア活動中の事故によるケガなどに対応する「傷害保険」と活動の対象者などが法律上の賠償責任を負った場合に補償する「賠償責任保険」がセットされたボランティア関連保険の受付・手続きを行った。また、施設や団体などが行事を主催する際に加入する行事保険の手続きを行った。3 月には保険会社の担当者を招いてボランティア保険・行事保険に関する説明会を開催した。なお、これらの保険は保険者である東京都社会福祉協議会と加入事務契約を結んでいる。

(ア) ボランティア保険加入者数 5,269 名（天災プラン 317 名）

(イ) 行事保険加入件数 1,644 件

(4) 情報発信

ボランティア・市民活動情報『ぼけっと』を発行し、ボランティア・市民活動の周知・啓発に努めた。よりわかりやすい紙面を目指して平成 26 年 9 月号からリニューアルを行った。

ア. 年 12 回（毎月）発行

イ. 発行部数 約 5,000 部（A4 判 8 ページ）

(5) 災害時に備えた取り組み

ア. 「練馬区災害ボランティアセンター」の運営に備え、行政・関係機関・地域団体等と連携し訓練を実施した。

事業名	開催	内 容
練馬文化センター視察	1 回	練馬区災害ボランティアセンター立ち上げに向けて練馬区福祉部経営課経営係と社会福祉協議会で練馬文化センターの視察を行った。
練馬区災害ボランティアセンター立ち上げに向けて打合せ	2 回	練馬区災害ボランティアセンター開設、運営に向けて経営課経営係と検討を行った。
練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ訓練説明会	1 回	練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ訓練に向け参加職員対象に 3 月 12 日に説明会を行った。参加人数 20 名
練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ訓練	1 回	練馬区災害ボランティアセンター開設予定場所である練馬文化センターにて練馬区福祉部経営課・練馬中央自治会と合同で 3 月 17 日に訓練を行った。参加人数 50 名。

イ. 災害発生時に備え、行政・関係機関・地域団体等とのネットワーク構築を図った。

事業名	開催	内容
防災訓練や連絡会等に参加	4回	避難拠点連絡会や防災訓練等に参加し、住民・行政との連携や「練馬区災害ボランティアセンター」の周知を行った。

ウ. 災害ボランティアの発掘・養成に向けて防災課と情報交換を行った。

日時	内容
H27. 3. 4	練馬区災害ボランティア制度について情報共有
H27. 3. 24	練馬区災害ボランティア制度説明会において、ボランティア保険の説明を行った。参加人数 20 名。

エ. 避難拠点連絡会等と連携し、災害ボランティアセンターの役割や周知、連携を図った。

日時	学校・施設・団体名	講座・内容
H26. 11. 13	都立練馬高校	防災体験学習「災害ボランティアセンター体験」
H27. 2. 26 3. 30	練馬中央自治会	災害ボランティアセンターの説明および訓練の案内を行った。訓練後、振り返りを行った。

2. 練馬区 NPO 活動支援センター事業〔練馬区からの受託事業〕

平成 18 年 10 月 1 日に開設した「練馬区 NPO 活動支援センター」は、複数の団体で事業を運営するネットワーク形式で実施している（26 年度は 4 団体受託）。今年度、ボランティア・地域福祉推進センターは相談事業、講座・イベント事業を受託した。1 2 月には評価委員会で受託期間である 3 年間の取り組み報告等を行った。

(1) 相談事業

(単位：件)

対応内容	一般相談 専門相談	ボランティ ア募集	会場利用 相談	機材利用 相談	広報掲載の 相談	相談合計
件数	167	43	76	85	232	603

(2) 講座・イベント事業

ア. NPO に関する基礎的な研修、NPO を対象とした実践的な研修を実施した。より多くの方に講座に参加していただけるよう、チラシの作成はデザイナーに依頼し周知を行った。

日時	テーマ	講師	会場	参加人数
H26. 6. 18	NPO スタートアップ講座 NPO 立ち上げ前に考える	熊谷紀良氏（東京ボランティア 市民活動センター統括主任）	ココネリ 3 階 研修室 1	42 名
H26. 7. 16	NPO フォローアップ講座 助成金を活用しよう	田代純一氏（日本財団経営支援 グループ事業企画チーム）	ココネリ 3 階 研修室 1	44 名
H26. 8. 28	NPO ステップアップ講座① 自分を知る・相手を知る ～共感者を増やすための NPO マーケティング～	長浜洋二氏（NPO マーケティ ング研究所代表）	ココネリ 3 階 研修室 1	35 名
H26. 9. 30	NPO ステップアップ講座② わかってる？～あなたの団体の ホントの価値～	長浜洋二氏（NPO マーケティ ング研究所代表）	ココネリ 3 階 研修室 1	23 名
H26. 10. 30	NPO ステップアップ講座③ 「参加する」「応援する」を引 き出す仕組みづくり	長浜洋二氏（NPO マーケティ ング研究所代表）	ココネリ 3 階 研修室 1	17 名
H26. 11. 8	NPO スタートアップ講座 2 NPO 立ち上げ前に考える	坂口和隆氏（認定 NPO 法人日本 NPO センター事務局次長） 中川奈緒美氏（NPO 法人あそ びっこネットワーク代表）	石神井庁舎 5 階会議室	29 名
H26. 12. 4	NPO ステップアップ講座 オプションプログラム	NPO 法人手をつなご NPO 法人あそびっこネットワーク	ココネリ 3 階 研修室 1	9 名
H26. 12. 14	NPO フォローアップ講座 2 立ち上げの実際 ～先輩に聞いてみよう～	手輪るサロン NPO 法人ねりまねこ NPO 法人楽膳倶楽部	石神井庁舎 5 階会議室	20 名

イ. NPO の発展・区民への啓発等を目的とした NPO に関するイベントを実施した。

日時	テーマ	パネリスト	会場	参加人数
H27. 2. 21	NPO イベント・交流会 「人がつながる居場所づくり～ 知る・見る・出会う～」	大泉子育てのひろばわとと ケアラーズカフェ Co もれび 笑和の家 地域福祉さくら会 なゆたふらっと	ココネリ 3 階 研修室 1	70 名

(3) 運営団体間の連携

受託団体の連携を図るために「NPO 活動支援センター運営協議会」に参加し、事業報告および情報交換や協議を行った。(計 11 回参加)

(4) その他

練馬区 NPO 活動支援センター活動評価および事業改善検討会へ出席し、「事業実績」「自己評価」について等説明した。

3. 地域福祉活動推進

第 3 次地域福祉活動計画の重点的な取り組みとして掲げた、豊玉と光が丘のモデル地区で小地域福祉活動の推進として、住民リーダーを中心に住民が主体的に地域課題を発見、共有、解決できるよう支援し、そのしくみを作れるよう取り組んだ。

(1) 小地域福祉活動推進事業

豊玉と光が丘のモデル地区に地域福祉コーディネーターを配置し、地域に出向いて住民や地域団体と顔の見える関係をつくりながら、個別課題や地域課題に取り組んだ。

ア. 地域課題への取り組み

懇談会や連絡会等、地域の関係者が集まる場をつくり、地域で課題を共有し、住民リーダーを中心とした地域課題の発見、共有、解決に向けたしくみづくりを行った。

(ア) 豊玉地区

a. 関係団体懇談会の定期開催

日時	名称	内容	参加人数
H26. 5. 19	H26 年度第 1 回 豊玉地区関係団体懇談会	地域課題に関わる情報共有や意見交換 参加者：民生児童委員、町会、商店会、高齢者・障害者施設、地域活動団体、行政、警察、関係機関	23 名
H26. 7. 15	H26 年度第 1 回 豊玉地区子育て部会	懇談会で課題としてあげられた親子問題等、子育てに関する情報共有や意見交換 参加者：民生児童委員、子育て支援団体、行政	10 名
H26. 11. 6	H26 年度第 2 回 豊玉地区子育て部会	懇談会で課題としてあげられた親子問題等、子育てに関する情報共有や意見交換 参加者：民生児童委員、子育て支援団体、行政	8 名
H27. 3. 26	H26 年度第 2 回 豊玉地区関係団体懇談会	1 年間の活動報告と懇談会の役割などについての共有と意見交換 参加者：民生児童委員、町会、商店会、高齢者・障害者施設、地域活動団体、行政、警察、消防署、関係機関	32 名

- ・豊玉地区関係団体懇談会では、地域課題に対して短期で解決できる取り組みが昨年度から始まり、その取り組みの後方支援を継続してきた。また、懇談会の進め方について参加者で意見交換を行い、今後の方向性を確認することができた。
- ・豊玉地区子育て部会では、お互いの活動状況や地域での子育てに関する課題を共有した。来年度は課題を整理しつつ、課題解決に向けて具体的な取り組みが始められるよう参加者とともに検討したい。

b. 認知症理解への取り組み

日時	名称	内容	参加人数
H26. 7. 30	みんなで学びましょう 認知症について～みんなで守れる街にしよう～	認知症について／認知症予防／練馬警察署へ寄せられる高齢者問題／声かけについて	33 名
H26. 11. 29	豊玉第三町会 地域で見守る認知症	認知症サポーター養成講座	9 名
H27. 1. 22	みんなで学びましょう 認知症について～暮らしに活かそう体験談～	認知症について／介護保険改正について／認知症の方への対応	23 名

- ・昨年度から定期的で開催している豊玉高齢者センターにおける利用者主催の認知症講座では、引き続き企画協力を行い、練馬警察署や行政をつないだ。講座をきっかけにセンター利用者同士が挨拶や声かけをしながらお互いを見守り合う意識が高まり、ポスターや豊玉高齢者センター広報誌でも挨拶の啓発がなされた。

c. 清掃活動による見守り

日時	名称	内容	参加人数
月1回	ねりま・きれいにし隊	商店街の清掃活動 参加者：商店会、町会員、地域活動団体、関係機関、学生	延べ 168名

- ・活動の広報や参加の呼びかけ等の協力を行った。

d. 元気高齢者の社会参加への取り組み

日時	テーマ	内容
H26.6月 ～H27.2月 (4回開催)	地域で見守り合える活動について	地域における高齢者の状況を共有し、認知症理解と地域の見守りのしくみづくりのための意見交換 参加者：豊玉高齢者センター利用者

- ・認知症講座をきっかけに豊玉高齢者センター施設内のみならず、地域においても声かけや見守り合いができるような取り組みの検討が利用者によって始まり、他地域における取り組みの事例等を情報提供した。

e. 集える場の充実

日時	名称	内容
H26.4月 ～H27.2月 (13回開催)	練馬駅南地区 子どもが育つまちづくりプロジェクト(ねりこまち)	地域に開かれた子育て環境づくりを考える会 H26.4月～6月にはワークショップと昔遊びの場を開催
H26.4月～ 月1回	雑談の会	住民が日頃思っていることを気軽に話し合える会
H26.8.23 9.24	朝会議	オープン前の店舗を利用した地域ミニ会議 自転車駐輪について/商店会でのイベントについて
H26.4月 ～H27.1月 (6回開催)	萩の里茶話会	高齢者住宅内でのたまり場開設 H27.1月～月1回開催
H27.2月～	(仮称) 高齢者センターサロン	豊玉高齢者センター内でのたまり場開設 H27年度内に開始予定

- ・豊玉地区関係団体懇談会で、豊玉地区に集える場が少ないという課題より地域ニーズの把握や住民と関係機関が参加する立ち上げに向けた話し合いの場の設定、他区のサロン見学など企画・立ち上げ支援を行った。また、立ち上げ後は運営協力や運営相談にも応じた。

f. その他

日時	名称	内容
H26.5月～ 奇数月1回	チョット一緒に話そう会	豊玉高齢者センターでの出張相談窓口
H26.4月～ 月1回	地域福祉コーディネーターによる出張相談窓口	たまり場での出張相談窓口
H26.4月～ 月1回	ランチとお話を楽しむ会	住民主体で運営する昼食とおしゃべりやアクティビティを楽しむ会 参加者やボランティアからの個別相談に対応した
H26.12月～	武蔵大学 A' t (ボランティアサークル)	地域でボランティア活動を行いたいとの相談を受けたことから、ボランティア講座を開催し、高齢者施設での活動や町会の夜警活動へつないだ

(イ) 光が丘地区

a. 孤立を防ぐしくみづくり

日時	名称	内容	参加人数
H26. 4. 3 4. 5	自治会・管理組合向け DVD 視聴会	小冊子のつどいで DVD の利用について意見交換	11 名
H26. 4. 16	光が丘民生児童委員協議会 (二部)	小冊子のつどいの開催企画と DVD の活用について説明	27 名
H26. 4. 10	いちょう通り東第 3 団地サロン	サロン参加者で孤立死をテーマとした DVD を視聴し、孤立と近所づきあいについて意見交換	22 名
H26. 4. 12	四季の香式番街 赤レンガサロン	サロン参加者で孤立死をテーマとした DVD を視聴し、孤立と近所づきあいについて意見交換	25 名
H26. 4. 12	大通り南 3 自治会合同連絡会 小冊子のつどい	孤立死をテーマとした DVD を視聴し、孤立と近所づきあいについて意見交換	24 名
H26. 5. 11	第 3 アパート 第 1 防災会主催 『ある日突然』のためにできること	孤立死をテーマとした DVD を視聴し、小冊子の感想、孤立と近所づきあいについて意見交換 棟ごとの取り組みについて共有	20 名
H26. 5. 25	第 3 アパート 第 2 防災会主催 『ある日突然』のためにできること	同上	17 名
H26. 6. 1	第 3 アパート 第 3 防災会主催 『ある日突然』のためにできること	同上	15 名
H26. 6. 8	第 3 アパート 第 4 防災会主催 『ある日突然』のためにできること	同上	10 名
H26. 7. 12	大通り南 3 自治会合同連絡会 認知症になっても・・・ ～地域で安心して暮らし続けるために～	高齢者相談センター高松支所を講師に招き、認知症理解と地域でどう見守っていいのかについて意見交換	31 名

- ・昨年度、作成した「おせっかいなまち・光が丘～孤立死ゼロをめざして～」(小冊子)を活用し、自治会の集まりやサロンの単位で意見交換会等を行った。第 3 アパートでは「災害時の支え合いは日常的なつながりから」を主題に 4 つの防災部を単位として意見交換会を行っている。今後も地域の顔のみえる関係づくりのツールとして小冊子を活用したい。

b. サロンの活性化

日時	名称	内容	参加人数
H26. 4 月～ 月 1 回	男性介護者のつどい「一笑会」	家族介護に関する情報共有と情報交換 参加者：家族を介護する男性の介護者	延べ 84 名
H26. 5. 10	四季の香式番街 赤レンガサロン	認知症予防「脳いきいき活性化」 (協力：保健生協光が丘支部)	15 名
H26. 6. 14	四季の香式番街 赤レンガサロン	小生活便利グッズと福祉用具 (協力：東京保健生協 オリーブの樹)	20 名
H26. 10. 4	四季の香式番街 赤レンガサロン	認知症について (協力：大泉生協病院)	24 名

- ・東京都生活共同組合連合会と東京都保健生協が取り組んでいる「福祉のまちづくり・練馬」からプログラム協力を受ける等、サロンの運営で連携した。

c. 自治会・管理組合との取り組み

日時	名称	内容	参加人数
H26. 4. 9 6. 11 10. 22	光が丘第 3 アパート自治会 ひまわりサロン世話人会	サロン運営に関わる意見交換と情報共有	15 名
H26. 4. 17 7. 17 11. 20	光が丘第 3 アパート自治会 高齢者対策委員会	自治会活動の取り組みに関する定例会	20～25 名/回
H26. 4. 27	光が丘第 3 アパート自治会総会	H25 年度の活動報告と H26 年度の活動計画 について	約 100 名
H26. 5. 20	光が丘むつみ台団地	小冊子「おせっかい」の説明と意見交換	60 名

	「ひとり暮らしの友愛会」		
H26. 5. 26	光連協幹事会	小冊子「おせっかい」を活用したつどい等の取り組み状況について説明	40名
H26. 6. 3	光連協役員会 勉強会	子育て講座の企画に伴い、講座講師を招いての学習交流会	16名
H26. 10. 8	光が丘第3アパート自治会 地域猫懇談会	団地のノラ猫問題について 保健所からの説明と意見交換	32名
H26. 11. 17 12. 15	光が丘第3アパート自治会 防災部会+自治会+民生委員	災害時要援護者名簿の活用について	12名 15名
H27. 1. 14	ひまわりサロン2周年記念	開設2周年の記念イベント	約40名

・自治会や管理組合に「おせっかいなまち・光が丘～孤立死ゼロをめざして～」(小冊子)の活用を呼びかけることで、自治会や管理組合の単位で意見交換会等の集まりが開催された。
第3アパートでは、昨年度に引き続き、定例の高齢者対策委員会に出席しながら自治会の取り組みを支援し、今年度は災害時要援護者名簿の自治会での活用について具体的な取り組みが始まっている。

イ. 関係機関との連携

地域団体や行政の関係機関と定期的に情報提供を行い、地域課題を共有、解決に向けて連携して取り組んだ。

(ア) 豊玉地区

名称	開催	内容
民生児童委員協議会(豊玉地区)	月1回	福祉事務所が主催する民生委員・児童委員の定例会議
オレンジの会	月1回	認知症地域支援の会
練馬こども笑店街実行委員会	月1回	練馬駅南口の商店街で開催しているイベントを通し、地域の子育て支援・地域の活性化・親睦を図る会
練馬駅南地区子どもが育つまちづくりプロジェクト	随時	地域に開かれた子育て環境づくりを考える会
練馬駅南地区まちづくり憲章を推進する会	隔月	練馬駅南口地区の商店会や町会などが参加し、まちの将来像について協議する会議
地域ケア会議・ミニ地域ケア会議	年4回	高齢者相談センター豊玉支所および練馬区役所支所主催の高齢者支援に関わるケア会議
よろず会議	隔月	高齢者相談センター豊玉支所、豊玉高齢者センターとの情報共有、意見交換の定例会
豊玉高齢者センター運営委員会	年3回	利用者・老人会・関係機関による協議・情報交換会(委員として参加)

(イ) 光が丘地区

名称	開催	内容
民生児童委員協議会(光が丘地区)	月1回	福祉事務所が主催する民生委員・児童委員の定例会議
光が丘第3アパート自治会 高齢者対策委員会	月1回	自治会の取り組みについて意見交換を行う定例会議
光が丘第3アパート自治会 ひまわりサロン世話人会 ボランティア会	月1回	サロン運営に関わる世話人(5名)の運営会議 サロン運営に関わるボランティアの定例会議
ミニ地域ケア会議	年4回	高齢者相談センター光が丘支所および高松支所主催の高齢者支援に関わるケア会議
光の架け橋	月1回	高齢者相談センター光が丘支所・高松支所、高齢者センター、高齢者支援のNPOや事業所等との情報共有、意見交換の定例会
光が丘 子育て支援関係機関連絡会	随時	0～3歳児を中心とした子育てに関する課題の共有と意見交換
成年後見制度の勉強会	月1回	成年後見のぞみ会と楽膳倶楽部のコラボ企画 (H26. 10～H27. 1)

ウ．東京都社会福祉協議会「課題発見・解決志向型の地区社協モデル事業」に参画し、モデル地区のより一層の活性化を図った。

名称	開催	内容
実施地区連絡会	年 2 回	モデル事業実施社協の担当者が集まり、進捗状況を報告し合い、相互に情報交換や進め方等の相談やアドバイスを行った。
推進委員会	年 4 回	進捗状況についてモデル事業の進捗状況を報告し、今後のモデル地区への働きかけや事業の進め方などについて推進委員よりアドバイスを受けた。

エ．その他

小地域福祉活動モデル地区の取り組みを、その周辺エリアあるいは関連事業への協力という形で広がりつつある。

日時	名称	内容	参加人数
H26. 7. 7	つなげよう！みまもりの「絆」 大泉西地域活動支援拠点	光が丘の取り組みを事例として紹介	29 名
H26. 7. 19	東京保健生協（土支田・大泉支部） 虹のかけ橋 学習会	光が丘地域の取り組みと見守りのポイントについて	36 名
H26. 9. 17	ふきのとう支所ミニ地域ケア会議 「おせっかいなまち光が丘～孤立死ゼロをめざして～」	光が丘の取り組みを事例として紹介	25 名
H26. 9. 24	練馬区民生児童委員 高齢者福祉部会自主研修会	光が丘の取り組みを事例として紹介	20 名
H26. 9. 30	羽村市社協 小地域ネットワーク活動団体連絡協議会主催講演会	光が丘地区の活動事例	110 名
H26. 11. 20	町田市 民生児童委員 会長会	光が丘の取り組みとして「おせっかいなまち・光が丘」を紹介	14 名
H27. 1. 28	東京都生活協同組合連合会 第 10 回 福祉・助け合い活動交流会 「今できる地域のつながり作り～ふだんの暮らしの中で、何となくできることから～」	一歩すすめる地域づくり～地域づくりの事例から～ (光が丘の取り組み事例と地域福祉コーディネーターの役割)	104 名

・東京都社会福祉協議会が主催している「区市町村社協 地域福祉コーディネーター養成研修(実地研修編)の受入れ(港区社協と八王子社協から各 1 名)を行った。

(2) 拠点機能

ボランティア・地域福祉推進コーナーの各拠点においてもボランティアコーディネートを通してネットワークの構築を図りながら、住民とともに地域課題の解決に向けて取り組んだ。(1. (2) に掲載)

(3) モデル地区取り組みの総括

4 年目を迎えるモデル地区の取り組みについて、その手法や成果の振り返りをし、今後の小地域福祉活動の展開や取り組み体制の検討を行った。

4. 人材育成

(1) 研修・講座等の企画・実施・協力

ア．ボランティア講座

住民を対象に、ボランティアについて基本的な理解をすすめ、活動のきっかけとなる講座を他部署や他の機関と連携して行った。

日時	テーマ	主催者(会場)	参加人数
H26. 6. 26	地域福祉入門セミナー ～石神井地域編～	石神井町福祉園、高野台デイサービスセンター、ハッピーひろば、ういんぐを見学	11 名
H26. 8. 21 H27. 2. 26	ボランティア説明会 ボランティア講座(全 2 回)	光が丘ぴよぴよ	延べ 22 名
H26. 9. 24	ボランティア入門講座	南田中敬老館	19 名
H26. 9. 30	ボランティア入門講座	大泉障害者地域生活支援センターさくら	9 名
H26. 10. 15	ボランティア入門講座	中村敬老館	7 名

H26. 10. 27	地域福祉入門セミナー ～貫井地域編～	貫井びよびよ、かめの子教室、富士見台デイサービスセンター、貫井福祉園、貫井福祉工房を見学	13名
H26. 11. 11	ボランティア入門講座 ～地域の福祉施設みて歩き～	西大泉敬老館	7名
①H26. 12. 6 ②H26. 12. 7 H26. 12. 10 H26. 12. 12 ③H26. 12. 13	精神保健福祉ボランティア講座 ～体験と交流から始めよう～	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	延べ 23名
H27. 1. 9	ボランティア入門講座	慈雲堂病院	21名

イ. パワーアップカレッジねりま（練馬区受託事業）

「地域福祉パワーアップカレッジねりま」（区主催）において、地域活動アドバイザーとして関わり、今後地域活動を担う人材の育成、授業の企画・運営に取り組んだ。学生や卒業生からの個別の相談を受け、団体の立ち上げ・運営・周知、情報提供、今後の活動、助成金、インターンシップ等に対し助言や支援を行った。

ウ. ボランティア体験学習

宿題、課題等でボランティア体験が必要な方を対象として、ボランティアを受け入れている福祉施設等で体験する機会を提供した。（体験参加者8名）

5. 東日本大震災避難者に対する孤立化防止などの取り組み

東京都の孤立化防止事業を受託するとともに練馬区内に避難されている方に対し、個別のニーズに応じて必要な支援や情報提供を行った。

（1）アンケート調査による動向の把握

東京都が行ったアンケート調査で動向の把握を行った。また、個人情報提供に同意された世帯に訪問等を行い個別のニーズに応じて必要な支援や情報提供を行った。

（2）情報誌等による情報提供

随時、区内の団体や東京都等から届くイベント等の情報提供を行った。

（3）課題を抱えている方への個別相談、支援

個別訪問をとおして、困りごとを伺いながら、民生児童委員や自治会等、地域の関係者と連携し、地域の一員として生活しやすい環境となるよう支援を行った。就労、家族介護、住居、日中の居場所についてなど幅広い相談があり、定期的な訪問や電話連絡による情報提供等を行った。訪問・電話連絡件数 延べ96件

（4）被災者と地域住民が交流する場の企画

個々のニーズに応じ、地域のたまり場や相談情報ひろば、ボランティア活動等、地域住民と交流できる場の案内や見学を行った。

6. 拠点運営

（1）施設やボランティア団体等への支援

各拠点で会議室、コピー機・印刷機等の機材の貸出し、施設・団体の自主製品販売代行を行った。

ア. 会議室貸出し

拠 点 名	利用団体総数（団体）	利用者総数（名）
ボランティア・地域福祉推進センター	142	1,397
光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー	654	5,055
大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー	185	1,489
関町ボランティア・地域福祉推進コーナー	312	4,119
計	1,293	12,060

イ. コピー機・印刷機貸出し

拠 点 名	利用団体総数（団体）
ボランティア・地域福祉推進センター	14
大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー	52
計	66

ウ. 自主製品販売代行

拠 点 名	団体数
光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー	10
大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー	16
関町ボランティア・地域福祉推進コーナー	16
計	42

(2) 出張きさら・出張ういんぐの実施

豊玉障害者地域生活支援センターきさら、石神井障害者地域生活支援センターういんぐと共催で各コーナーを拠点にプログラムを企画・開催し障害者がより豊かな生活を送れるきっかけづくりに努めた。(出張きさら：P44(5)ア、出張ういんぐ：P50(5)ア 参照)

(3) 地域ネットワークの構築

地域の各種会議やイベント等に参加し、地域ネットワークの構築を図るとともに役割や機能について周知を行った。(1.(2)アに掲載)

(4) 福祉機器等の貸出

他制度による給付や貸し出しの対象にならないが、車椅子の利用が必要な方に、低額で貸し出しを行なった。車いす貸与(保有数 22 台)

貸出拠点	貸出数	車いす貸出し延べ台数	車椅子貸出し台数の内訳	
			個人	学校・団体等
ボランティア・地域福祉推進センター		18	17	1
光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー		28	27	1
計		46	44	2

(5) 地域の社協窓口としての役割

社協の会員・寄付の受付や募金活動、社協のキャラクターグッズの販売などを行うとともに、各部署のパンフレットを設置して、必要に応じて担当部署につないだ。

7. 組織運営

(1) 「運営委員会」の設置

ボランティア・地域福祉推進センターの事業や、センター・各コーナーに寄せられる相談内容から特に子どもや障害児者の外出支援や生活支援、高齢者の見守り等を行った。また、地域福祉活動計画の重点事業である小地域福祉活動のモデル地区の豊玉・光が丘の取り組みの報告を行った。(定例会議年 8 回開催)

(2) 「スタッフ会議」、「コーナー担当者会議」の開催

スタッフ会議(センター、各コーナーの全職員参加)およびコーナー担当者会議(各コーナー責任者とセンター職員参加)を月 1 回設け、情報交換や運営等に関する協議を行った。また、拠点ごとに連絡調整やケース検討を行うため、会議を行った。

(3) 職員の研修参加

職員の資質向上を図るため、内外の研修に参加した。外部研修 2 2 講座、延べ 2 8 名参加。

(4) 広報・啓発事業

ア. ボランティア・市民活動情報『ぼけっと』を発行した。

(ア) 年 12 回(毎月)発行

(イ) 発行部数 5,000 部(A 4 判 8 ページ)

イ. インターネット・ホームページ、ブログ「ぼけっとのうらがわ」(年 40 回更新)などメディアを活用して、ボランティアや NPO に関する情報を発信した。

ウ. リーフレットを活用し、センターの役割・機能について住民にわかりやすく情報提供を行った。

(5) 事業収入や寄付等による事業の充実

寄付金の有効活用および事業収入の確保に努めた。

ア. ボランティア・地域福祉推進センターへの寄付 13 件 269,816 円

イ. 情報誌「ぼけっと」広告掲載料 15 件 75,000 円

ウ. 使用済み切手収入 56,180 円

エ. バザー収入 141,162 円

【権利擁護センターほっとサポートねりま】

高齢や障害等のために支援を必要とされる方々が、適切な福祉サービスを選択し、地域で安心して生活を送ることを目的として、福祉サービスや制度の情報提供を行い、福祉サービスの利用援助、成年後見制度の利用相談や支援事業を行った。また、練馬区における「成年後見制度推進機関」として、制度の周知・普及と活用を進めるための事業に取り組んだ。

1. 相談事業

(1) 一般相談

ア. 問合せ・相談状況

(ア) 受付件数

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

相談件数・状況 (件)	年度 状況	24 年度 延件数	25 年度 延件数	26 年度			
				相談の内訳(名)			延相談 件数
				問合せ	初回	継続	
認知症高齢者等		4,444	4,902	10	553	3,985	4,548
知的障害者		475	772	0	41	795	836
精神障害者		1,073	1,839	1	75	1,655	1,731
その他		577	819	99	159	692	950
計		6,569	8,332	110	828	7,127	8,065

※状況の「その他」は、難病や高次脳機能障害の方、疾病・障害などの内容が不明な方。

(イ) 上記のうち成年後見制度に関する件数

24 年度	25 年度	26 年度
延べ相談 1,023 件	延べ相談 1,482 件	延べ相談 1,395 件

イ. 問合せ・相談の傾向

(ア) 相談件数

昨年度に比べ延相談件数が 267 件減少した。延相談件数の減少は、地域福祉権利擁護事業の利用者が解約によって減少した影響が考えられる。また、延相談件数における相談の状況では、認知症高齢者と精神障害者の相談件数が減少している。

初回相談は約 70 件程度増加し、その相談内容は、福祉サービス利用援助事業と成年後見制度利用に関するもので、状況は認知症高齢者とその他からであった。

状況のその他における相談内容は例年通り多岐にわたっていた。

(イ) 成年後見制度に関する相談

昨年と比べ成年後見制度利用に関する延相談件数は減少しているが、認知症高齢者とその他に関する初回相談は増加している。また、成年後見制度の本人や親族への説明依頼や説明時に同席を求められることも増えた。障害者総合支援法による計画相談支援事業から、成年後見制度利用の相談につながった例もあった。さらに、今年度は、都内及び他府県の社会福祉協議会からの、成年後見制度推進機関としての事業に関する問い合わせが 11 件に増加し、社会貢献型後見人養成の取り組みに関する問い合わせや視察があった。

(2) 権利擁護法律相談

地域活動団体との共催で、身近な地域で高齢者や障害者のための弁護士による法律相談会を実施した。実施回数 4 回。

(3) 成年後見制度専門相談

司法書士による専門相談を実施した。相談内容は、高齢の親の申立に関する相談や財産管理、相続、遺言の書き方についてなど多岐にわたっていた。高齢者からの配偶者の申立てに関する相談や相談者自身の任意後見制度申立てに関する相談も多くなっている。

開催	相談員	会場	開催回数等
原則毎月第 1 水曜日 (祝祭日除く)	東京司法書士会 練馬支部司法書士	ボランティア・ 地域福祉推進センター会議室	全 11 回開催 24 件相談

2. 福祉サービス利用援助事業

(1) 地域福祉権利擁護事業（日常生活自立支援事業）

認知症や物忘れのある高齢者、知的障害者、精神障害者を対象に、本人の意向を尊重しながら、福祉サービスを利用するための支援調整や、日常的な金銭管理、書類預かりの支援を行った。具体的には、介護保険や障害福祉サービス・医療・保険などの利用申請手続きや更新、賃貸住宅契約更新や住民税の申告など、地域で生活するために必要な手続きや収入・支出に基づいた日常的な金銭管理の支援、親族・関係者調整などであった。また、クーリングオフ制度利用支援、相続手続き支援、債務整理に関わる支援、生活保護申請支援、公正証書遺言の作成支援なども行った。

平成26年度は135名が利用した。新規契約は24件あり、前年に比べ件数が減少している。終了（解約）件数は29件で昨年に比べ7割増であり、大幅に増加した。終了事由は判断能力低下による成年後見人等への引継ぎが約4割であり、施設入所が約3割、死亡解約が2割であった。終了者については、本人状況の変化に合わせ、関係機関などと連携しながらより適切な制度・機関に引き継ぎを行った。

(平成27年3月31日現在)

利用者数・状況(名)	年度	24年度	25年度	26年度			
				新規契約数	年度中利用者数	解約数	年度末利用者数
認知症高齢者等		63	71	16	87	23	64
知的障害者		12	11	3	14	2	12
精神障害者		13	20	4	24	1	23
その他		8	9	1	10	3	7
計		96	111	24	135	29	106

※状況の「その他」は、難病、高次脳機能障害者など

(2) 財産保全サービス・各種手続代行サービス

加齢や身体障害により、預金の払い戻し・各種支払いや手続きが困難な方に、書類などの預かりや手続きの代行を実施した。平成26年度中は、22人が利用し、新規契約が8件で前年度に比べ増加した。地域福祉権利擁護事業や他制度への移行などで2件が解約となった。

(平成27年3月31日現在)

利用者数・状況(名)	年度	24年度	25年度	26年度				契約内容内訳		
				契約数	年度中利用者	解約数	年度末利用者	財産保全	手続代行	併用
認知症高齢者等		10	9	6	15	2	13	1	10	2
知的障害者		1	1	0	1	0	1	1	0	0
精神障害者		2	2	1	3	0	3	0	1	2
その他		1	2	1	3	0	3	0	3	0
計		14	14	8	22	2	20	2	14	4

※状況の「その他」は、身体障害者。

3. 成年後見制度の利用推進

(1) 周知普及事業

ア. 地域の相談会

今年度も、地域団体や専門職団体とのネットワークを活用した地域での事業推進に取り組んだ。東京司法書士会練馬支部と合同で「合同相談会」、三弁護士会と共催で「巡回無料相談会」を行い、成年後見制度を中心に、遺言や相続などに関して、地域住民が身近な地域で専門職に無料相談ができる機会の提供を行った。また、成年後見制度推進NPO法人と共催で地域相談会を実施し、気軽に相談できる機会を設けた。

開催日	相談員	会場	主な相談の内容		
			後見制度	遺言・相続	財産管理関係
H26. 6. 9	センター職員	NPO 法人 おちゃ福	1 件	—	—
H26. 10. 5	司法書士・センター職員 (合同相談会)	練馬駅北口ビル Coconeri3 階ココネ リホール	18 件	10 件	—
H26. 11. 8	センター職員	区役所アトリウム地 下多目的会議室	1 件	—	—
H26. 12. 8	センター職員	NPO 法人 おちゃ福	2 件	—	—
H27. 3. 1	弁護士 (巡回無料相談会)	練馬駅北口ビル Coconeri3 階ココネ リホール	9 件	12 件	2 件

イ. 制度説明会・学習会

講師依頼を受け、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の周知普及のため、研修や制度説明会で制度概要や具体的な活用方法について伝えた。当事者や家族会向けの内容についての依頼が多かった。今年度も資料内容や伝達方法を対象者ごとに工夫して周知普及を図った。また、制度や事業が必要な方に適切に情報が届くよう、福祉業務従事者を対象とした制度・事業の説明会、勉強会へも赴いた。

年月日	会議名称等	実施主体
H26. 5. 14	地域福祉権利擁護事業について	障害者グループホーム やまびこ三原荘
H26. 5. 20	成年後見制度活用講座	練馬障害福祉人材育成・研修センター
H26. 5. 28	成年後見制度・社会貢献型後見人説明会	練馬区社会福祉協議会権利擁護センター ほっとサポートねりま
H26. 6. 13	お金の使い方	大泉障害者地域生活支援センター「さくら」
H26. 7. 22	成年後見制度について	石神井敬老館
H26. 9. 5	成年後見と代理行為	木瓜の花
H26. 9. 16	親なき後の生活を支える制度	精神障害をもつ方のご家族の会 (火よう会)
H26. 10. 11	成年後見制度	特別養護老人ホームフローラ石神井公園 家族会
H26. 10. 23	成年後見制度活用講座	練馬障害福祉人材育成・研修センター
H26. 11. 29	成年後見制度について～法定後見制度～	大泉障害者支援ホーム
H26. 12. 4	地域福祉権利擁護事業と財産保全・ 手続き代行サービスについて	やすらぎミラージュ高齢者相談センター支所
H26. 12. 12	成年後見制度について	練馬区社会福祉事業団 練馬介護人材育成・ 研修センター
H27. 1. 22	成年後見制度の概要と活用	東京都立石神井特別支援学校 PTA
H27. 3. 1	成年後見支援信託制度のメリット・ デメリットについて	NPO 法人成年後見推進ネットこれから

ウ. 講演会

今年度は、社会貢献型後見人の公募説明会とともに社会貢献型後見人とその意義の周知普及のため、講師に弁護士を招き、区民で社会貢献型後見人として活動している方に活動報告をしていただいた。

開催日	内容	講師	会場	参加
H26. 5. 28	地域で活かそうあなたのチカラ～成 年後見制度と社会貢献型後見人～	弁護士 土肥尚子氏 社会貢献型後見人 2 名	練馬駅北口ビル Coconeri3 階 ココネリホール	44 名

(2) 後見人サポート

区民で親族の成年後見人等になっている方、成年後見人等になる予定の方々の個別の相談支援を行った(ねりま後見人ネット)。今年度は多くの親族後見人等が気軽に相談できる窓口として「親

族後見人相談室」を設置すると共に、広く情報提供を行うため「ねりま後見人ネットだより」を発行し、関係機関の協力を得て広く配布を行い、「ねりま後見人ネット」の周知を図った。

(3) 地域ネットワークの活用

ア. 関係行政機関との連携

個別の支援において連携を図るとともに、困難ケースなどの情報共有に努め、問題解決に向けての検討を行った。また、成年後見制度関係者会議に参加し、区長申立てや社会貢献型後見人受任ケースなどに関して、検討・協議した。受任について決定し、平成26年度は1件受任した。

イ. 地域住民ネットワークとの連携

地域住民組織などとの連携を強化するため、事業説明・相談会などを実施した。また、個別の支援において、利用者の見守りなどで連携を図った。

ウ. 成年後見制度推進NPOなどとの連携

成年後見制度の利用促進を行うNPOと情報交換を行うとともに、NPOとの共催で地域相談会を開催し、制度の周知・普及のための連携を図った。

エ. 「成年後見ねりま地域ネットワーク会議」の開催

区民の成年後見制度利用を支援する仕組みとして、様々な立場の専門家、行政関係者が連携・協働していくため、成年後見制度に関わる制度の動向について情報共有を行った。今年度は、障害年金制度についてや死後事務に関する課題について様々な立場から意見交換を行い、制度推進に関する課題の共有、整理、解決に向けての取り組みを行った。

開催日	内 容	参 加 者													
		社会福祉士	行政書士	税理士	司法書士	弁護士	精神科医	社会保険労務士	行政関係者						合計
									保健師	相談センター 高齢者	知的障害者担当係	福祉事務所	練馬区保健所 精神保健係	地域福祉係	
H. 26 7. 24	障害年金制度・成年後見制度支援信託の対象拡大・情報交換	2名	2名	2名	5名	3名	0名	2名	1名	7名	3名	1名	3名	31名	
H. 26 12. 3	死後事務の課題・情報交換	3名	2名	1名	5名	2名	0名	2名	1名	11名	2名	1名	3名	33名	

(4) 後見人養成・支援

ア. 後見人養成

(ア) 養成の目的

親族で適切な後見人が見つけられず、専門職に依頼するには資産がない方の制度利用促進と、判断能力が不十分な方々が安心して住み慣れた地域で生活できるよう、同じ生活者の視点で地域生活を支える後見人の確保と質の確立を目的として、社会貢献型後見人の養成を行った。

(イ) 養成研修等の実施

社会貢献の精神で地域での後見業務に関心のある2名を新たに迎えて、社会貢献型後見人の受任を目指す19名の区民を対象に、後見業務に関わる研修、実習を行った。

(ウ) 独自養成

今年度より練馬区で独自養成を行った。後見業務の理解を深め、より効果的なカリキュラム内容とするため、基礎講習と応用（実務）講習の2部構成で研修を行い、地域で活躍している講師による講義も行った。

成年後見人等の倫理、対人援助演習、後見業務の具体的な対応演習など、よりよい後見業務を行うために必要な能力をつけるための研修に重点を置いて企画した。

研 修 (行政施策や対象者理解等)	実習・見学 (福祉作業所・施設)	実務研修	フォローアップ研修	受任者懇談会
18回	6回	2回	3回	2回

(エ) 実践報告

今年度から社会貢献型後見人養成事業は市区町村事業となった。東京都主催の後見人等候補者養成事業運営担当者連絡会において、昨年度に引き続き、養成事業の実践報告を行った。

イ. 社会貢献型後見人の受任支援

(ア) 定期面談・懇談会の実施

登録メンバーが不安なく受任できるよう、定期面談を行い、受任の意向を確認すると共に、後見業務に関する疑問や不安を確認・解消する機会を設けた。また、受任者を中心とした懇談会を開催し、受任者間および後見監督人との情報共有や後見活動時の課題の把握や意見交換を行い、円滑な事業推進のための取り組みを行った。

(イ) 受任の推進

今年度も、行政が主催する成年後見制度関係者会議において、社会貢献型後見人の紹介の仕組みなどの説明を行い、受任の推進を図った。また、社会貢献型後見人の受任ケースの妥当性について、成年後見制度関係者会議および権利擁護センター運営委員会において協議するとともに、養成研修受講者の受講状況や受任可能な社会貢献型後見人について情報共有を行った。1件は本人状況の変化により受任対象外となったため、年度内の受任件数は1件であった。

ウ. 後見監督人の受任および後見監督業務

(ア) 後見監督人の受任

今年度は、社会貢献型後見人の受任継続ケース7件および新規受任の1件について後見監督を行った。

(イ) 後見監督業務

新規に受任した1件については、家庭裁判所への初回報告の支援を行い、1年以上経過した6件については家庭裁判所への継続報告を支援した

また、被後見人の死亡事例が4件発生し、死亡時の各手続き等について、社会貢献型後見人への助言や家庭裁判所との調整など、円滑な手続きのための支援を行った。親族への引き継ぎが困難な事例については、家庭裁判所に相続財産管理人の申立てを行い、死後事務への早期対応のための取組みをした。

(ウ) 後見監督業務の整備

社会貢献型後見人が信頼性の高い後見業務を行なえるように支援するため、後見監督業務のマニュアルの整備を行った。特に、今年度死亡事例が多かったため、被後見人死亡時の対応について各事例の手続きを活かしたマニュアル作成を行った。

[社会貢献型後見人及び後見監督人受任状況]

項目	状況	類型	後見人 (養成研修修了期)	申立人	審判	後見監督人	備考
A	認知症高齢者	後見	第1期	練馬区長	H20.12	練馬区社協	H25.2 被後見人 死亡により終了
B	知的障害者	後見	第2期	練馬区長	H20.11	練馬区社協	
C	認知症高齢者	後見	第1期	練馬区長	H21.1	練馬区社協	H21.4 被後見人 死亡により終了
D	認知症高齢者	後見	第2期	練馬区長	H21.6	練馬区社協	H27.3 被後見人 死亡により終了
E	精神障害者・ 認知症高齢者	後見	第2期	練馬区長	H23.4	練馬区社協	H26.10 被後見人 死亡により終了
F	認知症高齢者	後見	第5期	練馬区長	H24.2	練馬区社協	H26.2 被後見人 死亡により終了
G	認知症高齢者	後見	第5期	練馬区長	H24.8	練馬区社協	H26.3 被後見人 死亡により終了
H	精神障害者 認知症高齢者	後見	第6期	練馬区長	H24.9	練馬区社協	H26.10 被後見人 死亡により終了
I	認知症高齢者	後見	第6期	練馬区長	H24.12	練馬区社協	
J	認知症高齢者	後見	第7期	練馬区長	H25.4	練馬区社協	H25.8 専門職への引き継ぎ により終了
K	認知症高齢者	後見	第7期	練馬区長	H25.12	練馬区社協	
L	認知症高齢者	後見	第7期	練馬区長	H26.2	練馬区社協	
M	認知症高齢者	後見	第7期	練馬区長	H26.7	練馬区社協	※Jの後見人と同一 H27.2 被後見人 死亡により 終了

4. 組織運営

(1) 運営委員会の開催

円滑で適正なセンター運営および事業の透明性・公平性確保のため、また、機能拡充を図るための具体的な取り組みについて協議を行った。

開催回数	場 所	内 容
全 5 回	・練馬区役所 503 会議室 (2 回) ・練馬区役所 701 会議室 (1 回) ・練馬区役所 1905 会議室 (1 回) ・練馬区役所 1906 会議室 (1 回)	年間事業計画および事業報告、社会貢献型後見人養成事業・後見監督業務報告他、権利擁護センター各事業についての協議・検討

(2) 生活支援員定例会 * 現任生活支援員数 [30 名]

事例検討や災害時連絡の訓練、支援に関する法律や支援方法についての研修会等を外部からの講師を招いて行った。また、城西ブロック社会福祉協議会合同での生活支援員研修にも参加し、支援者の視点と役割について学んだ。

実施回数	内 容
全 6 回	①関連情報の提供・交換 ②事業実施状況報告 ③ケース検討 ④活動報告 ⑤テーマ別研修 ⑥自主研修 ⑦意見交換 ⑧災害用伝言ダイヤル訓練など

(3) その他練馬区の連絡会・協議会などへの参加

精神保健福祉関係者連絡会、地域包括支援センター運営協議会、地域密着型サービス運営協議会、地域包括支援センターケア会議、悪質商法高齢者被害防止ネットワーク会議、自立支援協議会権利擁護部会など練馬区における関係機関の連絡会・協議会等に参加し、情報交換や高齢者・障害者の生活に関する協議を行った。

【練馬障害福祉人材育成・研修センター】

障害福祉サービスを担う人材育成と事業所におけるサービス提供の質の向上を図るために、障害福祉サービスに係る研修体制を整え、事業所における高い専門性を持つ人材育成・確保の支援を行った。

1. 練馬障害福祉人材育成・研修センター受託事業

(1) 練馬障害福祉人材育成・研修センター登録状況

事業所向けの研修は、当研修センターへの事業所登録後、各種研修が受講できる仕組みになっている。

＜平成26年度登録状況＞（3月31日現在）

障害福祉サービス区内指定事業所数 308 箇所

練馬障害福祉人材育成・研修センター登録事業所 213 箇所

(2) 学習支援

ア. 基礎研修

障害福祉サービス提供経験が少ない従事者に向け、障害の特性や支援方法等について知識や技術を習得できるように研修プログラムを提供した。

49 回開催 参加事業所数 108 事業所

研修テーマ	回数
基礎研修①障害の特性	23 回
基礎研修②障害福祉概論	3 回
基礎研修③実践研修	4 回
基礎研修④テーマ別研修	12 回
基礎研修⑤制度・施策	7 回

イ. 階層別研修

中堅職員、管理者等の階層に応じた研修プログラムを提供し問題解決の向上を図った。

32 回開催 参加事業所数 73 事業所

研修テーマ	回数
専門知識①事例検討	2 回
専門知識②テーマ別研修	30 回

ウ. 啓発研修

練馬障害福祉人材育成・研修センターの開所式と併せて、障害者支援に関心のある方を対象に、障害についての知識や理解を高める研修を2回実施した。

開催日時	10月24日(金)14:00~16:00	参加者	57名
タイトル	誰も排除しない・されない共生社会をつくろう～障害者権利条約の目指すもの～		
	講師：今村登氏(認定NPO)DPI 日本会議 事務局次長 NPO 法人自立生活センターSTEP えどがわ事務局長		

開催日時	2月1日(日)13:30~16:00	参加者	119名
タイトル	「障がい」とは何か?」を考えよう		
	基調講演 高山直樹氏(東洋大学教授)		
	パネルディスカッション パネリスト：小山武彦氏(障害当事者) 河相富貴子氏(障害当事者) 関口方子氏(障害当事者)		
	コメンテーター：的野碩朗氏(練馬障害福祉人材育成・研修センター運営委員) 長澤泉氏(練馬障害福祉人材育成・研修センター運営委員)		

エ. 練馬介護人材育成・研修センターとの連携

練馬介護人材育成・研修センターと協力し、共通するテーマについての研修を共催した。また、企画している研修を相互に乗り入れる相互受講研修を行い、障害福祉、高齢者福祉の分野の垣根のない連携を行った。

(ア) 平成 26 年度共催研修実施について
平成 26 年度は 2 回の共催研修を実施した。

開催日時	7 月 28 日(月)10:00~12:00	参加者	30 名 (障害福祉サービス計 12 名、 介護保険サービス計 18 名)
タイトル	聴覚障害者の支援～重複・高齢期を中心に～ 講師：社会福祉法人 埼玉聴覚障害者福祉会 特別養護老人ホーム ななふく苑 施設長 速水 千穂 氏 会場：練馬区立区民・産業プラザ 3 階 Coconeri ホール		

開催日時	10 月 17 日(金)10:00~12:00	参加者	30 名 (障害福祉サービス計 4 名、 介護保険サービス計 26 名)
タイトル	精神障害者の高齢期を支援するために 講師：光が丘保健相談所 所長 宮原 恵子 氏 会場：石神井庁舎 5 階 会議室 1、2、3		

(イ) 相互受講研修について

練馬介護人材育成・研修センターと当研修センターでそれぞれ開催している研修に双方の登録事業所が参加できる研修を実施した。

a. 練馬障害福祉人材育成・研修センター乗り入れ研修参加状況(平成 27 年 3 月末現在)

開催日時	研修種別	研修名	人数
5 月 8 日	基礎研修 3	視覚障害者の支援～当事者の方から学ぶ視覚障害者の支援～	2
5 月 28 日	基礎研修 1	精神障害の特性と支援方法について～ホームヘルパー編～	3
6 月 4 日	基礎研修 1	精神障害の特性と支援方法について ～地域で共に働くスタイルを実践する～	5
6 月 18 日	基礎研修 3	身体障害者の支援～頸髄損傷の方から学ぶ身体障害者の支援～	4
7 月 25 日	基礎研修 3	知的障害者の支援～体験から学ぶ知的障害者の支援～	3
7 月 31 日	基礎研修 5	障害福祉サービスの制度・練馬区の施策について ～障害者総合支援法を中心に～	10
9 月 18 日	基礎研修 4	高次脳機能障害の特性と理解について	8
9 月 25 日	基礎研修 2	専門職として必ずきいておきたい障害福祉概論	6
10 月 23 日	基礎研修 2	聴覚障害者の支援～当事者から学ぶ聴覚障害者の支援～	2
12 月 11 日	基礎研修 3	知的障害者の高齢化～障害者とその家族の高齢化に向けた支援～	4
1 月 25 日	階層別研修 2	S S T リーダー養成研修 初級編	0
1 月 26 日	基礎研修 4	難病・医療的ケアの必要な方への支援	11
合計			58

b. 介護人材育成・研修センター乗り入れ研修参加状況(平成 27 年 3 月末現在)

開催日時	研修名	人数
5 月 14 日	室内衛生管理の基本と実際	3
5 月 20 日	介護現場の接遇～援助技術としての接遇マナー向上のために～	3
6 月 2 日	働きやすい職場づくり講習会 (一般職員向け) 前向きな物事の捉え方 ～ポジティブ思考～	1
6 月 17 日	労務管理のポイント転ばぬ先の杖! 事前に食い止める労務トラブル!	0
7 月 3 日	安全で安心な介護技術 1 ②在宅での介護場面を中心に	1
7 月 10 日	新任研修	0
9 月 5 日	安全で安心な介護技術 1 ①移動・移乗の基本	1
9 月 25 日	働きやすい職場づくり講習会 管理者向け 事例検討から学ぶ! 職場のハラスメントにおける リーダーの責務と役割	1

10月6日	働きやすい職場づくり講習会（管理者向け） より良い関係づくり ～困ったときのコミュニケーション～	0
10月15日	トラブルになりやすい事故の事例検討	0
11月12日	リスクマネジメント事例検討 施設・通所	1
11月28日	相談援助の理論と実際 1回目/全5回	0
2月27日	働きやすい職場づくり講習会（管理者向け） 人を育てるスキル ～コーチングスキル～	1
合計		12

オ. アンケート実施

障害福祉サービス事業所に対し、研修センターのサービス充実の為、各事業所で取り組んでいる職員研修や研修センター事業等についてアンケートを実施し、区内の事業所の実態把握をした。

(ア) 平成 26 年 12 月実施 アンケート回答率 40% (317 事業所中 127 事業所)

カ. その他

(ア) 登録事業所への研修周知(月 2 回メール)

(イ) 未登録事業所への定期的な登録の呼びかけ(月 2 回 FAX)

(3) 連携支援

近隣地域で障害福祉サービス事業所の集まりを設け、事業所同士が情報交換を通じて課題等を共有し、連携する機会を設けた。

豊玉・練馬近隣地域と西大泉・南大泉近隣地域に加え、石神井地域の 3 地区にて実施し、それぞれの地域で顔の見える関係を作ることができ、共通の課題やテーマを話し合うことができた。また、それぞれの地域で課題に即した研修会や、事業所間で体験研修を行うなどより深い連携ができた。

ア. 豊玉・練馬近隣地域

豊玉障害者地域生活支援センターきららを拠点として情報交換会を年 4 回実施した。

開催回数	参加事業所数	内容
4 回 (5・7・9・1月)	9 事業所 日中系サービス 3 訪問系サービス 1 相談支援事業所 1 地域活動支援事業所 1 居宅介護支援事業所 2 有償家事援助サービス 1	各事業所の現状・抱える課題等について事業所間でともに考える場をつくり研修会のテーマ等についても話し合った。

イ. 西大泉・南大泉近隣地域

大泉ボランティア・地域福祉推進コーナーも参加し、参加事業所の拠点の見学を兼ね巡回しながら情報交換会を年 5 回実施した。

開催回数	参加事業所数	内容
5 回 (6・8・10・12・2月)	7 事業所等 日中系サービス 2 訪問系サービス 2 居住系サービス 1 その他 2	各事業所の現状・抱える課題等について事業所間でともに考える場をつくり体験研修の内容等についても話し合った。

ウ. 石神井近隣地域

大泉ボランティア・地域福祉推進コーナーも参加し、石神井障害者地域生活支援センターういんぐを拠点として情報交換会を 5 回実施した。

開催回数	参加事業所数	内容
5 回 (6・8・10・12・2月)	13 事業所等 日中系サービス 5 訪問系サービス 1 地域活動支援事業所 1 居住系サービス 1 児童系サービス 1 居宅介護支援事業所 1 その他 3	各事業所の現状・抱える課題等について事業所間でともに考える場をつくり研修の内容等についても話し合った。

(4) 情報支援

ア. 専用ホームページ運用

従事者が手軽にアクセスし、障害福祉サービスに関する必要な情報を得られるように専用ホームページを運営した。

(ア) 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月までのアクセス件数 11,021 件

イ. 情報提供

毎週 1 回、法令制度、他機関研修、お知らせなど障害福祉サービスに関する情報をホームページにて周知した。

(5) 広報

ア. 研修センターだよりの発行

研修センターだよりを毎月発行し、登録事業所にはメール配信または研修開催時に配布し未登録事業所には研修センターへの登録の促しとともに FAX で配信した。また、ホームページにも随時掲載し研修センター事業の周知に努めた。

イ. Face Book の活用

実施事業について報告等をし、実施事業についての周知するための研修センター専用の公式 Face Book ページを開設した。

(6) 運営協議会の設置

練馬障害福祉人材育成・研修センターを運営するに当たり、事業所等の意見を反映するため、練馬障害福祉人材育成・研修センター運営協議会を設置し3回開催した。

開催回数	場 所	内 容
全3回	・練馬区役所 1902 会議室(1回) ・練馬区役所 1902 会議室(1回) ・練馬区役所 1903 会議室(1回)	センター事業概要について、年間目標・計画について、センター事業取り組み状況報告、事業所アンケートについて、27年度事業計画(案)について等

2. 人材育成の充実に向けた取り組み

(1) 職員研修

業務を通して課題やニーズを認識しながら自らの業務に対する意義を高め、中堅職員に求められる知識・技術・計画力・表現力等を身につけるよう中堅職員研修を企画・実施した。また、計画的実施にあたり中堅職員研修の体系化を行った。

日程	場 所	参加人数	内 容
H26. 11. 27	豊玉障害者地域生活支援センターきらら	14名	① 生活サポートセンターの説明(所長 上野恵子) ② グループディスカッション ③ 総括 地域福祉課 課長河島京美
H27. 3. 26	練馬区役所 20階交流会場	15名	テーマ「メンタルヘルス不全を予防する力をつける」 講師：代々木病院精神科医、認定産業医 天笠崇氏

(2) 地域に向けた人材育成

地域の福祉サービス提供事業所の連携や、職員の資質向上を図るため情報交換会で出された課題をもとに研修会を開催した。また、支援に関する情報の共有化、サービス従事者間の連携を高めることを目的とし、地域密着型連携事業を行った。また、リーダー養成研修修了者有志が集まる機会を設け専門職同士のネットワークづくりに着手した。

ア. 豊玉・練馬近隣地域における研修会の実施(2回)

日程	場 所	参加人数	内 容
H26. 11. 11	ねりま事業所、松の実事業所	12名	施設見学と説明。 介護保険制度についての説明
H27. 3. 17	江古田明和会べるはうす	8名	施設見学

イ. 石神井近隣地域における研修会の実施(3回)

日程	場 所	参加人数	内 容
H26. 8. 4	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	15名	「介護保険制度について」 講師：めぐみの会 ケマネジャー 清水則子氏
H26. 10. 10	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	13名	「障害福祉サービスの制度について」 講師：大泉福祉作業所 施設長古山恵治氏
H27. 1. 27	白百合福祉作業所	7名	大規模改修後の施設見学

【生活サポートセンター】

複合的な課題を抱え経済的にも困難を抱える方が、課題を解決するために一緒に考え、社会保障制度の活用や適切な制度、機関への案内を行うなど、課題解決に向けた道筋を付けられるよう相談支援を行った。

1. 相談事業

複合的な生活課題に基づく相談を幅広く受け止め、解決に向け相談者と一緒に課題の整理を行い、関係者と連携しながら相談支援を行った。

相談としては、失業や病気、障害などのために定期的な収入がない、あるいは収入が不安定な方からの相談が多かった。そのうち債務や滞納などの課題を併せて持つ方が約半数であった。その他、家族の介護や病気、引きこもりなどの課題を抱えている方からの相談も多くみられた。

(1) 初期相談

	内容	平成 26 年度
初期相談	新規相談者	315 名
	(内、起票件数) ※	(185 名)
	他団体からの事業運営に関する問い合わせ	36 件
	団体等からの連携に関する相談	1 件
	計	352 件

※相談者のうち、本人が特定可能で継続的な支援が必要と見込まれた方

(2) 新規相談者の状況

ア. 相談者の年代、性別

年代	実人数	
		構成比
10 歳代	2	0.6%
20 歳代	24	7.6%
30 歳代	40	12.7%
40 歳代	60	19.0%
50 歳代	42	13.3%
60 歳代	36	11.4%
70 歳代	38	12.1%
80 歳代	14	4.4%
不明	59	18.7%
計	315	100%

性別	人数	(構成比)
男性	164 名	52.1%
女性	144 名	45.7%
不明・その他	7 名	2.2%
計	315 名	100%

相談者の年代は 40 代がもっとも多く見られた。また、65 歳以上の高齢者に関する相談も多く見られた。性別では男性が女性よりも若干多い。

イ. 初回の相談経路

件数	本人		家族	知人	社協		区内部の関係機関		民生委員・児童委員	民間事業者	その他*3
	来所	電話			福祉資金	その他*1	福祉事務所(相談係)	その他*2			
315	63	117	21	9	8	7	29	37	3	6	15

*1 その他 権利擁護センター、ボランティア・地域福祉推進センター、施設等

*2 その他 福祉事務所のその他の係、保健相談所、住宅課、清掃事務所等

*3 その他 区議、都消費生活支援センター、レインボーワーク、弁護士、司法書士、不動産屋、匿名等

初回の相談は本人からの相談が最も多い。また、本人を除くと福祉事務所の相談係から紹介を受け相談につながる方が多かった。経済的な課題を含めて、生活費や住まいに関する事など、生活全般に関する相談のため、福祉事務所との連携を取りながら支援を行っている。

ウ. 初回の相談内容（相談者 315 名）※複数回答

病気・健康・障害	住まい	収入・生活費	家賃・ローンの支払い	税金・公共料金等の支払い	債務	仕事探し・就職	仕事上の不安・トラブル	地域との関係	家族関係・人間関係	子育て・介護	引きこもり・不登校	DV・虐待	食べるものがない	その他
73	46	214	61	59	33	86	7	1	20	16	12	7	7	32

相談者の初回相談は離職等により収入がなくなったり減少した方や、日々の生活費が不足しての相談が多かった。また、離職後の仕事探しの相談や病気や障害があるために生活に困窮している方の相談も多かった。継続した支援を行っている方の多くが複合的な課題を抱えている。

エ. 対応状況

支援中のもの	本人同意なし	生活サポートセンターで相談支援中	109
	本人同意あり	自立相談支援事業のプラン策定（図1参照）に至っていないが、他の制度や専門機関で連携して支援中のもの	82
		自立相談支援事業のプランを策定し支援しているもの	7
情報提供や相談対応のみで終了したもの			105
終結（本人同意あり）したもの	他の関係部署、他の専門機関につないだ※		12
	連絡が取れない、転居等で連絡が途絶えた（再開の目途が立たない）		0
計			315

※福祉事務所へ案内し、生活保護受給に至った方。

本人の同意の有無にかかわらず、長期的な支援を行っている方も多い。情報提供のみの場合は、貸付や他制度の利用など相談内容が明確な場合が多い。

オ. 課題が改善した事例（一部）

- (ア) 収入に比べて支出が多く、改善することが難しかった家庭の家計相談を行い、住宅ローンの見直しで年間 50 万円程度の支出の削減ができた。
- (イ) 離職後減収し、生活の見通しが立てられなかったが雇用保険の活用を案内し、基本手当を受給し生計を改善することができた。
- (ウ) 収入が不安定で、一時的に収入が支出を下回り、公共料金などを滞納していたため不安な生活を送っていた。家計を見直すことで、計画的な支出を意識するようになり、滞納が改善し、不安が軽減した。
- (エ) 相談者が本人の困りごとだけでなく友人の困りごとについて当センターに相談し、その助言に基づいて友人に相談先を案内したところ、制度が利用でき相談者の友人の課題解決につながった。

(3) 相談方法

相談方法 （問合せを含む延べ件数）	電話	1,798 件
	来所	282 件
	同行・訪問	274 件
	その他	30 件
	計	2,384 件

電話による相談が最も多いが、訪問での相談や、関係機関への同行なども行った。

2. 広報周知

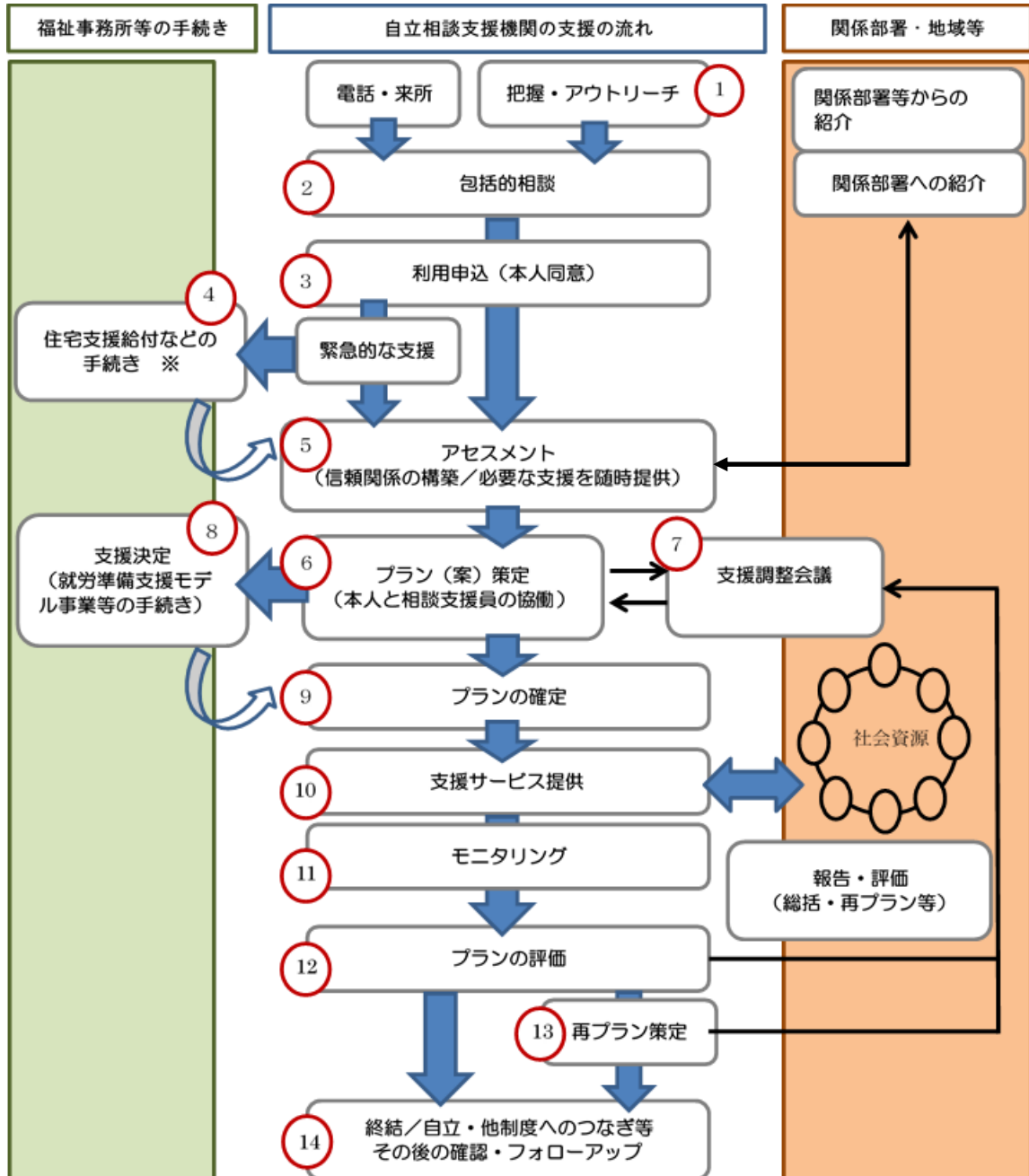
モデル事業実施のためのチラシ作成と社協ホームページの更新や行政機関のホームページなどを活用し、周知を行った。また、7月1日付区報にて窓口開設の案内をした。そのほか、関係機関の実施する会議などに参加し、センターと制度の案内を行った。

平成27年度の生活困窮者自立支援法の本施行に向けたチラシを作成した。平成27年3月21日付け区報にて再度窓口の案内をし、あわせて住居確保給付金の周知も行った。

3. 生活困窮者自立促進支援モデル事業

平成26年度は、生活困窮者自立促進支援モデル事業の自立相談支援事業と家計相談支援事業を受託し、相談支援を行った。生活困窮者自立促進モデル事業の相談支援の仕組みと流れについては図1参照。

図1 生活困窮者自立促進支援モデル事業の相談支援の仕組みと流れ図



※平成27年度から住宅支援給付は「住居確保給付金」として実施

(1) 自立相談支援事業

生活困窮者自立促進支援モデル事業に基づいて、集計ツールを活用して実績を入力し、国へ報告を行った。また、自立相談支援の流れとして、継続した支援を行う方で同意が得られた方は自立相談支援事業のプランを作成し、支援調整会議での検討を随時行った。プラン作成後にはモニタリングやプランの評価も行い、継続的な支援を行っている。

国へ報告する生活困窮者の対象者は、74 ページの 1 (1) の相談者 (315 名) のうち、本人が特定可能で継続的な支援が必要と見込まれた 185 名である。(起票件数という)

(2) 家計相談支援事業

平成 26 年度は家計相談支援事業を受託し、複合的な相談への対応の一つとして、27 名に対して相談者と一緒に家計表を作成し、毎月の支払計画をたてるなど家計相談の支援を行った。また、相談者に対し、関係機関での貸付を利用できるか確認し、担当窓口につなぎ、債務が多い方には債務整理について案内するなどした。

(3) 支援調整会議の実施

自立相談支援事業のプランの内容が適切なものであるか、合議体形式で判断し、関係機関と役割分担等共通認識を持つ機会とした。また、支援の継続や終結についても判断した。平成 26 年度はのべ 8 回実施し、プランについて決定、確認を行った。

4. 地域のネットワークづくり

(1) 関係機関との情報共有

新たな事業として、様々な関係機関と連携して課題解決に向けた支援を行うため、区内外の関係する機関延べ 28 か所の視察や見学、連携のための情報共有などを行った。

(2) 地域の団体などへ向けた説明

地域に出向いて以下の会議などに参加し、本事業について説明を行った。

練馬保護司会、中村ミニ地域ケア会議、豊玉ミニ地域ケア会議、練馬区社会福祉事業団地域支援課支所担当者会議

(3) 運営委員会の開催

生活困難者の支援を行っている様々な分野の関係者で委員会を構成し、事業や運営方法の検討、事業実施によって明らかになった地域課題の共有・情報交換を行い、生活困難者を支える地域づくりについて話し合った。

	開催日時	内容
第 1 回	平成 26 年 12 月 15 日 14 時～16 時	委員委嘱 センター開設の経緯、事業概要について 実績報告 意見交換
第 2 回	平成 27 年 3 月 9 日 14 時～16 時	実績報告 平成 27 年度事業計画について (平成 27 年度実施事業等) 意見交換

(4) 練馬区との連携、調整

事業実施にあたり、区の生活困窮者自立支援対策推進会議連絡部会にオブザーバーとして参加し、制度の運用や実施について一緒に確認を行った。また、福祉事務所の相談係長会に参加し、事業に関する情報交換を行い役割分担や支援方法について話し合いを行った。

5. 人材育成

(1) 研修の企画・実施、参加

生活困窮者の支援にかかる研修の実施を行った。新たな事業実施にあたり、相談者へ適切な助言や支援ができるように、関連する知識の研修を行った。また、国が定める養成研修に参加した。

ア. 生活サポートセンターが企画した研修

社協内の相談援助技術向上のため、他の部署に参加を呼びかけた。また、区の関連部署にも参加を呼び掛けた。

	内容	講師	参加者数
1	社会保障制度について①②③④	田園調布大学准教授 今井伸氏	延べ 55 名
2	債務整理等法的課題について	弁護士 森川清氏	15 名
3	家計相談にかかわる研修①②③	生活サポート基金	延べ 51 名

イ. 国が定める養成研修

	内容	参加者数
1	主任相談支援員養成研修(前半・後半)	1 名
2	相談支援員養成研修(前半・後半)	1 名
3	就労支援員養成研修(前半・後半)	1 名

ウ. 事業実施に関連し参加した研修

	内容	研修の種別	参加者数
1	住宅支援給付・就労サポート事業について	センター職員向け研修	5 名
2	生活保護について	センター職員向け研修	5 名
4	家計相談支援員実践研修	グリーンコープ研修	2 名
7	主任相談支援員 スキルアップ研修	社会福祉士会研修	1 名
8	民生委員・児童委員生活福祉資金研修会		1 名
9	引きこもり問題の社会的理解・支援の促進		2 名

(3) ケース検討やスーパーバイザーによる助言

より良い支援を行うため、定期的にセンター内でのケース検討や月に一度スーパーバイザーを交えてのケース検討を行い、多様な相談への対応方法の共有を図った。さらに毎朝ミーティングを実施し、相談者に関する情報を共有し、支援方法・方針について話し合いを行った。

6. 組織運営

(1) センター会議の実施

およそ月に2回センター会議を開催し、職員全員で事業の進捗状況の確認、および情報共有を行い、センターの事業推進について話し合った。

(2) 社協内連携

中堅職員研修にて生活サポートセンターの事業説明を行い、相談者の支援では地域福祉コーディネーターや生活福祉資金担当者、地域生活支援センターと連携しながら行った。

【資料】 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

理事 (任期 : 26. 2. 7 から 28. 2. 6 まで)

氏名	選出分野	氏名	選出分野	氏名	選出分野
上野 定雄	会長、学識経験	山浦 成子	ボランティア	杉浦 剛	民生児童委員
大村 宣雄	副会長、学識経験	木内 幹雄	産業経済	高山 喜一郎	産業経済
篠 利雄	副会長、産業経済	緒方 孝則	学識経験	小林 元子	学識経験
大江 義宏	副会長、民生委員	田口 博一	民生児童委員	中田 圭太郎	行政職員 (~H26. 6)
				大羽 康弘	行政職員 (H26. 7~)
伊部 美佐子	福祉団体	渡邊 雍重	町会関係	植田 敏裕	練馬区社協常務理事 (~H26. 6)
				室地 隆彦	練馬区社協常務理事 (H26. 7~)

監事 (任期 : 26. 2. 7 から 28. 2. 6 まで)

中川 剛 (学識経験)	三橋 道子 (学識経験)
-------------	--------------

評議員 (任期 : 26. 2. 4 から 28. 2. 3 まで)

氏名	選出分野	氏名	選出分野	氏名	選出分野	氏名	選出分野
内田 哲男	民生児童委員	栗原 秀雄	民生児童委員	三宅 陽子	福祉団体	小林 利生	学識経験
辻 昌子	民生児童委員	古畑 弘子	民生児童委員	古川 重子	福祉団体	古橋千重子	行政職員
倅田 茂雄	民生児童委員	尾崎 勝美	民生児童委員	土田 秀行	福祉施設	角井 稔	行政職員 (~H26. 6)
寺沢 明子	民生児童委員	田中 義和	民生児童委員	高橋 八映	福祉施設	金崎 耕二	行政職員 (H26. 7~)
石田 芳子	民生児童委員	大島 光昭	民生児童委員	齋藤 洋	福祉施設	風間 康子	行政職員
田中 敏	民生児童委員	平野 文男	民生児童委員	林田 俊弘	福祉施設	枝村 聡	行政職員 (~H26. 6)
成尾 善子	民生児童委員	加藤 和雄	民生児童委員	明星 マサ	福祉施設	尾崎 寛之	行政職員 (H26. 7~)
上野 和重	民生児童委員	尾崎 藤雄	町会関係	山本 雄一	ボランティア	桑原 修	行政職員
芹澤 孝子	民生児童委員	川島 一夫	福祉団体	布施美智子	報道関係	勝又 勝	行政職員
齋藤 幸雄	民生児童委員	重田 栄	福祉団体	阿部 財智	産業経済		

地域福祉活動計画策定・推進評価委員会委員 (任期 : 24. 4. 1 から 27. 3. 31)

氏名	現職等	氏名	現職等
明星 マサ	副委員長 / つくりっこの家クラブハウス理事	森本 佳樹	委員長 / 立教大学教授
飯村 史恵	立教大学准教授	山浦 成子	練馬区社協理事、 ボランティア・地域福祉推進センター運営委員長
河本 道雄	民生児童委員	山本 雄一	練馬区社協評議員、 NPO 法人シニアふれあい練馬代表
木内 幹雄	練馬区社協理事、東京商工会議所練馬支部副会長	森 純一	東京都社会福祉協議会
坂元 信幸	知的障害者通所授産施設 山彦作業所所長	中田 圭太郎	練馬区健康福祉事業本部福祉部長 (~H26. 6)
玉井 弘子	大泉学園まちづくりネット、主任児童委員	大羽 康弘	練馬区健康福祉事業本部福祉部長 (H26. 7~)
林田 道子	しあわせ福祉ネット・関代表	植田 敏裕	練馬区社協常務理事 (~H26. 6)
		室地 隆彦	練馬区社協常務理事 (H26. 7~)

苦情解決第三者委員会委員 (任期 : 25. 11. 27 から 27. 11. 26 まで)

岩本 康一郎 (弁護士)	坂元 信幸 (学識経験)	辻 昌子 (民生児童委員)
--------------	--------------	---------------

生活福祉資金調査委員会委員 (任期 : 25. 4. 1 から 27. 3. 31 まで)

氏名	現職等	氏名	現職等
富永 愛子	委員長 / 民生児童委員	上山 浩司	司法書士
平野 文男	副委員長 / 民生児童委員	内田 哲男	民生児童委員
古賀 貢	練馬区商店街連合会	横山 敏子	民生児童委員
鈴木満里子	障害者福祉関係者	遠藤 裕子	練馬区健康福祉事業本部大泉総合福祉事務所長

ねりま歳末たすけあい運動推進委員会委員（任期：25.11.28から27.11.27まで）

東京都共同募金会練馬地区協力会 練馬地区配分推せん委員会委員（任期：25.6.3から27.6.2まで）

氏名	現職等	氏名	現職等
小美濃 千鶴子	委員長	山浦 成子	ボランティア・地域福祉推進センター運営委員長、練馬区社会福祉協議会理事
関口 嗣男	副委員長	間瀬 達成	東京都社会福祉協議会
大江 義宏	民生児童委員協議会代表会長、練馬区社協理事	古橋 千重子	練馬区福祉部参事経営課長事務取扱
渡邊 雍重	練馬区町会連合会会長、練馬区社協理事	植田 敏裕	練馬区社協常務理事（～H26.6）
関口 和雄	練馬区障害者就労促進協会理事長	室地 隆彦	練馬区社協常務理事（H26.7～）

練馬区立白百合福祉作業所運営協議会委員（任期：26.4.1から27.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
工藤 智美	白百合福祉作業所利用者	
荒井 健太	白百合福祉作業所利用者	
小泉 かほる	白百合福祉作業所家族会	
満園 明子	白百合福祉作業所家族会	
水野 洋子	白百合福祉作業所家族会	
飯田 由美子	白百合福祉作業所家族会	
棚橋 義一	地域住民・ボランティア	
加藤 眞一	地域住民・ボランティア	
角井 稔	練馬区障害者施策推進課長（～H26.6）	
金崎 耕二	練馬区障害者施策推進課長（H26.7～）	
水元 幸子	練馬区障害者施策推進課就労支援係長	副委員長
椿 康宏	練馬区社会福祉協議会経営管理課長	
大垣 喜久江	白百合福祉作業所長	委員長
竹内 直美	白百合福祉作業所職員	
中村 彦也	白百合福祉作業所職員	

練馬区立かたくり福祉作業所運営協議会委員（任期：26.4.1から27.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
三戸 英一	大泉町3丁目町会長	
渡辺 芳江	かたくり福祉作業所家族会	副委員長
小林 達子	かたくり福祉作業所家族会	副委員長
宮内 啓子	かたくり福祉作業所家族会	副委員長
芝山 眞喜子	かたくり福祉作業所利用者	
三原 勇乃	かたくり福祉作業所利用者	
吉野 紀代子	地域住民・ボランティア	
赤尾 眞司	練馬区立大泉第一小学校校長	
木村 文孝	練馬区立大泉町福祉園施設長	
角井 稔	練馬区障害者施策推進課長（～H26.6）	
金崎 耕二	練馬区障害者施策推進課長（H26.7～）	
水元 幸子	練馬区障害者施策推進課就労支援係長	
菊池 貴代子	かたくり福祉作業所長	委員長
出口 育代	かたくり福祉作業所職員	

豊玉障害者地域生活支援センターきらら運営委員会委員（任期：25.4.1から27.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
明星 マサ	つくりっこの家クラブハウス理事	委員長
木内 知己	町会商店会関係	
国島 良臣	ボランティア	
佐藤 英明	NPO 法人練馬精神障害者家族会副理事長	
高梨 文雄	東京都精神障害者団体連合会代表	副委員長
田辺 安之	大泉病院地域医療連携室室長	
橋本 邦子	家族	
山田 直毅	町会商店会関係	
角井 稔	練馬区障害者施策推進課長（～H26.6）	
金崎 耕二	練馬区障害者施策推進課長（H26.7～）	
椿 康宏	練馬区社会福祉協議会経営管理課長	
岩田 敏洋	豊玉障害者地域生活支援センターきらら所長	

豊玉障害者地域生活支援センターきらら 練馬区障害者地域自立支援協議会専門部会委員
（任期：25.4.1から27.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
森山 瑞江	練馬手をつなぐ親の会会長	
田中 康子	練馬肢体不自由児者父母の会副会長	
佐藤 英明	NPO 法人練馬精神障害者家族会副理事長	
柴田 秀治	社会福祉法人江古田明和会えごのみ施設長	
田辺 安之	大泉病院地域医療連携室室長	
小嶋 康裕	練馬区立氷川台福祉園副園長	
酒井 英子	光が丘保健相談所地域保健係次席	
野口 一徳	練馬総合福祉事務所高齢者支援係長（～H26.9）	
椎木 郁子	練馬総合福祉事務所高齢者支援係長（H26.10～）	
中村 博志	中村橋福祉ケアセンター中途障害者通所事業管理者	
斎藤 敦	練馬区障害者施策推進課事業計画担当係長	
望月 幸子	練馬区障害者施策推進課事業計画担当係	
渡辺 美由樹	練馬区障害者施策推進課事業計画担当係	
椿 康宏	練馬区社会福祉協議会経営管理課長	
岩田 敏洋	豊玉障害者地域生活支援センターきらら所長	
岩崎 貴子	豊玉障害者地域生活支援センターきらら職員	

石神井障害者地域生活支援センターういんぐ運営委員会委員（任期：25.4.1から27.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
長澤 泉	区内在住当事者	副委員長
松沢 勝	NPO 法人練馬精神障害者家族会理事長	
伊藤 郁子	茶道ボランティア（きらら・ういんぐ）	
佐藤 真須美	石神井町会婦人部会員	
藤田 庄子	特定非営利法人 NPO 福祉サロン代表	
飯島 又三	ワークショップ石神井所長（就労継続支援 B 型事業）	委員長
山本 雄一	練馬区社会福祉協議会評議員、NPO 法人シニアふれあい練馬代表	
亀山 千恵子	練馬区立男女共同参画センターえーる所長	
別司 新奈	NPO 法人サニーサイド ケアサポートサニーサイド	
角井 稔	練馬区障害者施策推進課長（～H26.6）	
金崎 耕二	練馬区障害者施策推進課長（H26.7～）	
椿 康宏	練馬区社会福祉協議会経営管理課長	
千葉 三和子	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ所長	

石神井障害者地域生活支援センターういんぐ 練馬区障害者地域自立支援協議会専門部会委員
(任期：25.4.1から27.3.31まで)

氏名	所属等	役割等
金井 仁夫	グループホーム和泉管理者	
古畑 弘子	練馬区民生児童委員協議会 石神井町・下石神井地区会長	
金杉 和夫	一般社団法人練馬区医師会理事	
鈴木 英典	ほっとすぱーす練馬所長	
渡辺 智生	練馬山彦福祉会やまびこ三原荘サービス管理責任者・世話人	
飯島 又三	ワークショップ石神井所長	
齋藤 健	大泉病院 社会医療部相談課	
熊谷 彰人	陽和病院社会療養部長	
雄谷 江利子	慈雲堂病院地域連携室係長	
河野 広子	中部総合精神保健福祉センター地域整備担当係長	
渡瀬 菜穂子	大泉総合福祉事務所保護第四係	
徳永 ゆかり	石神井保健相談所地域保健係長	
齋藤 敦	練馬区障害者施策推進課事業計画担当係長	
望月 幸子	練馬区障害者施策推進課事業計画担当係	
渡辺 美由樹	練馬区障害者施策推進課事業計画担当係	
椿 康宏	練馬区社会福祉協議会経営管理課長	
千葉 三和子	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ所長	
林 優子	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ職員	
下川 ゆき子	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ職員	

ボランティア・地域福祉推進センター運営委員会委員 (任期：26.4.1から28.3.31まで)

氏名	所属等	役割等
伊藤 郁子	ボランティアグループなしのみ代表、ママヘルプ代表	
河本 道雄	民生児童委員	
関 和子	スマートAT研究会代表	
森本 佳樹	立教大学コミュニティ福祉学部教授	副委員長
山浦 成子	練馬区社会福祉協議会理事、ねりま子育てネットワーク代表	委員長
永野 攝子	NPO 法人むすび理事長	
玉井 弘子	大泉学園まちづくりネット、主任児童委員	
須藤 朔宏	しあわせ福祉ネット・関	
小林 ひろみ	練馬区練馬高齢者相談センター練馬区役所支所	
古橋 千重子	練馬区経営課長	
河島 京美	練馬区社会福祉協議会地域福祉課長	

権利擁護センターほっとサポートねりま運営委員会委員 (任期：26.4.1から28.3.31まで)

氏名	所属等	役割等
飯村 史恵	立教大学准教授	副委員長
明星 巖	社団法人成年後見センター「リーガルサポート」東京支部	
松澤 勝	NPO 法人練馬精神障害者家族会 理事長	
土肥 尚子	東京弁護士会高齢者・障害者総合支援センター「オアシス」	委員長
中島 加代子	認知症の人を支える家族の会「木瓜の花」代表	
中村 妙子	社団法人東京社会福祉士会権利擁護センター「ばあとなあ東京」	
長谷川 和子	区立福祉園父母の会連絡会副代表	
小泉 晴子	NPO 法人成年後見推進ネットこれから理事長	
古橋 千重子	練馬区経営課長	
河島 京美	練馬区社会福祉協議会地域福祉課長	

練馬障害福祉人材育成・研修センター運営協議会委員（任期：25.6.18から27.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
高山 直樹	東洋大学社会学部社会福祉学科教授	委員長
中島 修	文京学院大学人間学部人間福祉学科准教授	副委員長
中村 圭吾	株式会社ケアサービス伊東介護事業部事業課長・サービス提供責任者	※障事連
鈴木 英典	特定非営利活動法人ほっとすぺーす ほっとすぺーす練馬所長	※障事連
渡辺 智生	練馬山彦福祉会やまびこ三原荘サービス管理責任者・世話人	※障事連
的野 碩郎	練馬区視覚障害者福祉協会会長、練馬区障害者団体連合会会長	※※障団連
市川 明臣	練馬区聴覚障害者協会会長、練馬区障害者団体連合会副会長	※※障団連
清水 則子	株式会社メディカル・アート居宅介護支援めぐみの会（～H26.12）	※※※事連協
松田 章子	有限会社 愛介護サービス代表（H27.1～）	
鴨治 慎吾	区内在住当事者	
長澤 泉	区内在住当事者	
日比野 敏子	当事者家族	
河野 敦子	練馬区社会福祉事業団サービス向上担当課課長 練馬介護人材育成・研修センター所長	練馬介護人材育成・研修センター
山崎 直子	練馬区福祉部障害者サービス調整担当課長	行政
河島 京美	練馬区社会福祉協議会地域福祉課長	

※練馬区障害福祉サービス事業者連絡会

※※練馬区障害者団体連合会

※※※練馬区介護サービス事業者連絡協議会

生活サポートセンター運営委員会委員（任期：26.12.15から28.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
今井 伸	田園調布学園大学准教授	
藤田 孝典	NP0 法人ほっとプラス代表理事	
山本 悠一	弁護士	
大江 義宏	民生児童委員代表会長・保護司	
井口 正樹	民生児童委員・保護司	委員長
佐藤 多佳子	主任児童委員	
山浦 成子	練馬区社会福祉協議会理事、ねりま子育てネットワーク代表	副委員長
佐藤 礼子	ねりま若者サポートステーション所長	
中迫 誠	社会福祉法人練馬区社会福祉事業団大泉特別養護老人ホーム施設長	
宮原 恵子	練馬区健康部光が丘保健相談所長	
島添 悟亨	練馬区福祉施策調整担当課長	
河島 京美	練馬区社会福祉協議会地域福祉課長	

職員の配置状況（平成27年3月31日現在）

（単位：人）

	経営管理課					地域福祉課				合計
	総務係	白百合	かたくり	きらら	ういんぐ	ボラセン	ほっと	研修センター	生活SC	
事務局長	1									1
課長	1					1				2
所長		1	1	1	1	1	1	1	1	8
副所長						1				1
事務	常勤職員	8	1	1		6	5	1	3	25
	非常勤職員	8				7	3	2	1	21
支援員	常勤職員		6	11	4	4				25
	非常勤職員		4	6	1	1				12
作業員		1								1
看護師		1	1							2
栄養士			1							1
嘱託医		1	1							2
生活支援員（非常勤）							30			30
スーパーバイザー					1					1
臨時職員	6		1	2	2	1	1			13
計	24	15	23	9	8	17	40	4	5	145

*表の構成上、事務局長は経営管理課総務係で、地域福祉課長はボランティア・地域福祉推進センターで人数をカウントしている。また、育児休暇等、休職中の職員も含まれる。